

群馬県梵鐘年表稿

石 田 肇

(社会科教育講座)

序

筆者が群馬県下の梵鐘に関心を持つようになってから既に十五年以上たった。この間、友人と、そして学生達と折を見て現存する第二次大戦以前の梵鐘を訪ね、計測・採拓・撮影などをし、あるいは地方誌関係の著作から梵鐘関係の記事を集めてきた。昨年来、思うところあって、現在把握している群馬県に関わる梵鐘の年表をまとめておく気持ちになり、本年、時間の都合をつけて集中的に現存鐘を調べ、また梵鐘があったことがわかっていない寺院などに電話で存亡についての問い合わせをした。もちろん群馬県下の全寺院に問い合わせるわけにもゆかず、かつて梵鐘があったことがわかっても連絡できなかった寺院があったり、存在を確認しながら未調査のものも数あるし、殿鐘や火の見櫓の半鐘のように調査の行き届かないものも数多い。また各寺院に電話で尋ねたところ、予想外に殿鐘の類が供出されずに存

在していることがわかり、このような次第で忸怩たる内容で不十分ではあるが(註一)、あくまでも年表稿として報告する次第である。本来は悉皆調査を行うべきではあるが、個人の力では到底出来るはずはなく、この報告を契機に梵鐘並びに金属供出(註二)に対する関心が高まり、市町村単位での調査・報告が進むことを期待したい(註三)。

この間の昭和五十八年五月、故坪井良平より、群馬大学で考古学の教授であった故尾崎喜左雄から戦後二・三年へた頃の考古学協会総会の席上で頂戴したという第二次大戦前の梵鐘年表のコピーを送付された。この年表は群馬県に関わる梵鐘二七五口を一覧表にしたもので(註四)、坪井によれば誰がどこで作製したか、尾崎との間で話題にならなかったという。尾崎を知る何人かの人にこの年表を見せたところ、尾崎の筆跡ではないという。後述のごとく、第二次大戦中の金属供出の折に梵鐘について調査をした人はかなりおり、尾崎自身も梵鐘の調査をしたことが知られるが、ともあれ、現在のところ、この年表の作成者は不明である。この年表に挙げられたデータは貴重なもの

で、他の様々な記録に比べると量的には最多といえよう。筆者の調査のうえで大いに役立ってくれた次第である。又この年表は公表されていず、コピーを持っている人もわずかであろう。小稿はこの年表を公にする意味も持っている。

金属供出の折に、梵鐘について記録を残した人々を前記尾崎以外に何人かをあげると、『毛野』五五号（昭和十八年三月）には、「（岩澤正作は）一月末遂に豫定の梵鐘一百の外に半鐘十六口打拓されたが、梵鐘一百口の内には保存と内定されたものが十六口あるので、二月中に供出鐘十六口補充し尚八口を増して一百〇八口となすべく努力してゐられるが、本稿執筆當時既に一百一十口となったその内譯は高崎三・前橋二・桐生九・伊勢崎三・勢多二十三・佐波十四・山田十一・新田四十一・邑樂五であるが、半鐘を容れると三（一）百二十七打拓されてゐるが尚十三口豫定されてゐる。因に本會員中飯塚多右衛門氏は別稿所報の如く邑樂郡内に於ける梵鐘半鐘合せて一百十二口打拓されてゐる。以上兩氏の外に會員中高崎の本多理一氏が七八十口、新田の糸井藤太郎氏の數十口は打たれたであろう」という記述があり、これらの拓本が後掲凡例に見える岩澤・船戸の拓本であり、飯塚の年表になったわけである。また『箕郷町誌』（昭和五十年）によると本多夏彦（理一）は二百口近く調査したというし、住谷修・都丸九十九・萩原進・金子規矩雄・斉藤義雄・相川龍雄・今井善一郎・鶴淵蛍光・桐生市立図書館員らの名をあげることができる。後掲凡例を参照された

現在、第二次大戦前の梵鐘（洪鐘・大鐘・殿鐘・半鐘など、大きさには関係ない）がいくつ残っているか明確ではないが（註五）、本年表によれば筆者が調査したものと未調査のものを合わせると一九〇口（内、県外三口、県外から流入一口を含む）となり、実際はこの数をかなり上回ることになるであろう。この数は非常に多いという印象を与えるが、殿鐘のような小型ものも含んでいることに注意されたい。現在群馬県下で戦前に鑄造され鐘樓に懸かる（あるいは懸かっていた）大型の梵鐘になると四四口である。

群馬県下にあつた梵鐘で第二次大戦中の金属供出以前のものには後掲の表が示すように、筆者が把握したのは七四〇口である。一見、この数は膨大な数に思われるが、実際に存在した数、そして供出された数は実は本年表稿に示した数以上の数である。それは第二次大戦中の調査が大型の梵鐘に偏っていると推測されること、換言すれば大型のものには鐘樓にあつたためある程度把握しやすく、その多くは供出の対象になったが、小型のものは把握しきれず、また警報用に火の見櫓の鐘に転用されるなどしたために、意外と残っているからである。また梵鐘などの金石や梵鐘の供出に関心を持った人がいたか否かで、地方誌などの記述に詳細の差があり、また供出時の調査についても同様である。それゆえ梵鐘の存亡の記録に関して地域によってかなりの偏りがあることが指摘できよう。桐生市、太田市、館林市、勢多郡、群馬郡、北群馬郡、佐波郡、新田郡、邑樂郡などは比較的詳しく把握されているのであるが、他は寥々たるものである。たとえば、『全国寺

院名鑑』によると邑楽郡の寺院数は七三寺であり、これら寺院の内の五五寺に梵鐘があったことがわかり、約七五％になるが、一方、前橋市は八六寺に対して二一寺であり、約二四％である。かなりの違いがあるといえよう。『全国寺院名鑑』のあげる寺院数は二二〇二寺であり、この点からも実際に存在した数はより膨大な数になり、当然のことながら供出された数も増えることになるわけである。また神社や小さな堂宇にあった梵鐘の数も無視できないといえよう。以下に本年表稿で挙げた梵鐘について表に示すことにする。

	有紀年	無紀年・紀年未詳・紀年不明	無銘	計
存	八五	四	五	九四
存未	六六	二九	一	九六
供出	三四四	四四	二	三九〇
亡	五五	二四		七九
未詳	六九	三		七二
不明	八	一		九
計	六二七	一〇五	八	七四〇

ところで、従来の梵鐘に関する研究は基本的には慶長以前の古鐘を中心とし、いわゆる国分けで地域を区分してきたといえる。慶長以前を中心とするのは江戸時代以来の日本の金石研究の伝統であり、江戸時代にあつてはそれなりの合理性があつたといえるが、今日にあつては当然対象となる時代を下らせなければならぬ(註六)。本年表稿では第二次世界大戦の時期、つまりは金属供出時までを対象とする。江

戸時代、そして明治以降をも対象とすれば、当然のことながら現在の行政区分に基づく地域の区分のほうが便利であるといえよう。幸いにして群馬県はいわゆる上毛・上野とほぼ同じであり、国分けと抵触しない。本年表稿を上野国梵鐘年表稿としなかつた所以である。尚、少数ではあるが県外へ流出したもの、そして県外から流入したのも対象とする。

梵鐘の存在・佚亡に関して、一般には存・亡の二者で示すことが多く、第二次大戦中の金属供出という表現で佚亡を示すことは少ないようであるが、本年表稿では意図的に供出という表現で、その失われた状況を示している。これは如何に多くの梵鐘が金属供出という政策のために失われたかを示すためであつて、あえて供出という表現に拘つたわけである。

本年表稿は不十分ではあるが、今後の研究発展へのために資料のみを示すことを旨とした。それゆえ、これら資料を踏まえ、また新たな資料を増加させたいとの考察は別の機会を待たなければならぬ。今回の資料の整理にあつてはパソコンの作表機能を不十分ではあるが利用しており、資料の増加にはいくらでも対応できそうである。とはいえ作表過程でいくつかのミスを犯しており、落ちてしまった資料があるかもしれないというのが、パソコン初心者である筆者の正直な感想である。ともあれ新しい資料なり、お気づきの点があれば筆者の仕事部屋(註七)へ一報くだされば幸いである。

(註一) 本年表稿のような年表を作成するには、本来は寺院等の番付調査が必要であるが、直接、各寺院を訪ねることは現実には不可能に近い。

地方誌の記述を精査する必要もあるが、本年表稿では筆者の眼にしたもののみによっており、群馬県の地方誌をすべて見ているわけではない。また「上毛新聞」などに供出の記事が掲載されているが、それらを調べているわけでもない。一方、供出時に調査された方々の記録が関係者や各寺院に残っていると推測されるが、それらを十分に調べたわけではない。供出当時の様子を知っている方々がだんだん少なくなっていく現在、早急に調査を進める必要があるといえよう。

(註二) 各県の金属供出の状況については、近年のものでは高橋久敬「天明鑄物江戸期製品数」(『史談』二) 阿蘇史談会 昭和六(一)、齊藤善夫「金属類回収令と富山県の梵鐘始末」(『富山史壇』一〇八・一〇九 越中史壇会 平成四) などいくつかの報告が知られるが、群馬県に関しては研究がなされていないようである。群馬県に関しては各地方誌に關係する記述が散見されるが、『桃野村誌―月夜野町誌・第一集』(昭和二三六) がまとまっており、また住谷修「村日記」(『国府村誌』昭和四三) は当時の状況をよく示している。

(註三) 各地方誌等の記述を見ると、調査方法たとえば計測方法の不統一、録文の不徹底、釈文の誤りが目に付く。これらは致し方がない面もあるのだが、統一された記述方法が求められよう。

(註四) 坪井良平「日本の梵鐘」(昭和四五) には尾崎年表を利用した記述が二二九・二七一頁に見える。

(註五) 群馬県下で残された梵鐘の数を社寺兵事課史蹟主事であった萩原進は「あがつま史帖」(昭和三八・四八増訂) 一九五頁で大体五十ぐらいとし、『北群馬・渋川の歴史』(昭和四六) 六九九頁は「保存条件適合の理由でヤットのこと供出免除になり目出度く元の寺へ帰って来た夢のような梵鐘の数が全県下で大小四十六口あった」とする。本年表に比べると少ない数であるが、鐘樓に懸かる大型の梵鐘が現在四四口残っていることからすると、ここに挙げられた数の多くは大型の梵鐘が中心であると推測されよう。

(註六) 古鐘研究会の機関誌「梵鐘」は江戸時代の梵鐘年表を掲載しているので参照されたい。

(註七) 〒一五八―〇〇九三 東京都世田谷区上野毛一―三〇―一二―四〇―一
石田 肇 TEL&FAX 〇三・三七〇一・八八四二

凡例

以下に群馬県梵鐘年表稿を掲載するが、年表を【Ⅰ】有紀年、【Ⅱ】無紀年・紀年未詳・紀年不明、【Ⅲ】無銘、の三者に分けることにする。有紀年は鐘銘中に紀年があるものであり、無紀年・紀年未詳・不明は紀年がないか、未詳・不明あるいは未調査のもの、無銘とは鐘銘がないものと言うが追銘のあるものも含む。地方誌などで梵鐘の存在についての記述がなくても鐘樓や鐘樓門について記している場合があり、この場合は梵鐘があったと推測されるので紀年未詳に分類し、備考欄に鐘樓・鐘樓門などと記す。未調査のものの中には紀年のあるものが相当あるはずであり、それらは有紀年に分類し直す必要がある。

梵鐘とは仏教の法具であり、本来は寺院にのみ備えられるものではないが、神仏習合により神社にあつたり、あるいは火の見櫓に警報用に設置されたり、陣鐘・喚鐘としてもちいられたものもあり、また宗派によって呼称が異なる場合があるが、本年表ではそれらすべてを梵鐘として扱う。また洪鐘・大鐘・殿鐘・半鐘・喚鐘といった用途・大きさ等によつての区別をしない。従来の調査はやや鐘樓の梵鐘、いわゆる大鐘や洪鐘に偏していた嫌いがあるが、網羅的にそれらを取りあげることにする。

梵鐘の存在・佚亡については先述のように存・亡・供出などで示し、鐘銘などによって既に佚亡したものがわかる場合には、それらをもあげることとする。また時代は第二次大戦中の金属供出時までを対象とし、第二次大戦後に新たに铸造されたものは含まない。ただし、新たに铸造された梵鐘の鐘銘には供出された梵鐘について言及している場合もあり、それなりに資料となりうる鐘銘もある。

対象とする範囲は群馬県という表題が示すとおりではあるが、基本的には群馬県にあった、あるいは群馬県にある梵鐘を対象とする。すなわち少数ではあるが、群馬県にあったものが他県にあるもの、あるいは他県で佚亡したもの、他県にあったものが群馬県にあるものをも対象とする。

本年表は番号、西暦、紀年、存亡、所在地、鑄物師、陰陽、備考の順に構成されているので、それぞれについて以下に説明することにする。

〈番号〉 有紀年、無紀年・紀年未詳・紀年不明、無銘それぞれに通し番号としており、有紀年は時代順になっている。同じ紀年の場合は当然のことながら、月が早いものを先に挙げることにする。月がわからないものは月がわかるものの後に挙げることにする。

〈西暦〉 旧暦と新暦でずれがあるが、本年表では機械的に紀年を新暦に当てはめることとする。

〈紀年〉 紀年はあくまでも鐘銘中の記述による。干支と紀年が矛盾する場合があります、そのような場合には備考で注記するなり、(ママ)で示す。なお、現存のもの、拓本が存在しているもの、鐘銘に関する

詳しい資料があるものなどは文字を含めてなるべく原文の記述をいかにすることにするが、文字の位置関係についてはスペースの関係上、それを具体的には示しえない。文字の位置関係がある程度わかるものについては基本的には改行の部分で／をいれる。いくつかの資料を組み合わせて再構成している場合もある。

〈存亡〉 存は現存していることを示し、亡は佚亡しているものを示す。存未とは存在していることを電話や資料で確認しているが未調査のもの。未詳とは存亡が未詳のものであるが、該当寺院等に電話がない場合や、所在地が未詳のものであり、寺院の場合は多くは兼務寺で連絡がつかない場合が多い。尾崎年表や地方誌などの文献にあるものの、現在存在していないもの多くは第二次大戦中に供出されたといえるので供出と表記する。供出に関してはかなりの寺院等に電話などで確認したが、筆者の判断で供出したものもある。それゆえ亡あるいは不明としたものには様々な原因で失われたことが推測される。たとえば明治維新後の廃仏毀釈や、再鑄した場合、盗難などである。それらについて説明できる場合には備考で示すことにする。なお、供出されたものの戦後も存在した可能性があるものもあり、また今日、どこかにある可能性のあるものもある。事実、供出後、返還された例もある。

〈所在地〉 現存の場合はその所蔵者、管理者や機関名と所在地を記す。群馬県内の場合は群馬県を省きなるべく字名までを示す。存在しない場合は旧所蔵者、管理者あるいは旧機関名を示し、その現在の所

在地を示す。しかし旧地名で示す場合もある。尚、寺院の場合は宗派も示すことにする。宗派・所在地は基本的には「全国寺院名鑑」や電話帳によるが、地名が変わっている場合もあり完全なものではない。

(鑄物師) 大工、鑄物師、鑄師などの鑄物師の表記の仕方、鑄物師の所在地、人名を示す。尾崎年表はこれら三者を分けて示しており、鐘銘中での三者の位置関係などは不分明である。佚亡して録文がない、あるいは拓本がない場合は尾崎年表に従うほかはない。鐘銘がわかる場合は鐘銘の記述の仕方に従って示すことにする。紀年同様に正確な文字の位置関係を示すことは難しいが、位置関係がある程度わかるものは改行の部分には／をいれることにする。尾崎以外の資料に関しても同様のあつかいとする。

(陰陽) 陰とは鐘銘が陰刻であることを、陽とは陽鑄であることを示す。縦帯は陽鑄で池の間の鐘銘は陰刻という場合や、陰陽両者がある場合があり、それらは適宜、陰一部陽などと示し、必要な場合は備考で注記する。

(備考) 以上で示せなかった事項を示す。拓本の存在や鐘銘の録文や鐘についての記述が見える関連文献をまず挙げるが、代表的なものを挙げるにとどめる。その際、Aとあるものは鐘銘の全文が録文されていると考えられるものであり、Bとは一部が録文されていると考える。写真とは当該梵鐘の写真が掲載されていることを示すが、鮮明で参考とすに堪えうるものや資料的価値のあるものをあげる。本年表ではスペースの関係上、鐘銘全文を示すことは不可能

であり、関心のある向きは関連文献を参照されたい。尚、関連文献で略称で記すもの、あるいは書誌を示さないものは後掲のように略して示す。(一) 内が正確な書名や書誌である。鐘の計測値は現存のもの調査できたものは筆者の計測値を優先し、他は関連文献に依拠している。数字のみを示したものの単位はセンチメートルとキログラムであり、尺・寸・貫などとあるのは関連文献によっており、これらの殆どは昭和二十年以前の記録である。あえてセンチメートルなどには換算しない。また半鐘・洪鐘・殿鐘・梵鐘などと記されている場合はこれも示す場合があるが、計測値がわかる場合は割愛する。□×□とは池の間第一区の縦×横の大きさを示し、拓本のみが存在している場合、梵鐘の大きさを推測する資料として示す。その他、重要なことを記した。西暦により「○○○○年あり」とあるのは某某年に同一寺院に他の鐘が鑄造されたことを示し、また「Ⅱ○○」、「Ⅲ○○」はそれぞれ第Ⅱ表・第Ⅲ表にあることを示し、該当鐘が現存するとは限らない。すなわちある寺院にいくつ梵鐘があつたかを示しているわけである。

・尾崎(前掲)の尾崎喜左雄の年表 計二七五口をあげるが、不明瞭な部分もある。この年表は年次、鑄物師、所在よりなる。年次は元号・年・干支をあげており、銘文を引用しているわけではないので、三者が紀年のうえでどのように示されているかはわからない。鑄物師は大工・鑄物師などの表記の仕方、鑄物師の所在地、鑄物師名をそれぞれ別々に示しており、年次同様に銘文そのままではない。他の史料がある場合は勘案する。

・飯塚（飯塚多右衛門「邑楽郡梵鐘鑄造年表」『毛野』通巻五五、昭和十八年）この年表は邑楽郡関係の梵鐘で紀年の明確なもの一〇六口、不確実なもの六口を、所在地、寺院名、鑄造年月、口径、乳数、鑄物師住所、鑄物師名、摘要の順に表にしたもの。本年表稿ではわかる範囲で紀年の文章全てを挙げるようにしているが、この鑄造年表では干支などは省かれているようである。また鑄物師名と住所の鐘銘上での位置関係は不明瞭であり、鑄物師名には略された部分がある。これらについて他の資料がある場合は勘案して示し、ない場合は鑄造年表の表現に従うことにする。）

・折茂Ⅰ（折茂恵二郎「北関東の百字真言鐘」『史迹と美術』五〇二、昭和五五年）

・折茂Ⅱ（折茂恵二郎「百字真言の典故と百字真言鐘」『史迹と美術』五一、昭和五六年）

・岩澤拓本（一九九三年に桐生市立郷土資料展示ホールで開催された「博覧強記 四拙 岩澤正作没後50年 記念展」に展示された十一口の拓本。但し展示は鐘銘の一部が展示されたにすぎない。これらは岩澤の娘である福田三千枝蔵と推測されるが現在未確認である。尚、福田のもとに岩澤が採拓した拓本の約半数があると言われるが、これも未確認である。）

・船戸拓本（船戸研静蔵拓本があることを示す。計四八口。これら拓本は岩澤正作が採拓したもので、岩澤が採拓したものの約半数であるといわれる。）

・都丸拓本（都丸九一蔵拓本。計十口の拓本があり、鐘銘は後掲『上毛文化六五』に紹介されている。）

・桐生図拓本（市立桐生図書館蔵拓本。計十一口の拓本があり、金属供出時に同図書館館員によって採拓されたもの。岩澤正作も関わったといわれる。）

・「上毛年表」（『上毛金石文年表』群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告書第四輯 昭和十二年）

・「山田」（『群馬県山田郡誌』昭和一四年）この郡誌には「本郡梵鐘一覽表」があり、計六十二口が挙げられており、皇紀・天皇御名・年号・干支・品名・所在地・願主又は施主・鑄物師或は大工住所氏名・備考からなる。又、八口の鐘銘が録文されている。本年表稿では紀年はわかる範囲で紀年に関係する干支など文章全てを挙げるようにしているが、一覽表では干支を別に示しているため年号欄には干支は記されていない。それ故、本年表稿では一覽表の年号の部分のみを挙げることにする。又、鐘銘では鑄物師や大工等の表記の仕方も示しているが、一覽表では示されていない、住所氏名のみである。そこで尾崎などの他の資料がある場合は勘案して示すことにする。）

・「集成」（坪井良平『日本古鐘銘集成』昭和四七年 角川書店）

・「太田市報告」（『太田市史編集資料 太田市石像美術調査報告書一 附金工品一』昭和五一年）

・「県史史料八」（『群馬県史 資料編八』昭和六三年）

・「便覧」（『群馬県文化財便覧』平成八年度版 群馬県教育委員会）

() 内の県・市・村・町はそれぞれの行政単位での文化財であることを示し、数字は指定年月日であり、昭和は略し、平成のみ平と記す。尚、便覧にあげられている梵鐘の総数は計二八口である。

・『名鑑』(『全国寺院名鑑』改訂第三版 昭和四八年)

・川野辺寛『高崎志』(寛政元年稿 『高崎市史』卷三所収 昭和四三年)

・土屋老平『旧事記』(『更正高崎旧事記』 『高崎市史』卷三所収 昭和四三年)

・『新田町資料』(『新田町誌基礎資料』 第四号 新田町の石像物と金工品』 昭和五七年)

田 石
・『桐生』(『桐生市史』下巻 昭和三六年。この市史には「桐生市供出梵鐘表」があり、旧市内の供出鐘十一口をあげるが、尾崎などの資料によると、供出された梵鐘はもっと多い。この表は西暦・年号・寺名・所在地・願主または施主・大工または鑄物師からなり、適宜本年表稿で利用する。)

・(群馬女子師範生徒記録) (昭和十年代、群馬女子師範学校生徒の郷土研究のレポートによる。群馬大学蔵。)

・『甘楽史観』(岡部栄信監修 矢嶋太八編『甘楽史観 郷土の花影』 昭和九年)

・『上毛文化六五』(今井善一郎 都九十九二『鐘銘雑収』 『上毛文化』第六五号 昭和十七年)

・『毛野〇〇』(『毛野』掲載論文は前記飯塚以外は通巻の号数のみを

記す。以下は本年表稿で引く著者名・論文名・通巻号数・刊行年次で

ある。金子規矩雄「日本鑄工史稿に洩れた江戸鑄工の作品」二七、昭和一三年。岩澤正作「渡良瀬川上流下半部(黒川峡)に於ける鐘銘中の地名と鐘名」二九、昭和一三年。金子規矩雄「妙英寺の石塔及梵

鐘」三〇、昭和一四年。飯塚井蛙「邑楽郡梵鐘銘漫録」四五、昭和一六年。萩原進「鑄物師倉林・太田氏事略」四八、昭和一七年。飯塚井

蛙「邑楽郡梵鐘銘漫録稿」四八、昭和一七年。岩澤四拙「上毛電鉄沿線に於ける鐘の異称一覽」五三、昭和一七年。岩澤四拙「群馬県下

供出梵鐘瞥見(一)」五四、昭和一八年。岩澤四拙「同」五五、昭和一八年。吉田庄三郎「慈眼寺の鐘楼」六〇、昭和一九年)

・『上毛〇〇』(『上毛及上毛人』掲載論文は通巻の号数のみを記す。以下は本年表稿で引く著者名・論文名・通巻号数・刊行年次である。

和田邦夫「高崎市羅漢町法輪寺梵鐘」一一二、昭和二年。柴田常恵「上州板倉円光寺の梵鐘に就て」一四二、昭和四年。豊國賞堂「東国

分発掘の梵鐘に就て」二一八、昭和一〇年。相川龍雄「佐波郡内の梵鐘」二六四、昭和一四年。香取秀真「鑄師大工浄円」二六九、昭和一

四年。住谷修「群馬郡の梵鐘(其一)」二八五、昭和一六年。近藤義雄「群馬の鐘(其二)(其四)(其六)」二八六・二八八・二九〇、昭

和一六年。住谷修「群馬の鐘(其三)(其五)(其七)(其八)(其九)」二八七・二八九・二九一・二九二・二九三、昭和一六年。鶴淵

蛍光「利根郡白沢村の鐘」二九三、昭和一六年。秋山吉次郎「沼田城主真田河内守信吉鑄造の鐘銘」二九四、昭和一六年。)

群馬県梵鐘年表稿

【表Ⅰ】有紀年

番号	西暦	紀年	存亡	所在地	鑄物師	陰陽	備考
一	一二六八	文永五年戊申 二月十日	亡	榛名巖寺(現榛名神社 群馬郡榛名町)	大工大友高階友俊	陰	榛名神社蔵拓本、「上毛金石文年表」A、「日本古鐘銘集成」A、「群馬県史 資料編八」A、「室田町誌」A(昭和四一)。明治の廃仏毀釈の折に破壊された。釈文に関して各書で異同あり、一一(三)尺五寸鐘とある。
二	一二九〇	正応三年庚寅 三月三十日	不明	榛名権現旧蔵(上野国利根 庄内白根郷 現榛名神社 沼田市薄根)	鑄鐘大工覺入	陰	「利根郡誌」A(昭和五)、「上毛金石文年表」A、「日本古鐘銘集成」A、「群馬県史 資料編八」A。この鐘は榛名神社から長野県小原郡真田町白山神社に移り、現在所在不明。明治の廃仏毀釈によって佚亡か。
三	一二九二	正應五年壬辰 卯月八日	存	(県社)熊野神社(碓氷 郡松井田町峠)		陰	尾崎、「上毛金石文年表」A、「日本古鐘銘集成」A、「群馬県史 資料編八」A、「便覧」(県三〇・一・十四)、「群馬の文化財―美ふるさとを誇る」写真(昭和六〇)、「松井田町誌」A(昭和六〇)。総高一〇六、龍頭高一八、口径六三。重さ約五〇〇。八二・一〇・二八調査。
四	一三〇三	乾元二年辛卯 五月	亡	曹洞宗興禪寺(高崎市下 横町)			「上毛金石文年表」B、「群馬県史 資料編八」B。撰文は寧一山、紀年の辛卯は癸卯が正しい。鐘銘の一部のみ記録されたのであろう。川野辺寛「高崎志」に鐘樓あり。土屋老平「旧事記」Aは紀年を「乾元二癸卯歳五月吉日」とし、偽銘とする。また明治元年に売られたという。
五	一三〇六 一〇八	徳治年間	亡	時宗青蓮寺(新田郡尾島 町岩松)			享保二十年(一七三五)在銘青蓮寺鐘銘に見え、宝永三年(一七〇六)に二回鑄直された。一七九六年あり。
六	一三三三	正慶二年癸酉 三月廿日	存	日蓮宗浄蓮寺(埼玉県秩 父郡東秩父村御堂) 旧 円光寺蔵(上州緑野郡板 倉郷 現藤岡市緑林)	大工沙弥浄圓	陰	「上毛一四二・二六九」A、「上毛金石文年表」A、「日本古鐘銘集成」A、「群馬県史 資料編八」A。円光寺は今はなく寺址をのこす。文明十一年と文明十三年の追銘あり、文明十一年に埼玉県比企郡嵐山町鑄形の八幡宮に移り、ついで同十三年に浄蓮寺に移った。総高七九・三、龍頭高二〇・三、口径五一・八。八三・一〇・二九調査。
七	一三三八	暦応元年戊寅 十二月廿一日	存	真言宗上宮寺(長野県南 佐久郡白田町田の口) 旧東覚寺推鐘(上野国群 馬郡)	大工浄圓	陰	「上毛金石文年表」B、「上毛二六九・二八六」A、「日本古鐘銘集成」A、「群馬県史 資料編八」A。天文十二年(一五四三)の追銘あり、この年に上宮寺に移った。

一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	
一六三三		一五七三 一五七二	一五一五	一五〇五	一四七三	一四一〇	一三九七	一三六八 一三五五	
辰 元和九曆鴉首 大淵獻□□吉	天正年間	天正年間	永正十二年	永正二年乙丑 大族月	文明五年癸巳 初秋日	応永十七年庚 寅十一月三日	応永四年	応安年間	
存	亡	亡	不明	不明	亡	存	亡	亡	
二宮赤城神社（前橋市二 之宮町）	曹洞宗常林寺（吾妻郡長 野原町大字応桑）	真言宗福蔵院（新田郡新 田町市野井）	子持明神（北群馬郡子持 村）	野栗権現旧蔵（現多野郡 上野村野栗沢 野栗沢神 社）	曹洞宗頼岳寺旧蔵（長野 県茅野市上原） 旧雲谷 寺鐘（上州利根庄 現利 根郡白沢村高平）	住谷俊彦氏蔵（群馬郡群 馬町東国分） 旧妙見寺 推鐘（上野州群馬郡府中 現群馬郡群馬町引間）	曹洞宗橋林寺（前橋市住 吉町）	臨濟宗吉祥寺（利根郡川 場村門前）	馬郡高井郷 現前橋市総 社町）
鑄師大工／楚州天命住太田五郎 左衛門				大工八郎左衛門					
陰						陰			
尾崎、『毛野五三』、『勢多郡誌』（昭和三三）B、『便覧』 （市五〇・一二・二四）。総高一一〇、龍頭高二〇、口 径七一・五。八九・一二・一四調査。	『孀恋村誌』（昭和五二）。常林寺中興の際、鑄造された と推測され、安永五年（一七七六）在銘鐘銘に大鐘再 建と見える。一八四六年、一八八一年あり。	『新田町資料』の宝暦十二年（一七六二）在銘福蔵院鐘 鐘銘によると、天正年間に鐘を懸けたが、火災で佚亡す。	『上野名跡誌』に引く「山吹日記」、坪井良平「日本の 梵鐘」（昭和四五）。	『上毛金石文年表』A、『日本古鐘銘集成』A、『群馬県 史 資料編八』A。明治十四年に売却したといわれる。	『利根郡誌』A（昭和五年）、『諏訪史料叢書』A卷二九 （昭和一四）、『白沢村誌』A（昭和三九）、『日本古鐘銘 集成』A、『上毛及上毛人』二九三号。雲谷寺から頼岳 寺に移った。一七二四年あり。	尾崎、『上毛金石文年表』A、『日本古鐘銘集成』A、 『群馬県史 資料編八』A、『上毛二一八』A、『上毛二 八五』A、『国府村誌』A（昭和四三）。昭和十年に現所 有者宅裏の畑から発掘。総高一〇三、口径五九。八三・ 五・一二調査。	明治二八年（一八九五）在銘橋林寺鐘銘による。同鐘銘 によると、この鐘は嘉永五年（一八五二）六月十八日、雷 火にあい佚亡し、明治二八年に再鑄された。尚、橋林寺 には応永二二年在銘鑄口がある。一七六七年あり。	『群馬県史』資料編十二（昭和五七）八七九頁による と、この鐘は破損し延享三年（一七四六）に鑄直された。	総高八七、口径四九。八三・一一・二二調査。

群馬県梵鐘年表稿

一七	一六二七	寛永二乙卯年 五月念六日	亡	曹洞宗大通寺（新田郡新田町木崎）		曹洞宗大徳寺（新田郡新田町木崎）		曹洞宗大徳寺（新田郡新田町木崎）	「新田町資料」の大通寺貞享四年（一六八七）在銘鐘の鐘銘に元鐘銘として見える。他に一六八七年一口あり。
一八	一六二七	寛永四季丁卯 七月廿五日	存	曹洞宗妙英寺（太田市鳥山）	大工 大田左兵衛尉宗次／野村平左衛門／正次	曹洞宗妙英寺（太田市鳥山）	陰	尾崎、「毛野三〇」A、「便覧」（市）五一・十一・十六、「太田市報告」A、「太田市の文化財」写真（平成七。総高九六・五、竜頭高一五・五、口径五六・一七三九年あり。八三・五・一一調査。	
一九	一六二八	寛永戊辰歳舎 南呂如意珠日	亡	天台宗光嚴寺（前橋市総社町）	工匠中村與兵衛理深	天台宗光嚴寺（前橋市総社町）		「上毛二九二」。文政十年（一八二七）在銘鐘の鐘銘に見え、文政十年に改鑄された。一七〇二年、一七〇七年あり。	
二〇	一六三四	寛永十一庚戌 歳黄梅廿日	亡	曹洞宗龍門寺（群馬郡箕郷町東明屋）	大工野刻天明住人 大田五郎左衛門藤原秀治	曹洞宗龍門寺（群馬郡箕郷町東明屋）		架蔵龍門寺関係史料写本A、「龍門寺四百年史」（平成二）。明治維新の折、廃仏毀釈により佚亡。一九三九年あり。九七・六・一一調査。	
二二	一六三四	寛永拾一歳甲 戌／潤七月吉日	存	沼田城鐘（沼田市西倉内町）		沼田城鐘（沼田市西倉内町）	陰	尾崎、「上毛二九四」A、「便覧」（県）二九・三・三〇、「群馬の文化財」美ふるさとを誇る」写真（昭和六〇）。総高一・一、竜頭高一七・五、口径六七・五。天和第二（一六八二）玄黙蘭茂／初春下旬第五日」の追銘あり。追銘の彫施は関氏重好。本多信吉が時鐘として鑄造し、天和元年に平等寺（沼田市材木町甲）に移され、明治より沼田町の時鐘として使用。九七・八・六調査。	
二三	一六三五	寛永十二年乙 亥九月吉祥日	亡	一之宮貫前神社（富岡市一ノ宮）		一之宮貫前神社（富岡市一ノ宮）		「羅山文集」卷四四「上野國一宮鐘銘」（大正七）、「群馬県北甘楽郡史」A（昭和三年）、「甘楽史観」A。「甘楽史観」は紀年を寛永十一年とし、明治二年八月に破毀したという、廃仏毀釈の影響であろう。撰文は林羅山。	
二三	一六三五	寛永十二年	亡	浄土宗正福寺（前橋市三河町）		浄土宗正福寺（前橋市三河町）		「羅山文集」卷四四「厩橋正福寺鐘銘」。林羅山撰文。約一二〇年前の大火災で佚亡といわれる。	
二四	一六四一	寛永拾八辛巳 年七月吉日	存	曹洞宗鳳仙寺（桐生市梅田町）	下野國佐野天命住人鑄師大工／江田讚岐守安重／藤原朝臣／同内蔵丞行次	曹洞宗鳳仙寺（桐生市梅田町）	陰	尾崎、船戸拓本、「毛野五三」「山田」A、「桐生市史別巻」（昭和四六）A、「便覧」（市）平一・十一・十二。総高一六・龍頭高二五・五、口径六二。一七〇九年あり。八四・七・九調査。	
二五	一六二四	寛永年間	亡	八幡宮（高崎市八幡町）		八幡宮（高崎市八幡町）		（群馬女子師範生徒木島はつ・熊井常記録）によると、この鐘は元禄年間に再造。尾崎によると元禄十年（一六	

二六	一六四六	正保三年	亡	浄土宗浄運寺(桐生市本町)				九七)である。いわゆるやわた八幡宮。 明和四年(一七六七)在銘浄運寺鐘銘によると、この鐘は破損し、元文二年(一七三七)に再鑄された。
二七	一六四八	正保五年戊子 季春下澣之攸	供出	曹洞宗春昌寺(館林市大島)	下野州住大工/金子九郎兵衛/ 藤原朝臣梢重	陰		飯塚。『毛野四五』A。口径一尺九寸。
二八	一六四九	慶安二己丑二 月吉祥日	存	曹洞宗普濟寺(館林市羽附町)	江田讃岐守藤原安信/大工下野 召天命住人/横塚内膳藤原重次	陰		尾崎、飯塚、『便覧』(市五〇・三・六)、『群馬県文化財図録』写真(昭和二九。総高二二六、龍頭高二七、口径六九。一六九九・一七一九年あり。八三・五・一一調査。
二九	一六五〇	慶安三天有月 吉鳥	供出	曹洞宗祥禪寺(勢多郡東村花輪)				『毛野二九』。祥禪寺の旧鐘とある。殿鐘。一八六三年あり。
三〇	一六五一	慶安四辛卯年 季/二月五日	亡	浄土宗善導寺(吾妻郡吾妻町原町)				元禄四年(一六九二)在銘善導寺鐘銘に、往古尺餘の鐘があつたが破損し、再鑄したとある。
三一	一六五二	慶安五壬辰年 仲秋日	亡	浄土宗安国寺(高崎市通町)				寛保二年(一七四二)在銘安国寺鐘銘によると、この鐘は享保一六年(一七三二)正月、火災に遭い失われた。一七八六年あり。
三二	一六四八 一五二	慶安年間	亡	天台宗龍藏寺(前橋市龍藏寺町)				『上毛文化六五』に引く享保十年(一七二五)在銘龍藏寺鐘銘によると、この鐘が破損し新鐘を鑄造した。II 四四あり。
三三	一六五三	承應二癸巳年 九月十日	供出	曹洞宗天増寺(伊勢崎市昭和)	鑄工 福庵	陰		船戸拓本。四〇、五×四三、五。殿鐘(II一〇四)あり。
三四	一六五二 一五五	承応年間	亡	臨濟宗西方寺(桐生市梅田町)				『山田』に引く西方寺宝永二年(一七〇五)在銘鐘銘によると、この鐘は音が響かなかつたため宝永二年に再鑄(再吹)された。殿鐘(II一〇三)あり。
三五	一六五五	明暦元乙未年 /十月吉辰	不明	曹洞宗長純寺(群馬郡箕郷町富岡)	大工 上野國中尾村/住人 金 井五良衛門/藤原正次			尾崎、『箕郷町誌』A(昭和五〇)。殿鐘。半鐘とも云われる。供出を免れたが盗難にあう。
三六	一六五六	明暦二丙申暮 十月吉祥日	存	曹洞宗良珊寺(渋川市上郷)	大工 上野州中尾村之住人/金 井五良衛門尉/藤原正次	陰		尾崎、『便覧』(市五三・八・十四)、『北群馬・渋川の歴史』A(昭和四六)。宮川俊雄「明暦の半鐘とその銘」

四六	一六六五	寛文五 乙巳	供出	浄土宗長念寺 (太田市本町)	鑄師 江戸 太田甚蔵藤原正直	尾崎。旧善導寺一六七六年と一七五八年あり。
四七	一六六六	寛文六年仲久	供出	曹洞宗龍興寺 (館林市高根)	大工佐野天命 金子佐兵衛成重	尾崎、飯塚。口径一尺九寸。尾崎は佐兵衛を左兵衛、成重を重盛とする。
四八	一六六九	寛文九酉十月吉日	亡	曹洞宗最興寺 (富岡市南蛇井)		尾崎、「甘楽史観」A。尾崎は寛文九年の鐘とするが、「甘楽史観」所収の鐘銘によると、明治十年(一八七七)新鑄(取替)鐘に刻された旧銘の紀年が寛文九年だったと理解される。この鐘はその後に佚亡し、享保戊戌(一七一八)の頃、峻峰禅人によって鑄造され、ついで明治十年(一八七七)再鑄(取替)されたのであろう。
四九	一六六九	寛文九己酉天十一月良辰	未詳	真言宗明王院 (新田郡尾島町安養寺)	武劔江戸神田鍋町大工大川四郎 左衛門尉藤原吉亦	尾崎、「毛野二七」。口径七四、五。供出の可能性大。
五〇	一六七〇	寛文十年庚戌季春吉日	存	黄檗宗宝林寺 (邑楽郡千代田町新福寺)	鑄工宇田川藤四郎藤原次重	尾崎、飯塚、「群馬県文化財図録」写真(昭和二九)、「館林市誌」(昭和四四)、三枝友治「上州・千代田よもやまばなし」A(昭和五八)、「便覧」(前)六三・一・二(一)。鐘銘の撰者は木庵瑄山。総高一三五、五、龍頭高二九、口径七六、七。旧広濟寺鐘(館林市、魔寺)である。九二・六・二六調査。
五一	一六七〇	寛文 庚戌	供出	浄土宗大光院 (太田市金山町)	佛具屋 武州江戸 太田甚蔵	尾崎、「上毛新聞」昭和一八年二月一九日記事。一九〇六年頃あり。
五二	一六七三	寛文十三年癸丑秋九月吉辰	存	時宗応声寺 (館林市西本町)	冶工/下野國天命住/長谷川次郎左衛門藤原勝重	尾崎、飯塚、「館林市誌」A(昭和四四)、「便覧」(県二八・八・二五)、「群馬の文化財―美ふるさとを誇る―」写真(昭和六〇)。林春斎撰文。旧館林城鐘、総高一三七、龍頭高三三、口径七六。一八六三年あり。八三・五・一調査。
五三	一六七三	寛文十三年九月	供出	単立観音寺 (藤岡市岡之郷)		「藤岡市史 資料編 近代・現代」(平成六)に引く昭和五十九年在銘観音寺鐘鐘銘に見える。
五四	一六七三	寛文十三年	供出	曹洞宗龍源寺 (勢多郡粕川村膳)		「毛野五三」。殿鐘(II九七)あり。
五五	一六七三	延宝之歲癸丑	供出	曹洞宗雙松寺 (吾妻郡高武州江戸住人工/小川二郎左右)		「群馬県吾妻郡高山村誌」A(昭和四七)、重二百頁。

群馬県梵鐘年表稿

五六	一六七三	延宝元年	存未	浄土宗善念寺(高崎市元紺屋町)	衛門尉藤原重正		一七七〇年、Ⅱ三六あり。 殿鐘。一七三二年あり。
五七	一六七四	延寶二卯秋八月	供出	真言宗遍照寺(館林市新宿)	冶工 野州佐野天明町 長谷川次郎左衛門勝重		尾崎、飯塚、岩澤拓本、『群馬県邑楽郡誌』A(大正六)。口径二尺四寸八分。紀年に関して尾崎・飯塚は二年(庚寅)とし、郡誌は二卯とし、飯塚は八月を九月とするなど矛盾している。一七二九年あり。
五八	一六七四	延寶二 庚寅	供出	臨濟宗弥勒寺(多野郡吉井町小棚)	冶工 渡部左治衛門勝原助守		尾崎。鑄物師名は尾崎年表が不明瞭なため怪しい。一七〇三・一七五二・一八五二年あり
五九	一六七五	延寶三乙卯歳十月吉祥日	供出	曹洞宗泉通寺(藤岡市森)	鑄物御大工 於武城 椎名伊豫守吉寛		尾崎、『群馬県多野郡誌』A(昭和二)、『多野藤岡地方誌』A(昭和五)。郡誌・地方誌には鑄物師名なし。
六〇	一六七五	延寶三年乙卯年/臘月佛成道日	供出	曹洞宗善長寺(館林市当郷)	鑄工下野天命住 長谷川次郎左衛門勝重 大谷權右衛門重辰 金子清兵衛延信國		尾崎、飯塚、『毛野四五』A。口径二尺四寸二分。一七二四年あり。
六一	一六七六	延寶四柔兆執辰八月	存	天台宗柳澤寺(北群馬郡榛東村山子田)	鑄物師 新保村/信澤茂衛門信吉	陰	尾崎、『群馬県群馬郡誌』A(大正一四)、『北群馬・渋川の歴史』A(昭和四六)。総高二三二、龍頭高三三、口径七八、八。一六九二年あり。九七・六・一一調査。
六二	一六七六	延寶四年(丙辰)八月	存未	元浄土宗善導寺(館林市楠町) 現浄土宗長念寺(太田市本町)	冶工下野國佐野淺沼村住人 齋藤氏重郎兵衛藤原久重	陽	尾崎、飯塚。善導寺は館林市館林にあったが、駅前再開発のために楠町に移転、鐘は長念寺に移った。口径二尺五寸三分。善導寺には他に一七三六・一九二八年あり。
六三	一六七六	延寶四曆丙辰八月吉祥日	供出	天台宗大藏院(桐生市東久方町)	冶工 石田十兵衛兼重		尾崎、桐生図拓本、『桐生』。紀年の四は横に二二と表記。尾崎は鑄物師の名を重貞とする。?×三八、五。
六四	一六七六	延寶四龍舎丙申/臘月吉旦	供出	臨濟宗空恵寺(北群馬郡子持村白井)	天下一冶工/武州江戸住田中丹波大掾藤原重正	未詳	尾崎、『北群馬・渋川の歴史』A(昭和四六)、『天靈山空恵禅寺』A(昭和六三)。高三尺三寸、径尺二寸。鐘銘によると旧鐘(Ⅱ三三)は永祿年間に火災に遭い佚亡。一六七六年あり。
六五	一六七六	延寶四丙辰稔/臘月吉祥日	存	臨濟宗空恵寺(北群馬郡子持村白井)	冶工/武州江戸住田中丹波大掾藤原重正	陰	総高五二、龍頭高一、口径三〇、四。Ⅱ三一、一六七六年あり。九七・五・二二調査。

石 田 鑿

七六	一六八六	貞享三丙寅年	供出	曹洞宗龍海院(前橋市紅)	冶工下野佐野重郎兵衛藤原基重	陰	尾崎、船戸拓本。「前橋風土記」B、「前橋案内」(明治
七五	一六八四	貞享元年甲子 八月吉祥日	供出	祥雲寺(那波郡堀口村)	佐野天明住/鑄物師大工 半田 六右衛門藤原正次/江刺野洲郡 三上村/中川勘四良	陰	船戸拓本。二九×三一。祥雲寺の山号は天誓山。現在、 伊勢崎市堀口町に曹洞宗天誓山昌雲寺あり、埼玉県深谷 市の本寺は昌福寺といひ、山号は変わっていないとのこと。 同寺の梵鐘は供出(追記二参照)。
七四	一六八三	天和三癸亥年	供出	曹洞宗龍海院(前橋市紅 雲町)			(群馬女子師範生徒池田薫記録)。酒井忠孝の寄進、鐘 樓にあり、風鐘といふ。口径五〇。Ⅱ六二、一六八六年 あり。
七三	一六八三	天和癸亥三年 十一月廿日	存	旧真言宗長福寺 現真言 宗円福寺(高崎市八幡原 町)	天明町住/大工 本田甚右衛門 /三木忠右衛門	陰	「瀧川村誌」A(昭和五九)。円福寺は長福寺と円光寺が 合併した寺。第二次大戦中は火の見櫓で使用。総高七 四、竜頭高一八、七、口径四〇、四。九七・七・二五調査。
七二	一六八三	天和三年龍集 癸亥九月穀旦	存	曹洞宗仁叟寺(多野郡吉 井町神保)	御大工椎名伊豫守藤原吉廣	陰一部	尾崎、「吉井町誌」B(昭和四九年)、「多野藤岡地方 誌」A(昭和五二)。総高一三三、竜頭高二一、七、口 径六六、九。一八五七年あり。九七・八・五調査。
七一	一六八二	天和二年	未詳	大日堂(伊勢崎市)			「豊国義孝氏寄贈品目録」拓本類一一六(上毛及上毛 人)二九六。半鐘。大日堂の所在地については未詳。
七〇	一六八一	天和元辛酉年 十一月廿四日	存	天台宗普門寺(新田郡尾 島町世良田)	鑄師/宇田川善太郎重久	陰	尾崎、「便覽」(町 六一・七・二四)。総高一二六、龍 頭高二六、口径六九、五。九七・七・三〇調査。
六九	一六八一	延宝辛酉/春 三月	存未	富沢和洋(太田市高林)	冶工後藤/藤原陳矩	陰	陣鐘、二十八宿と八卦紋を陽鑄。施主は本田忠将、明治 二四年、本田家より富沢家が拝領。総高四九、竜頭高一 二、口径三七、重さ二七、五。
六八	一六八〇	延宝八歲次庚 申冬十一月吉 祥日	供出	真言宗花台寺(佐波郡玉 村町樋越)	佐野金井町/冶工長谷川八良左 衛門尉藤原朝臣重信/市右衛門 尉	陰	船戸拓本。奉供庚申鐘である。三二×三一。
六七	一六七九	延寶七	供出	真言宗慈眼寺(高崎市下 滝町)	半田甚右衛門藤原吉廣		尾崎、「毛野六〇」、「滝川村誌」(昭和五九)。
六六	一六七九	延寶七年龍次 己未 六月十 五日鳥	供出	曹洞宗神守寺(富岡市宇 田)	金匠 小柏正次 同姓政重		尾崎、「甘楽史観」A。「甘楽史観」は紀年を延徳七年癸 未とするが誤りである。洪鐘。一九二八年あり。

八四	八三	八二	八一	八〇	七九	七八	七七	
一六九一	一六九一	一六九一	一六九〇	一六八七	一六八七	一六八七	一六八六	
元禄四歲次辛未九月日	元禄四歲辛未六月吉日	元禄四辛未季／三月吉日	元禄庚午年十月吉日	貞享四丁卯曆十一月十五日	貞享四丁卯十月念日	貞享四年丁卯歲秋徐仲夏堅之三日	貞享三丙寅年四月吉祥日	卯月伍生日
亡	供出	存	供出	未詳	存	供出	供出	
曹洞宗元景寺(前橋市総社町植野)	曹洞宗泉龍寺(吾妻郡高山村尻高)	浄土宗善導寺(吾妻郡吾妻町原)	天台宗中道院(甘楽郡南牧村砥沢)	八幡宮(所在地未詳)	曹洞宗大通寺(新田郡新田町木崎)	曹洞宗大通寺(新田郡新田町木崎)	時報鐘樓(高崎市鞆町後に中紺屋町)	雲町)
	武州江戸住御鑄物師 田中丹波守 藤原重行	下野佐野天明金屋町／大工長 谷川八郎左衛門／藤原家信／高橋傳左衛門／同氏正重／同市郎左衛門	下野國佐野大明住大工長谷川七郎右衛門藤原正吉	江戸御鑄物師西嶋伊賀守正次	冶工佐野天明／太田甚左衛門尉重忠	佐野天明冶工 太田甚左衛門尉重忠	高崎住光長	
	陰	陰		陰	陰		陰	
『総社町郷土誌』(明治四三)、『上毛二八六』、『総社町誌』(昭和三二)。明治一九年(一八九六)在銘鐘鐘銘によると、破損して音色が損なわれたため明治二九年に改	尾崎、『群馬県吾妻郡高山村誌』A(昭和四七)。高四尺七寸、龍頭高一尺一寸、径二寸三分、重百五十貫。一七六二年あり。	尾崎、『原町誌』(昭和三五)。鐘銘によると慶安四年(一六五二)の旧鐘が破損したので再鑄した。総高一四二、龍頭高三〇、五、口径七八、七。九三・九・九調査。	『甘楽史観』A。小鐘。	船戸拓本。八幡宮の八のみが籠字彫りである。二六、五×二九、三。鐘銘中に川井山東栄寺法印亮慶とあり、また願主は那波郡新地村の一嘗直入である。天台宗東栄寺(佐波郡玉村町川井)に関係か？	尾崎、『新田町資料』A写真。総高七二、龍頭高一六、口径四〇。警報用の半鐘として使用されたために供出を免れた。二六二五・一六八七年あり。九七・五・一五調査。	岩澤拓本、『新田町資料』A。撰文は東臯越社多、心越興儀である。鐘銘は『東臯全集』下巻(明治四四)の『寶廣山鐘銘』にあたる。一六二五・一六八七年あり。	尾崎、川野辺寛『高崎志』B、土屋老平『旧事記』B。高崎城西丸の時報鐘(II二二)を貞享三年に改鑄し、元の石上寺の境内に鐘樓を建つ。享保十二年に火災に遭って鐘樓から落ちるも損傷せず。明治十四年、中紺屋町に移る。	三二)B。鐘銘によるとこの鐘は再鑄されたものであるが、拓本の状態悪く詳しくは判読できず。酒井忠明の奇進、鐘樓門にあり。四五、二×四八、五。II六二、一六八三年あり。

九五	一六九三	元禄六年 元禄六癸酉歲 十一月望日	存未	臨濟宗真光寺 (伊勢崎市 今井町)	野州佐野天命住井上治兵衛重治	陰	「山田」、半鐘。一七四〇年あり
九四	一六九三	元禄六癸酉歲 十一月望日	供出	臨濟宗真光寺 (伊勢崎市 今井町)	治工武州妻沼住諸左近尉正綱	陰	船戸拓本。縦帯一カ所に見ざる聞かざる言わざるの三猿を陽鑄。二八×三三、二。殿鐘(二七八)あり。
九三	一六九三	元禄六年初冬 吉祥日	未詳	真言宗延命寺 (桐生市川 内町)	下野佐野天明住 大工 太田甚左衛門重好		尾崎、「毛野五三」、「山田」。梵鐘。
九二	一六九三	元禄六癸酉天 六月吉祥日	未詳	曹洞宗向陽寺 (甘楽郡甘 楽町天引)	武州江戸深川住御鑄物師太田近江大掾藤原正次		尾崎、「甘楽史観」A。洪鐘。供出の可能性大。
九一	一六九二	元禄五 壬申	未詳	臨濟宗崇徳寺 (碓氷郡松 井田町松井田)	治工 武易江戸神田住 小沼播磨守藤原正永		尾崎。一七一九年あり。
九〇	一六九二	元禄五年	存未	真言宗円福寺 (太田市別 所)	天明 太田甚左衛門重好		折茂I。百字真言鐘。口径三九、五。一六九一年あり。
八九	一六九二	元禄五年十二 月吉日	存未	臨濟宗東禪寺 (桐生市川 内町)	佐野天明新町 長島四郎兵衛		尾崎、「山田」。高尺三寸、径一尺二寸。半鐘。一七二一年あり。尾崎は東漸寺とするが誤りであろう。
八八	一六九二	元禄五年五月	未詳	真言宗龍積寺 (館林市青 柳)	野州佐野天明住 井上元峰重好 同 次兵衛重治		飯塚。口径二尺。
八七	一六九二	元禄五壬申天 五月吉日	供出	天台宗珊瑚寺 (勢多郡富 士見村石井)	江戸神田鍛冶町貳丁目御鑄物師西宮四郎兵衛藤原常重	陰	都丸拓本、「上毛文化六五」A。梵鐘。
八六	一六九二	元禄五壬申天 二月五日	存	天台宗柳澤寺 (北群馬郡 榛東村山子田)	御鑄物師江戸神田鍛冶町貳丁目西宮大和守藤原常重	陰	尾崎、折茂I。百字真言鐘である。口径約六〇。一六九二年あり。
八五	一六九一	元禄四 辛未	供出	真言宗円福寺 (太田市別 所)	鑄師 野州天明住 太田甚左衛門重好	陰陽	尾崎、折茂I。百字真言鐘である。口径約六〇。一六九二年あり。
九六	一六九三	元禄六癸酉歲	供出	真言宗正法寺 (太田市脇 屋)	下野佐野天明住/大工太田甚左衛門重好	陰	船戸拓本。三四、五×三三、七。
九七	一六九四	元禄七甲戌天	存未	真言宗水宮寺 (藤岡市上)	野州佐野天命住井上治兵衛重治		「多野藤岡地方誌」(昭和五一)。

群馬県梵鐘年表稿

一〇九	一六九六	元禄九 丙子	供出	天台宗野牧寺 (甘楽郡下	鑄物師 下野國佐野 藤原信次	尾崎。
一〇八	一六九六	元禄九 丙子	供出	曹洞宗林昌院 (吾妻郡中之条平)	椎名兵庫重長	尾崎。
一〇七	一六九六	元禄九年十一月二十七日	供出	浄土宗報身寺 (桐生市相生町)	西村和泉守	「山田」。高一尺八寸八分、径一尺三寸二分、半鐘。
一〇六	一六九六	元禄九年星紀丙子初冬布漉	存未	真言宗威光寺 (太田市由良)	治工 下野国天明住 太田氏重 好	尾崎、鑄物師について尾崎は大田甚左工門重好とする。「太田市報告」B。折茂I、百字真言鐘。総高六七、竜頭高一二、口径三三、五。一七四一年あり。
一〇五	一六九六	元禄九年八月	存未	曹洞宗法輪寺 (館林市朝日)	下野佐野天明住 井上元峰入道 重好	飯塚。口径一尺三寸四分。
一〇四	一六九五	元禄八 乙亥	供出	黄檗宗不動寺 (甘楽郡南牧村大塩原)		尾崎。
一〇三	一六九五	元禄八	未詳	曹洞宗徳嚴寺 (利根郡新治村新巻)	上州白井住 小沢孫右衛門藤原 安忠	尾崎。尾崎は「旧□□堂鐘」とあるが、二字は細字にて判読不能。
一〇二	一六九五	元禄八 乙亥	供出	臨濟宗長原寺 (渋川市八木原)	藤原出井氏用從	尾崎。
一〇一	一六九四	元禄七 庚戌	供出	曹洞宗東雲寺 (新田郡新田町市野井)	治工 佐野天明 長谷川八郎左 衛門藤原吉重 太田甚左衛門藤原重好	尾崎。一七四七年あり。
一〇〇	一六九四	元禄七甲戌歳十月十五日	供出	浄土宗光心寺 (多野郡吉井町小串)	御鑄物師 太田近江大掾藤原正次	「多野藤岡地方誌」A (昭和五二)。洪鐘。一七四七年あり。
九九	一六九四	元禄七甲戌歳舍九月告穀辰	供出	臨濟宗泉龍寺 (伊勢崎市柴町)	大工武藏國幡羅郡長井庄妻沼村 諸左近尉藤原正綱	岩澤拓本、船戸拓本、「豊国義孝氏寄贈品目録」拓本類一七七(「上毛及上毛人」二九六)。洪鐘。拓本によると紀年の元禄は元禄に見える。三四×三四、五。
九八	一六九四	元禄七甲戌年六月	亡	曹洞宗茂林寺 (館林市堀江)		「毛野五五」に引く嘉永四年(一八五二)在銘茂林寺鐘鐘銘中に見える。重量五三貫八百目。II四八あり。
		正月吉祥日		戸塚		

石 田 鑿

一一一	一六九九	元禄十二己	供出	真言宗寶藏寺(新田郡新	下野國佐野天明之住 長谷川七	尾崎。
一一〇	一六九九	元禄十二己卯	供出	天台宗光明寺(群馬郡榛	治工 上野國板鼻住 金井兵部 藤原重久 大工 下野國天明住 長谷川七郎右衛門藤原正吉	尾崎。
一一九	一六九九	元禄十二乙卯 年/五月吉日	存	真言宗宝珠寺(邑楽郡千	大工佐野住/大田分兵衛/藤原 郎忠	三枝友治(上州・千代田よもやまばなし) A(昭和五八 同刊行念)。総高四四・五、龍頭高八・五、口径二 七・六、一八〇一年あり。九七・七・三二調査。
一一八	一六九九	元禄十二年四月	供出	真言宗光明寺(邑楽郡明	父 太田又兵衛良忠 子 太田 太兵衛宗長	飯塚。口径一尺一寸。
一一七	一六九八	元禄十一星次 寅八月十八日	供出	真言宗清水寺(高崎市石		土屋老平「片岡郡誌」A(「高崎市史」卷三所収、昭和 四三)。
一一六	一六九八	元禄十一戊寅 三月吉日	供出	天台宗慈眼寺(甘楽郡南	武州江戸神田住御鑄物師小幡播 摩守藤原正永	「甘楽史観」A。洪鐘。
一一五	一六九七	元禄十丁丑	供出	日蓮宗妙高寺(太田市下	大工 下野國佐野天明之住 太 田甚左衛門重好	尾崎。
一一四	一六九七	元禄十年	供出	蓮台寺(新田郡尾島町下	下野 太田甚左衛門重好	折茂I。百字真言鐘。口径約三七。
一一三	一六九七	元禄十丁丑	供出	八幡宮(高崎市八幡町)	治工 下野國佐野天明金井町 長谷川八郎左衛門尉藤原家□ 同勘左衛門	尾崎。(群馬女子師範生徒木島はつ・熊井常記録)によ ると、寛永年間鑄造の鐘あり、この鐘は再造。いわゆる やわた八幡宮である。
一一二	一六九七	元禄十丁丑	存未	真言宗蓮台寺(太田市下	大工 下野國 太田甚左衛門重 好	尾崎。百字真言鐘。下田島の火の見櫓にあり。
一一一	一六九七	元禄十丁丑九 月廿日	存	曹洞宗龍得寺(新田郡新	下野國佐野天明住/大工 長谷 川七郎右衛門/藤原正吉	尾崎。「新田町資料」A写真。総高一二〇、龍頭高二九、 口径六五。昭和二年の追銘あり。九七・五・二五調査。
一一〇	一六九七	元禄十丁丑年 /二月十七日	存	曹洞宗桂昌寺(安中市下	出井従用	尾崎。総高五六・五、龍頭高一・五、口径三三・八。 一六六三年、一八五〇年あり。九七・七・四調査。
				仁田町南野牧)		

群馬県梵鐘年表稿

一三二	一七〇二	元禄十五壬午 年七月吉祥日	供出	真言宗妙光院（安中市安中）	鑄工下野佐野出井用從作		【安中市誌】B（昭和三九）。総高四尺五寸八分、周囲八尺七分。
一三一	一七〇二	元禄十五壬午 歳四月吉祥日	存	天台宗光嚴寺（前橋市総社町）	作者江戸神田鍛冶町二丁目／御鑄物師／河合兵部／同善右衛門周徳	陰	【上毛二九二】A。総高六、五、竜頭高一、五、口径三六、二。一六二八年、一七〇七年、一八二七年あり。九七・七・二六調査。
一三〇	一七〇一	元禄第十四辛巳 巳載／陽月大吉日	供出	天台宗大光寺（佐波郡赤堀村西久保）	野州天命住人／鑄師大橋六兵衛重春／同 金兵衛	陽 陰一部	船戸拓本。二七×三六。
一二九	一七〇一	元禄十四辛巳 天三月廿八日	供出	浄土真宗大泉寺（安中市安中）	鑄工武州江戸木村将監安繼		【安中市誌】B（昭和三九）。
一二八	一七〇一	元禄十四／籠 集辛巳／三月 廿八小	存	旧天台宗大久寺 現吉岡村消防団第七分団火の見櫓（北群馬郡吉岡村大久保）		陰	【吉岡村誌】A（昭和五五）。総高五三、竜頭高十二、口径三一。九七・四・二四調査。
一二七	一七〇〇	元禄十三庚辰 年霜月吉日	供出	天台宗法峯寺（群馬郡箕郷町西明屋）	野州安蘇郡／天明金屋町治工／長谷川七郎右門／藤原正吉		【箕郷町誌】A（昭和五〇）。小型梵鐘。
一二六	一七〇〇	元禄十三年六 月	供出	真言宗法性寺（邑楽郡板倉町大高島）	佐野金屋町 太田甚左衛門秀次		飯塚。乳の間・撞座各五、各仏種子を陽鑄。口径一尺三寸五分。百字真言鐘であろう。
一二五	一七〇〇	元禄十三年六 月	供出	真言宗清浄院（邑楽郡板倉町大高島）			飯塚。【毛野四七】、口径一尺三寸三分。
一二四	一七〇〇	元禄十三庚辰 年三月十六日	供出	浄土宗雲晴院（伊勢崎市日之出）	治工宇田川氏		【上毛二六四】A。殿鐘（Ⅱ一〇二）あり。
一二三	一六九九	元禄二二年？	亡	曹洞宗普濟寺（館林市羽附）			普濟寺享保四年（一七一九）在銘鐘銘によると、二十年前鑄造の鐘が破損したため享保四年に再鑄した。一六四九年あり。
一二二	一六九九	元禄十二 屠 維單闕	未詳	天台宗源正寺（富岡市神農）	西上刃碓水郡上磯部境 出井用從 佐野町		尾崎。
		卯		田町村田）	郎右衛門藤原正吉		

一四三	一七〇三	元禄十六癸未 年季春廿五鳥	存	臨濟宗弥勒寺 井町小棚	西村和泉守		尾崎、【多野藤岡地方誌】A(昭和五二)。第二次大戦中は半鐘として火の見櫓で使用。総高六八、龍頭高一三、口径四〇、四。一六七四・一七五二・一八五二年あり。九七・八・五調査。
一四二	一七〇二	元禄十五年夏	供出	天台宗勸学寺(富岡市中 沢)	丹生(富岡市)の鋳物師		【群馬県北甘楽郡史】(昭和三年)。大きさは普通、山号院号寺号のみあり。
一四一	一七〇二	元禄十五年歲 在壬午冬十月 廿七日	存	天台宗善昌寺(勢多郡新 里村新川)	鑄工/下野佐野天命之住/半田 六右衛門尉藤原正勝	陰	尾崎、【毛野五三】。総高一四三、龍頭高二三、口径七六。九七・七・二四調査。
一四〇	一七〇二	元禄十五 壬 午	供出	天台宗長楽寺(新田郡尾 島町世良田)	鑄工 下野州天命住 野村惣衛 門藤原信次		尾崎。一八一八年あり。
一三九	一七〇二	元禄十五 壬 午	供出	天台宗永寿寺(甘楽郡下 仁田町東野牧)	鑄物大工 佐野金屋町 丸山孫 右衛門藤原清重	陰	尾崎。深澤武【甘楽野古寺巡参】(昭和五八)一七三頁によると、この地の下鍛冶屋の太田半兵衛の作、鑄型の一片現存とのこと。住職によればないという。
一三八	一七〇二	元禄十五龍集 壬午五月吉祥 日	供出	曹洞宗大雄院(桐生市広 沢町)	冶工/下野刻安蘇郡佐野天明住 /小嶋氏藤原正吉/鑄物師松本 七右衛門		尾崎、船戸拓本、桐生岡拓本、【山田】A、【毛野五三】、【桐生】。梵鐘。二三三×三三六、五。鐘銘によると万治二年(一六五九)の鐘を改鑄した。
一三七	一七〇二	元禄十五壬午 春四月有九日	供出	曹洞宗長楽寺(甘楽郡下 仁田町本宿)	野州佐野金屋町 鑄物大工 丸 山姓孫右衛門尉藤原清重		尾崎、【甘楽史観】A。洪鐘。
一三六	一七〇二	元禄十五壬午 載中穗望日	亡	浄土宗定善寺(桐生市新 宿)			【毛野五三】。安永三年(一七七四)在銘定善寺鐘銘に本鐘の鐘銘が陰刻されている。一七七四年あり。
一三五	一七〇二	元禄十五年	未詳	曹洞宗養命寺(藤岡市上 日野)			【群馬県多野郡誌】B(昭和二)。
一三四	一七〇二	元禄十五天龍 集壬午/首夏 初八爨	供出	曹洞宗同聚院(伊勢崎市 泉町)	下野國佐野住/齋藤重郎兵衛藤 原盛林	陰	船戸拓本、【上野国伊勢崎郷土誌】(明治四三)。三七、五×四一。
一三三	一七〇二	元禄十五 壬 午	供出	曹洞宗善勝寺(高崎市西 横手町)	武州江戸神田鍛冶町口 河合兵 部 同姓善右衛門藤原周徳		尾崎。殿鐘(Ⅱ七九)も供出。

群馬県梵鐘年表稿

一四四	一七〇三	元禄十六癸未 年九月吉祥日	存	真言宗光恩寺 (邑楽郡千代田町赤岩)	江戸神田鍋町／治工 粉河屋 三宅久右衛門尉／宗信	陰陽	尾崎、飯塚、「便覧」(町 六三・一・二二)、折茂I。 三枝友治「上州・千代田よもやまばなし」B(昭和五八 同刊行会)。無乳、乳の間に一切如来大乘阿毘三昧百 字真言と三摩耶戒言を陽鑄。池の間五区に陰刻銘、縦帯 五区と撞座五にそれぞれ種子を一字陽鑄。総高一四三、 龍頭高三四、口径七六・五。一七四七年、II七五、III八 あり。九七・七・三二調査。
一四五	一七〇三	元禄十六年十 月吉日	未詳	曹洞宗宝珠院(桐生市広 沢町)	江戸住 小沼播磨守		「山田」。高一尺、径一尺四寸二分、半鐘。
一四六	一七〇三	元禄十六 癸 未	存未	曹洞宗建明寺(利根郡水 上町湯原)	大工 野州佐野 高橋□左衛門 藤原政重		尾崎。一八一三年あり。
一四七	一七〇四	元禄十七年甲 申年二月十五 日	存	真言宗總持寺(新田郡尾 島町世良田)	長谷川伊勢大掾	陰陽	尾崎、「毛野二七」、「便覧」町 六一・七・二四)、折茂I。 百字真言鐘。乳の間五区に乳なく、百字真言を陽鑄、池 の間三区に陰刻、縦帯五区と撞座五に種子を陽鑄。岩松 源義元の室寄進の板鐘(II七四)の音が絶つたので、この 室の七回忌に孝子義隆が再鑄。総高六九、龍頭高一三、 口径四九、四。一七三一年あり。九七・七・三〇調査。
一四八	一七〇四	元禄十七 閏 逢瀆灘	供出	時報鐘樓(前橋市旧大手 門近く)	鑄物師 野州天明 松本仁右衛 門		尾崎、「ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和 前 橋」写真(昭和五四)。旧鐘(II三五)は前橋総鎮守八 幡宮別当神宮寺鐘を江戸時代初期に借り受けた。
一四九	一六八八 一七〇四	元禄年間	亡	曹洞宗広福寺(利根郡新 治村羽場)			「利根郡誌」(昭和五)に引く享保四年(一七一九)在 銘広福寺鐘銘に見える。鑄造後すぐに損壊した。
一五〇	一六八八 一七〇四	元禄年間	亡	曹洞宗宝珠寺(佐波郡赤 堀村今井)	不明		宝曆十一年(一七六一)在銘宝珠寺鐘鐘銘に見える。明 曆年間あり。
一五一	一七〇四	宝永元年十月 晦日	供出	曹洞宗浄光寺(太田市龍 舞)	江戸神田 小沼播磨守		「山田」。半鐘。
一五二	一七〇五	宝永二乙酉曆 佛生日	供出	曹洞宗法長寺(伊勢崎市 今泉町)	治工 江戸神田 木村氏大兵衛 尉／藤原正次	陰	尾崎、船戸拓本。三三三、五×三九。
一五三	一七〇五	寶永二年乙酉 仲秋初六日	供出	臨濟宗西方寺(桐生市梅 田町)	大工 天明住人丸山孫右衛門尉 ／藤原清重		岩澤拓本、尾崎、「毛野五三三」、「山田」A、「桐生市史別巻」 (昭和四六)A。高三尺七寸、径二尺七寸。鐘銘によると

一五四	一七〇五	宝永二乙酉天 八月廿四日	供出	真言宗薬王寺（桐生市相生町）	野州天明金屋町住／大工半田彦兵衛藤原政勝	陰	承応年間鑄造鐘の再鑄（再吹鐘。殿鐘（Ⅱ一〇三）あり。船戸拓本、「山田」。高三尺三寸、径二尺四寸。三八、一×四三。愛宕山大権現鐘で、薬王寺は別当寺である。一九二四年あり。
一五五	一七〇五	宝永二乙酉	供出	浄土宗長健寺（新田郡敷塚本町大原）	鑄大工 半田彦兵衛		尾崎。
一五六	一七〇六	寶永三龍集丙戌年／四月吉祥鳥	供出	曹洞宗福増寺（勢多郡赤城村津久田）	上州白井住祝融小沢氏		「上毛文化六五」A、「群馬県勢多郡敷島村誌」（昭和三四）。高三尺一寸、龍頭六寸五分、口径二尺二寸五分。鐘銘によると旧鐘（Ⅱ六五）は破損したため新鑄。一七二五年あり。
一五七	一七〇六	寶永三丙戌天八月五日	供出	天台宗正円寺（勢多郡黒保根村宿廻）	鑄物師 下野佐野住 半田彦兵衛藤原政勝	陰	尾崎、「毛野二九」。
一五八	一七〇六	寶永三龍次丙戌十一月十八日	供出	曹洞宗儀源寺（新田郡尾島町亀岡）	西嶋伊賀守家田村平右衛門尉		岩澤拓本、尾崎、「毛野二七」。口径六七、五。
一五九	一七〇六	寶永三年	供出	曹洞宗龍真寺（勢多郡新里村新川）	高橋五郎兵衛藤原正重		尾崎、「毛野五三」。
一六〇	一七〇六	宝永三年	亡	時宗青蓮寺（新田郡尾島町岩松）			享保二十年（一七三五）在銘青蓮寺鐘銘によると、徳治年間の鐘がこの年に二回鑄直された。一七九六年あり。
一六一	一七〇七	寶永龍舎丁亥／二月吉祥日	存	曹洞宗龍禪寺（勢多郡黒保根村八木原）	御鑄物師大工武蔵江戸神田鍋町／久田清兵衛	陰	「毛野二九」。「勢多郡誌」（昭和三三）。供出されたが、大阪府寝屋川市明王院で発見され、平成六年に返還された。総高八八、龍頭高一九、口径四九、七。九七・八・七調査。
一六二	一七〇七	宝永四丁亥天三月如意珠日	供出	曹洞宗応永寺（吾妻郡吾妻町岩下）	下野國佐野庄天明金谷町 鑄工 師 高橋五郎兵衛藤原政重 同 名惣兵衛		尾崎、「岩島村誌」A（昭和四六年）。拓本ありという。
一六三	一七〇七	寶永四年七月初九日	供出	曹洞宗長泉寺（桐生市梅田町）	佐野天明 藤原氏井上治兵衛重治		「山田」。高三尺、径二尺。一七四二年あり。
一六四	一七〇七	寶永四年歲次	供出	天台宗光嚴寺（前橋市総	武江住鑄工／奥田出羽棟源長廣		尾崎、「上毛二九二」A。鐘樓の鐘。一六二八年、一七

群馬県梵鐘年表稿

一七六	一七二〇	寶永七庚寅四月吉日	供出	曹洞宗泉龍院(桐生市菱町)	上野国新田郡大原住大工/椎名庄治郎/同源七郎		【菱の郷土史】A(昭和四五)、【桐生市史別巻】(昭和四六)A。重さ一一五貫。
一七五	一七二〇	寶永七年三月	供出	単立永明寺(館林市赤生田)	野州佐野天明金屋町 江田太郎 兵衛信國		飯塚。口径一尺三寸二分。殿鐘(Ⅱ八〇)あり。
一七四	一七一〇	寶永第七庚寅二月吉祥日	供出	真言宗長徳寺(邑楽郡板倉町細谷)			飯塚、【毛野四六】B、【群馬県邑楽郡誌】(大正六)。口径二尺一寸。
一七三	一七〇九	寶永六年	亡	曹洞宗長泉寺(太田市只上)			【山田】。安永五年(一七七六)在銘長泉寺鐘鐘銘に見える。
一七二	一七〇九	寶永六龍次己丑霜月吉辰	存	曹洞宗鳳仙寺(桐生市梅田町)	冶工/下野國佐野天命邑/井上治兵衛重治	陰一部	撞座のある縦帯に卍と種子一字を陽鑄。総高八〇、龍頭高一六、口部径四六。一六四一年あり。九七・八・七調査。
一七一	一七〇九	寶永六年十月	供出	真言宗華藏院(邑楽郡板倉町徐川)	下野天命之住 恩田彦兵衛		飯塚。口径一尺四寸。
一七〇	一七〇八	寶永五戊子歲孟冬吉日	供出	曹洞宗長伝寺(安中市板鼻)	鑄工 板鼻金井兵部重久 同三郎兵衛		尾崎、【安中市誌】B(昭和三九)。総高三尺四寸、周囲六尺二寸。
一六九	一七〇八	寶永五戊子天五月十七日	存	天台宗称名寺(安中市板鼻)	冶工當町金井兵部重久	陰	尾崎、【便覧】(市 四九・一・二五)、【安中市誌】B(昭和三九)、【資料安中市の文化財】B(昭和五四)。撞座は四。総高一五三、龍頭高三三、口径八一、二。鑄物師欄の当町とは板鼻のこと。九七・八・五。調査。
一六八	一七〇八	寶永五年四月	供出	曹洞宗高正寺(邑楽郡邑楽町藤川)	武州目沼住 諸字根相正綱		飯塚。口径一尺四寸。
一六七	一七〇八	寶永五戊子年二月三日	供出	天台宗水沢寺(北群馬郡伊香保水沢)			【上毛二八八】A、【伊香保志】A(昭和四五)、【北群馬・渋川の歴史】A(昭和四六)。
一六六	一七〇七	寶永龍集丁亥今月今日	供出	浄土宗大信寺(高崎市通町)	常州真壁郡下妻/小林嘉右衛門 /鑄物師 藤原政重/同弥兵衛	陰	尾崎、船戸拓本。川野辺寛【高崎志】に鐘樓あり。
一六五	一七〇七	寶永四年十一月	供出	時宗光林寺(邑楽郡邑楽町秋妻)	武州目沼住 諸右近尉正綱		飯塚。口径二尺四寸九分。
		丁亥仲秋吉且		社町)			〇二年、一八二七年あり。

一七八	一七二〇	宝永七庚寅八月吉祥日	供出	天台宗養壽寺(佐波郡東村国定)	大工/大原本町椎名源七郎	陰	船戸拓本。三三、五×三六、五。
一七九	一七二〇	宝永七龍次庚寅天中冬吉辰月十四日	供出	浄土宗大信寺(邑楽郡邑楽町篠塚)	武州江戸神田住鑄物師 久田清兵衛		飯塚。一尺二寸五分。
一八〇	一七二〇	宝永七 庚寅	供出	天台宗大雄寺(甘楽郡南牧村六車)	武江深川住 鑄工田中七右衛門尉藤原政旨		尾崎、『多野藤岡地方誌』A(昭和五二)。大正年間に時報に使用。
一八一	一七二一	寶永八辛卯年三月吉祥日	供出	臨濟宗東禪寺(桐生市川内町)	鑄師佐野天明町/半田彦兵衛藤原正勝	陰	尾崎、船戸拓本、『山田』A、『毛野五三』、『桐生市史別巻』(昭和四六)A。高三尺三寸、径二尺五寸。三五、五×四三、三。一六九二年あり。
一八二	一七二一	宝永八辛卯月如意珠日	供出	曹洞宗長純寺(群馬郡箕郷町富岡)	武州江戸神田住御鑄物師/小沼播摩守藤原正永	陰	『箕郷町誌』A(昭和五〇)。鐘銘によると旧鐘(II二三)があつたが寺運振るわず佚亡し、宝永八年に新鐘を鑄造したという。大鐘
一八三	一七〇四	宝永年間	亡	真言宗本然寺(桐生市境野町)	同國新田郡大原本町住/椎名氏	陰	明治三五年(一九〇二)在銘本然寺鐘銘によると、宝永年間に鑄造され、明治三五年に改鑄された。
一八四	一七二一	正徳元年辛卯歳九月穀日	供出	真言宗観音院(桐生市東)			尾崎、船戸拓本、桐生図拓本、『毛野五三』、『桐生』。三六、五×四三。
一八五	一七二一	正徳元年辛卯歳九月吉日	亡	旧熊野権現(高崎本町) 現高崎神社(高崎市赤坂町)	西上州群馬郡上新田村/中村彦兵衛利久(花押)/代工 同 喜善/同 与兵衛		川野辺寛『高崎志』B、土屋老平『旧事記』A。高崎神社は明治初期に二度火災にあつた。火災か廢仏毀釈の折に佚亡したと推測される。
一八六	一七二一	龍集正徳元年辛卯九月吉祥日	供出	法華宗養行寺(前橋市三河町)	西上州上新田村/鑄工 倉林傳左衛門則益/倉林長兵衛則政/倉林彌五左衛門政次		尾崎、『毛野四七』B。
一八七	一七二一	正徳元 辛卯	供出	曹洞宗海蔵寺(利根郡追貝)	治工 武州江戸神田鍛冶町二丁目 西嶋伊賀守田村平兵右衛門尉		尾崎、『利根村誌』(昭和四八)。重三五一疋。
一八八	一七二二	正徳二壬辰年仲夏八奠	供出	曹洞宗長興寺(勢多郡大胡町茂木)	治工 野脇佐野住 藤原氏半田彦兵衛正勝		尾崎、『毛野五三』、『大胡町誌』A(昭和五二)。

群馬県梵鐘年表稿

一九九	一九八	一九七	一九六	一九五	一九四	一九三	一九二	一九一	一九〇	一八九
一七二四	一七二四	一七二三	一七二三	一七二三	一七二三	一七二三	一七二三	一七二二	一七二二	一七二二
正徳四年林鐘 吉辰	正徳四甲午歲 四月吉祥日	正徳三 癸巳	正徳三 癸巳	正徳三年臘月 吉祥日	正徳三年癸巳 黃鐘月下流日	正徳三癸巳歲 十一月吉祥日	正徳三癸巳歲 十一月吉祥日	正徳二 壬辰	正徳二 壬辰 臘月吉祥日	正徳二年 癍 次 / 壬申五月 吉日
供出	存	供出	供出	供出	亡	未詳	供出	供出	存	供出
曹洞宗江徳寺（太田市大之郷）	高野真言宗福徳寺（前橋市上新田町）	真言宗福持寺（多野郡鬼石町鬼石）	真言宗妙真寺（佐波郡境町下淵名）	曹洞宗応林寺（桐生市梅田町）	黄檗宗長福寺（新田郡新田町木崎）	天台宗常安寺（群馬郡群馬町東国分）	薬師堂（群馬郡群馬町東国分）	黄檗宗達磨寺（高崎市鼻高町）	天台宗東福寺（北群馬郡吉岡村上野田）	曹洞宗鐵林寺（利根郡月夜野町）
江戸 太田近江大掾藤原正次	當村 / 倉林傳左衛門則盈 / 大工同名 / 長兵衛則政	江戸神田住 西宮大和 同武兵衛金廣	下野佐野天明住 長谷川七郎右衛門藤原正吉	大原村 椎名氏	大原村大工 椎名勝次郎	同洲同郡上新田村 大工倉林氏傳左衛門尉則盈 / 同 長兵衛尉則政	同洲同郡上新田村大工倉林氏伝左衛門尉則盈 / 同 長兵衛尉則政	冶工 武州江都神田鍛冶町 小沼播磨大掾藤原正永	同國同郡上新田村 / 大工 倉林長兵衛	上州群馬郡吹屋村 / 大工 小沢繁右衛門
	陰					陰一部			陰	
「山田」。	尾崎、「毛野四八」B、「吉岡村誌」（昭和五五）。総高一五、竜頭高二七、口径六三、五。一七四六年あり。九七・七・二六調査	尾崎、「多野藤岡地方誌」（昭和五一）。「地方誌」は正徳四年とする。	尾崎。	「山田」。梵鐘。	「新田町資料」A。安政六年（一八五九）、海防のために鑄潰された模様。総高三尺四寸五分、口径二尺五寸。	「毛野四七」、「上毛二八五」A、「吉岡村誌」（昭和五五）。縦帯に大日如来を陽鑄。昭和一六年現在、薬師堂の鐘堂にあり。一七八九年あり。	「国府村誌」A（昭和四三）。鑄物師名の同洲同郡とは上野国群馬郡の意。	尾崎。	「毛野四七」、「上毛二九一」A、「吉岡村誌」A（昭和五五）。総高六九、竜頭高一五、口径三九、重四〇。供出されたが戻る。鑄物師の同洲同郡とは上野国群馬郡のこと。九七・四・二四調査。	「桃野村誌」（昭和三六）B。

二〇〇	一七二四	正徳四年十月二十五日	供	真言宗金剛寺(邑楽郡千代田町福島)			飯塚。口径一尺三寸。
二〇一	一七二四	正徳四歳甲午 ／臘月	供出	真言宗万徳寺(佐波郡赤堀村下蝕)	治工野州佐野住藤原氏／半田彦兵衛／政勝	陰	尾崎、船戸拓本、長谷川龍雄「粕川流域物語」(昭和五四)。三六×四〇、七。
二〇二	一七二四	正徳四 甲午	供出	時宗光台寺(高崎市山名町)	鑄物師大工 下野國佐野天明金屋町住 太田庄左衛門満廣		尾崎。
二〇三	一七二五	正徳五年乙未 正月吉日	供出	天台宗不動寺(群馬郡箕郷町柏木沢)	大川近江守藤原正次／釜屋又右衛門		「箕郷町誌」A(昭和五〇)。半鐘。
二〇四	一七二五	正徳五年仲春 望日	未詳	曹洞宗龍興寺(館林市高根)	長谷川太衛門		尾崎、飯塚。口径一尺四寸。
二〇五	一七二五	正徳五年十月 吉祥日	供出	泉福寺摩寺(山田郡休泊村)	佐野天明 半田彦兵衛政勝		「山田」。高三尺五寸、径二尺三寸七分。泉福寺(太田市古戸)は現存。
二〇六	一七二五	正徳五乙未年 ／十二月二十七日	供出	曹洞宗大林寺(佐波郡赤堀村市場)	慶長十九年京御用鑄師孫／治工野原佐野住藤原氏／半田彦兵衛政勝／同 松本七衛門重次	陰	船戸拓本、「上毛二六四」B、長谷川龍雄「粕川流域物語」(昭和五四)。三一、五×三九、六。
二〇七	一七二六	正徳六丙申天 ／二月	存	真言宗浄蔵寺(新田郡尾島町堀口)		陽一部	百字真言鐘。乳の間五区に乳なく、種子五字を陽鑄、池の間四区に部百字真言を陽鑄、縦帯五区、撞座陰五に種子を陽鑄。第二次大戦中は火の見櫓にあり。総高六七、龍頭高一四、五、口径三八、八。一七四四・一九〇六年あり。九七・七・三〇調査。
二〇八	一七二六	正徳丙申四月 既望	供出	曹洞宗良珊寺(渋川市上郷)	武州幡羅郡妻沼住／大工 諸右近将藤原正剛		尾崎、「北群馬・渋川の歴史」A(昭和四六)。口径一尺有余。一六五六年あり。
二〇九	一七二一 ／一六	正徳年間	亡	曹洞宗水泉寺(高崎市倉賀野町)			「群馬県史」史料編一〇、九五九頁(昭和五三)。明治維新の廃仏毀釈の折に佚失か?殿鐘(II一〇〇)あり。
二一〇	一七二六	享保元丙申年 ／九月二十八日	存	真言宗大慶寺(新田郡新田町大根)	大原／椎名氏	陰	尾崎、「新田町資料」、総高二二五、龍頭高二七、口径九九・九七・五・一五調査。
二一一	一七二六	享保元年十一	供出	曹洞宗源清寺(館林市高)			飯塚。口径一尺三寸五分。

群馬県梵鐘年表稿

二二二	一七二六	享保元 丙申	未詳	根)	天台宗東園寺 (佐波郡宮郷)	大工 同國群馬郡上新田 倉林 傳左衛門則盈 同 長兵衛則澄	尾崎。佐波郡宮郷は現在の伊勢崎市西部にあたる。東園寺については未詳。
二二三	一七二七	享保二歳次丁酉正月如意珠日	供出	山)	米山薬師堂 (太田市丸山)	鑄物師 山本民部藤原徳敏	尾崎、「山田」A。梵鐘。尾崎は丸山薬師堂と記す。米山薬師は丸山薬師と同じ。
二二四	一七二七	享保二年	供出	杜町)	天台宗昌楽寺 (前橋市総)	倉林長兵衛	「毛野四七」、「吉岡村誌」(昭和五五)。
二二五	一七二八	享保三戊戌天九月大吉日	存未	岡)	日蓮宗本城寺 (富岡市富岡)	江戸住 西村和泉守	「甘楽史観」A。半鐘。一七二八年あり。
二二六	一七二八	享保三年九月	存	和村江口)	曹洞宗普濟寺 (邑楽郡明和村江口)	武州目沼住 諸右近尉藤原正綱	尾崎、飯塚。口径一尺四寸五分。乳の間五区梵字、出生無辺陀羅尼陽鑄。尾崎は鑄物師名の尉を正とする。
二二七	一七二八	享保三年十月吉祥日?	供出	之郷)	曹洞宗実相寺 (太田市沖之郷)	佐野新金屋町 高橋惣兵衛	「山田」。梵鐘。享保三年は恐らくは誤りで享保八年から同十一年の間であろう。
二二八	一七二八	享保三戊戌捻臘月吉日	供出	馬町引間)	天台宗妙見寺 (群馬郡群馬町引間)	武州江戸神田住鑄工/小沼播磨 守藤原長政	「国府村誌」A (昭和四三)。
二二九	一七二八	享保三年頃	亡	蛇井)	曹洞宗最興寺 (富岡市南蛇井)		明治十年(一八七七)在銘最興寺鐘銘によると、佚亡した寛文九年(一六六九)在銘鐘の代わりに峻峰禪人が鑄造したと考えられ、明治十年(一八七七)に再鑄(取替)された。
二三〇	一七二九	享保四龍集巳亥禩/仲春穀旦	存未	士見村横室)	曹洞宗昌福寺 (勢多郡富士見村横室)		都丸拓本、「上毛文化六五」A。半鐘。一五、五×一九、五。第二次大戦中、火の見櫓の半鐘として使用され、その後、戻った。
二二二	一七二九	享保四年二月	未詳	和村千津井)	真言宗密蔵寺 (邑楽郡明和村千津井)	御鑄物師大工 茂呂右近正綱	飯塚。口径一尺九寸八分。
二二三	一七二九	享保四己亥冬結制	存	附)	曹洞宗普濟寺 (館林市羽)	佐野天明住/大工/長谷川七郎 衛門/藤原正吉	尾崎、飯塚。鐘銘によると峰和尚が保紹に命じて懸けたものが二〇年で破損したため再鑄(再模出)したものである。総高六五、龍頭高一〇、口径四一、五。一六四九年あり。

二三三	一七二九	享保四己亥冬	供出	曹洞宗広福寺(利根郡新治村上羽場)	冶工 長谷川七郎兵衛		り。九七・七・三二調査。
二二四	一七一九	享保四 丁酉	未詳	臨濟宗崇徳寺(碓氷郡松井田)	鑄物大工 野州佐野天明金屋町丸山平右衛門尉藤原政重 同善次郎尉重春		尾崎。「利根郡誌」A(昭和五)。鑄物師名を尾崎は長谷川七郎右衛門とする。鐘銘によるとこの鐘は正徳三年(一七三三)に鑄造されたもの。殿鐘(Ⅱ八二)あり。
二二五	一七一九	享保四年	亡	真言宗不動寺(高崎市員沢町)	高崎住 倉林璘右衛門行光		尾崎。一六九二年あり。
二二六	一七一九	享保四年	供出	浄土宗受楽寺(太田市金山)	冶工 野州安蘇郡佐野天明住井上政兵衛重治 同太郎左衛門重友		「毛野四七」には、この鐘は「元治年間三鑄した」とあるが、再鑄と理解することにする。
二二七	一七二二	享保七年九月	供出	真言宗金蔵院(邑楽郡板倉町下五箇)	佐野天明町 太田甚左衛門秀次	陰一部	飯塚。口径一尺五寸二分。乳の間撞座各五、仏種子一字宛陽鑄。
二二八	一七三二	享保七年十月壬寅	供出	浄土宗勢光寺(邑楽郡大泉町東小泉)	鑄大工佐野丸山善次郎春重 同 重次郎	陰	尾崎、飯塚。口径二尺三寸。尾崎は鑄物師名を「丸山善太郎藤原春(秀カ)重丸山重次郎」とする。
二二九	一七三二	享保七壬寅歲十一月吉祥日	存	曹洞宗永福寺(高崎市寺尾町)	鑄師上新田村/中林儀右衛門/惟貞	陰	尾崎、「便覧」(市五三・三・十五)。総高一〇六、龍頭高一八、口径六四。九七・七・二五調査。
二三〇	一七三三	享保八年正月吉日	供出	曹洞宗神心寺(太田市龍舞)	江戸神田 粉川丹後守		「山田」。梵鐘。
二二二	一七三三	享保八年十一月	未詳	天台宗東昌寺(勢多郡宮城村柏倉)	作人佐野天明金座町藤原伊予		「宮城村誌」B(昭和四八)。一七三五年あり。
二二三	一七三三	享保八 癸卯	供出	曹洞宗慶雲寺(太田市鶴生田)	鑄工 武州江戸神田 片岡民部 大榎藤原高照		尾崎、岩澤拓本。
二二三	一七二四	享保九閏逢秋 徐歲夾鐘□□	供出	浄土真宗覚法寺(高崎市喜多町)	御鑄物師/江戸深川住太田近江大榎藤原正次/江芴栗田郡辻村住吉田又左衛門廣綱	陰	尾崎、船戸拓本。川野辺寛「高崎志」に鐘楼あり。四一、五×四六。

群馬県梵鐘年表稿

一三四	一七二四	享保九年四月	存?	曹洞宗善長寺(館林市当郷)	江戸本銀町 萬屋半兵衛		飯塚。口径一尺。一六七五年あり。普濟寺(館林市羽附)の鐘があるという。これに該当するか。
一三五	一七二四	享保九甲辰歲 /七月十五日	供出	曹洞宗雲谷寺(利根郡白沢村高平)	鐘師 沼田/關口昌亮/佐野天明/山崎家次		「上毛二九三」A。高一尺一寸、口径一尺二寸。一四七三年あり。
一三六	一七二四	享保九年八月十一日	存未	曹洞宗雲龍寺(館林市下早川田)	佐野古屋町 粉河屋善右衛門		飯塚、口径一尺三寸。
一三七	一七二四	享保九年八月	供出	真言宗五宝寺(館林市台宿町)	野州佐野天明住 長谷川七郎右衛門政吉 同 彦三郎正次		飯塚、「館林市誌(昭和四四)」。口径二尺三寸。一七八〇年あり
一三八	一七二四	享保九 甲辰	供出	天台宗大藏院(桐生市東久方)	御大工 長谷川八郎左衛門		尾崎。
一三九	一七二五	享保十乙巳仲春十五日	存未	曹洞宗福増寺(勢多郡赤城村津久田)		陰	都丸拓本、「上毛文化六五」A。半鐘。二〇、八×三一。Ⅱ六五、一七〇六年あり。
二四〇	一七二五	享保十乙巳年二月十五日	存未	臨濟宗臨川院(藤岡市上日野)		陰	「群馬県多野郡誌」A(昭和二)、『多野藤岡地方誌』A(昭和五一)。現在は桃林寺(麩寺)の観音堂にある。総高五七。
二四一	一七二五	享保十乙巳稔仲秋吉辰	供出	天台宗龍藏寺(前橋市龍藏寺町)	冶工 武江住 太田近江大壘藤原正次/前橋同 鶴野七良兵衛/藤原時直	陰	尾崎、都丸拓本、「上毛文化六五」A。鐘銘によると慶安年間鐘が破損したために新鑄した。高三尺五寸五分、龍頭一尺、口径二尺四寸七分。尾崎は鑄物師名「鶴野」を「宇野」とする。半鐘(Ⅱ四四)あり。
二四二	一七二五	享保十	供出	天台宗施無畏寺(富岡市田島)	武彗神田住 粉河丹後守		尾崎。
二四三	一七二六	享保十一年正月吉祥日	供出	浄土宗大善寺(桐生市相生町)	佐野住 松本七右衛門尉吉家		「山田」。梵鐘。
二四四	一七二七	享保十二年歲次丁未春二月	供出	元天台宗中台寺(伊勢崎市立花町) 伊勢崎市時鐘(伊勢崎市北国民学校)	福嶋氏重治	陰	船戸拓本、金子規矩雄拓本(東毛歴史資料館蔵)。伊勢崎市の時鐘として使われた。三二×四一。
二四五	一七二七	享保十二年二月	未詳	真言宗宝寿寺(邑楽郡明校)	下野國安蘇郡佐野天明金屋町住		尾崎、飯塚。口径二尺三寸二分。供出の可能性大。

二五五	一七二八	享保十三戊申 年九月吉日	供出	日蓮宗本城寺(富岡市富岡)	鑄物師江戸神田住 西村和泉守 藤原政時		尾崎、 「群馬県北甘楽郡史」 (昭和三)、 「甘楽史観」 A。総高三尺二寸、口径一尺。一七八八年あり。
二五四	一七二八	享保十三戊申 年九月吉日	供出	真言宗成就院(桐生市境野町)	大原町/椎名氏	陰	尾崎、桐生図拓本、 「山田」 、 「桐生」 。高三尺三寸、径二尺二寸。三三×三七、五。
二五三	一七二七	享保十二年	亡	曹洞宗松山寺(群馬郡箕郷町西明屋)			「箕郷町誌」 (昭和五〇)の天明三年(一七八三)在銘松山寺鐘銘によると、火災のために破損し、天明三年に重鑄された。
二五二	一七二七	享保十二丁未	供出	真言宗胎養寺(新田郡敷塚本町藪塚)	鑄師 武江神田住 粉河市正		尾崎、岩澤拓本。一七八三年あり。
二五一	一七二七	享保十二丁未 十二月吉日	供出	曹洞宗桂昌寺(勢多郡北橘村真壁)	鑄師大工野州佐野天明住/長谷川弥市郎藤原吉半/冶工 高橋惣兵衛/山崎吉兵衛	陰	尾崎、都丸拓本、 「上毛文化六五」 A、 「北橘村誌」 A(昭和五〇)。高二尺七寸三分、龍頭八寸、口径一尺九寸五分。二五、三×二九、六。旧鐘(Ⅱ一六)が破損したために再鑄した。一九〇二年あり。
二五〇	一七二七	享保十二年龍集丁未歲應鐘 吉祥日	亡	天台宗興禪寺(勢多郡赤城村三原田)			「上毛文化六五」 A、 「群馬県勢多郡横野村誌」 A(昭和三一)。この鐘は嘉永二年に焼け落ち、明治十二年(一八七九)に再鑄された。鐘銘は再鑄鐘の鐘銘に見える。
二四九	一七二七	享保十二丁未 十月	供出	天台宗観音寺(利根郡白沢村生枝)	鑄師 沼田住/藤原孝芳		「上毛二九三」 A。高二尺一寸三分、口径一尺二寸。
二四八	一七二七	享保十二丁未 歳十月吉祥日	未詳	曹洞宗広福寺(勢多郡東村座間)	鑄大工 下野安蘇郡天明町住 半田五郎右衛門藤原義次		尾崎、 「毛野二九」 。半鐘。
二四七	一七二七	享保十二年丁未 未八月吉祥日	存未	曹洞宗大沢寺(勢多郡東村沢入)	下野佐野富士原氏大工半田○兵衛正勝 同大谷權兵衛長久		「毛野二九」 。
二四六	一七二七	享保十二年二月	存未	曹洞宗松林寺(邑楽郡明和村大輪)	江戸神田住 西村和泉守		飯塚。口径一尺五寸。
		月 丁未		和村江黒	鑄物師大工 江田太郎兵衛藤原信國 同 長谷川彦三郎藤原正次 同 正田又右衛門藤原貞房		

群馬県梵鐘年表稿

二五六	一七二八	享保十三 戊申	供出	黄檗宗三福庵(甘楽郡下仁田町下仁田)	冶工 江府神田 今井信濃守藤原勝長		尾崎。尾崎は臨濟宗とする。
二五七	一七二九	享保十四年仲夏	存未	真言宗遍照寺(館林市緑)	佐野金屋町 半田甚右衛門藤原義次		尾崎、飯塚。口径一尺一寸七分。鑄物師名について尾崎は甚左衛門とする。一六七四年あり。
二五八	一七二九	享保十四酉年九月大吉日	存	曹洞宗瑞光寺(太田市神戸)	大工/佐野天明町大田又兵衛藤原宗長	陰	総高六六、三、龍頭高一四、三、口径三六、八。一七九七年あり。九七・七・三〇調査。
二五九	一七三〇	享保十五年八月	供出	宝幢院(邑楽出郡伊奈良村岩田)	野州佐野 三木平右衛門光長		飯塚。口径一尺四寸五分。この寺名は「名鑑」の邑楽郡に見えない。地名は現邑楽郡板倉町岩田であらう。
二六〇	一七三〇	享保第拾五載 龍集庚戌九月廿五日	供出	真言宗宝幢院(伊勢崎市連取町)	鑄物師/新田住権名氏貞當	陰	尾崎、船戸拓本。種子百字真言を陰刻。鐘銘によると寛文五年(一六六五)在銘鐘が破裂したために新鑄。
二六一	一七三二	享保十六辛亥年五月朔日	存	真言宗總持寺(新田郡尾島町世良田)	佐野天明之住 鑄工 太田甚左衛門尉藤原秀次	陽一部	尾崎、折茂工。百字真言鐘。乳の間五区に乳なく、それぞれ種子を陽鑄、池の間四区に百字真言を陽鑄、一区に銘文陰刻、縦帯五区の内一区に紀年・鑄物師名を陰刻、撞座五それぞれに種子を陽鑄。総高一三〇、龍頭高三一、五、口径七〇。Ⅱ七四、一七〇四年あり。九七・七・三〇調査。
二六二	一七三二	享保十六辛亥上冬吉祥日	存	曹洞宗林昌寺(吾妻郡中之条町伊勢町)	小幡内匠	陰	総高六四、龍頭高一三、口径三七、三。一七七五年、Ⅱ六九あり。九七・八・六調査。
二六三	一七三二	享保十六年十一月二十八日	供出	浄土宗大蓮寺(吾妻郡吾妻町)			「あがつま坂上村誌」(昭和四六)。総高三尺五寸、口径二尺五寸。鐘樓は享保十七年落成。
二六四	一七三二	享保十六 辛亥	供出	浄土宗善念寺(高崎市元紺屋町)	鑄物師 武江神田住 河合兵部		尾崎。川野辺寛「高崎志」に鐘あり。一六七三年あり。
二六五	一七三二	享保十七年四月	供出	真言宗吉祥寺(館林大島)	田中八兵衛和重	陰一部	飯塚、「毛野四六」B。「毛野四六」は鑄造年月と鑄物師名がないとするが、口径二尺五寸は飯塚と同じ。「毛野」の著者飯塚井蛙は飯塚多右衛門であり、両者の記録は同一人による。一応、両者の記録は同一の吉祥寺鐘と考えておく。梵字光明真言を刻し、上帯に十仏種子を、撞座に種子を陽鑄。

二七六	一七三三	享保十七子年 閏五月	供出	浄土宗九品寺（高崎市倉 賀野町）	御鑄物師 武劬江戸神田住 西 村和泉守藤原政時	尾崎、『群馬県史』史料編一〇、九五八頁（昭和五三）。
二六八	一七三四	享保十九歳 次甲寅仲春廿 五日	供出	真言宗大徳院（邑楽郡板 倉町大高島）	鑄物大工野州佐野天明金屋町／ 長谷川四郎兵衛藤原吉政／丸 山平右衛門藤原政重	飯塚、『群馬県邑楽郡誌』（大正六）。口径二尺二寸八分。 『名鑑』によると鐘楼は寛保元年（一七四一）建立。殿 鐘（二八四）と火の見櫓の喚鐘（二八五）あり。
二六九	一七三五	享保二十年二 月	供出	稻荷神社（邑楽郡板倉町 上五箇）		尾崎、飯塚、『毛野四七』。口径二尺四寸八分。
二七〇	一七三五	享保二十乙卯 載三月穀旦	供出	元天台宗医王寺（新田郡 新田町木崎）	佐野天明町大工三木平右工門	飯塚。口径一尺一寸。
二七一	一七三五	享保二十乙卯 年七月	未詳	真言宗遍照寺（富岡市上 黒岩）	下野國佐野天明町 冶工 長谷 川彌市藤原吉伴	尾崎、『新田町資料』A。総高三尺、口径二尺一寸。医王 寺は天台宗来迎寺（新田郡新田町中江田）に合併された。
二七二	一七三五	享保二十年九 月	存未	曹洞宗宝寿院（邑楽郡大 泉町寄木戸）	佐野天明 太田七左衛門	尾崎、『群馬県北甘楽郡史』（昭和三）、『甘楽史観』A。 洪鐘。供出の可能性大。
二七三	一七三五	享保廿乙卯十 月吉旦	存	時宗青蓮寺（新田郡尾島 町岩松）	佐野天明金屋町／冶工大田甚左 衛門／藤原秀次	鐘銘によると宝永三年（一七〇六）在銘鐘の音が絶った ので再鑄したもの。縦帯二区に「南無阿弥陀陽仏」と陽 鑄。総高六六、龍頭高一四、口径三七、五。徳治年間・ 一七九六年あり。九七・七・三〇調査。
二七四	一七三五	享保二十乙 卯	未詳	臨濟宗宗学寺（吾妻郡中 之条町大塚）	上劬萩原村 倉林長兵衛	尾崎。
二七五	一七三五	享保二十 卯	未詳	天台宗東昌寺（勢多郡宮 城村柏倉）	鑄師 佐野天明金屋町住人 藤 原伊豫	尾崎、『毛野五三』。一七三三年あり。
二七六	一七三五	享保二十	供出	真言宗愛染院（佐波郡境 町境）	太田次左衛門秀次	尾崎。尾崎は年号を示していないが順番から享保二十年 と判断する。一七六二年あり。
二七七	一七三六	享保二十一年 首夏	未詳	浄土宗善導寺（館林市楠 町）		飯塚。口径一尺五寸。一六七六・一九二八年あり。

群馬県梵鐘年表稿

二七八	一七三七	元文二年	亡	浄土宗浄運寺(桐生市本町)				明和四年(一七六七)在銘浄運寺鐘銘によると、正保三年(一六四六)在銘鐘が破損し元文二年に再鑄されたが、これも音が悪く失われた。
二七九	一七三九	元文四己未 二月吉祥日	存	曹洞宗妙英寺(太田市鳥山)	下野国佐野住/大工太田甚左衛門尉/藤原秀次	陰		「太田市報告」B。総高五、竜頭高九、口径三一、五。一六二七年あり。九七・七・三〇調査。
二八〇	一七四〇	元文五年六月	存未	元真言宗南光寺(太田市上小林) 現常光院(埼玉県熊谷市上中条)	佐野天明 太田甚左衛門藤原秀次			「山田」。高一尺九寸、径一尺三寸五分。一七五四年あり。折茂Ⅱ。百字真言鐘。供出後、常光院に移った。口径四一、五。
二八一	一七四〇	元文五庚申八月日	供出	臨濟宗崇禪寺(桐生市川内町)	武芴江戸神田之住/鑄工 小幡内匠藤原勝行	陰		船戸拓本、「山田」A、「桐生市史別巻」B。高三尺一寸五分、径二尺二寸三分。三四×三六、七。一六九三年あり。
二八二	一七四〇	元文五 申	供出	曹洞宗正禪寺(利根郡昭和村椽久保)				尾崎、「村誌久呂保」(昭和三六)。梵鐘。
二八三	一七四一	元文六年二月	供出	真言宗宝性院(邑楽郡板倉町離)				飯塚、「毛野四七」。口径一尺二寸。後者は口径一尺三寸とする。
二八四	一七四一	寛保元 辛酉	供出	真言宗威光寺(太田市由良)	作者 大原本町 椎名傳兵衛貴當			尾崎。一六九六年あり。
二八五	一七四二	寛保二龍次壬戌仲春穀旦	存	真言宗西慶寺(太田市鳥山番外)	鑄師下野國佐野天明町 長谷川弥市秀勝/山崎吉兵衛	陰陽		「太田市報告」A、折茂Ⅰ、「太田市市の文化財」写真(平成七)、「便覧」(市)平六・三・二五。百字真言鐘。乳の間五区に百字真言種子を陽鑄、縦帯五区に撞座あり、撞座に種子を陽鑄。総高一三八、竜頭高二九、口径七八、三。Ⅲ七あり。九七・七・三〇調査。
二八六	一七四二	寛保二年初夏 佛誕生日	存未	曹洞宗長泉寺(桐生市梅田町)	佐野 石原平四郎 天明 藤原安信			「山田」。高一尺八寸、径一尺三寸。一七〇七年あり。
二八七	一七四二	寛保二年五月 吉日	供出	真言宗学音寺(太田市吉沢)	佐野天明 長谷川彌一藤原秀勝			「山田」。梵鐘、光明真言梵字銘あり。
二八八	一七四二	寛保二年七月	未詳	現警鐘(邑楽郡大箇野村字奈根)	古河町住治工 野村忠兵衛重範	陰一部		飯塚。乳の間、撞座各五、仏種子宛陽鑄。口径一尺一寸。大箇野村は現板倉町。現警鐘の意味については未詳。警報用の鐘か。

二八九	一七四二	寛保二星次壬戌歳孟冬二旬餘日	供出	浄土宗安国寺(高崎市通町)	鑄工 武江神田住粉河市正藤原宗次	陰	尾崎、船戸拓本。川野辺寛「高崎志」に鐘樓あり。三八、三〇四〇。一六五二・一七八六年あり。
二九〇	一七四二	寛保二壬戌	供出	真言宗徳性寺(新田郡尾島町押切)	鑄師 下野佐野天明金屋町丸山善太郎每昭	陰一部	尾崎、岩澤拓本。
二九一	一七四四	延享元年甲子三月吉日	存	旧真言宗正覚寺 現真言宗浄蔵寺(新田郡尾島町堀口)	佐野住鑄物師 / 三木平右衛門	陽一部	折茂II。百字真言鐘、乳の間五区に乳なく、百字真言種子を陽鑄、縦帯五区撞座五にそれぞれ種子一字を陽鑄、池の間一区陰刻。正覚寺は浄蔵寺に併合された。総高六六、龍頭高一三、口径三七、九。一七一六・一九〇六年あり。九七・七・三〇調査。
二九二	一七四四	延享元 甲子	供出	天台宗清泉寺(新田郡笠懸村鹿)	野州天命住 藤原氏長谷川弥市秀勝 金子伊兵衛政房		尾崎。
二九三	一七四四	延享 甲子	供出	真言宗真楽寺(前橋市駒形町)	繪旨頂戴之治工職人一千曆九代之先祖 崎山五左工門豊宗 同文次郎吉久		尾崎。
二九四	一七四六	延享三丙寅ノ曆二月	供出	曹洞宗雲昌寺(利根郡昭和村川額)	武江深川住治工田中七右衛門尉 / 藤原知義		尾崎、「村誌久呂保」A(昭和三六)。梵鐘。
二九五	一七四六	延享三丙寅神壽吉祥日 龍集	不明	曹洞宗桂林寺(伊勢崎市日之出)	武州兒玉町金屋邑 鑄物師 / 倉林甚兵衛 / 同苗彌右衛門		「上毛二六四」A。五・六年前、盜難にあう。
二九六	一七四六	延享三丙寅夷則良辰	供出	臨濟宗吉祥寺(利根郡川場村門前)	治工師 下野國天明 三木平右衛門光長 同 沼田坊新田町高橋彌右衛門盛榮		尾崎。「利根郡誌」(昭和五)は鐘樓の存在を記す。「群馬県史」資料編十二(昭和五七)八七九頁によると、この鐘は応安年間鐘が破損したために鋳直したものと。
二九七	一七四六	延享三歳次丙寅中秋穀旦	供出	曹洞宗高園寺(桐生市梅田町)	鑄工 野州佐野天明 丸山善太郎每昭		尾崎、「山田」A。高三尺六寸、径二尺五寸。殿鐘(II一〇一)あり。
二九八	一七四六	延享丙寅十月吉祥日	存未	天台宗高秀寺(太田市矢田堀)	天明十屋町 粉河屋善右衛門		「太田市報告」B。総高七三、龍頭高一五、口径三二。
二九九	一七四六	延享三丙寅年 / 十一月吉日	供出	天台宗法輪寺(高崎市羅漢町)	下野國佐野町鑄師丸山氏善太良 每昭		尾崎、「上毛二二二」B、川野辺寛「高崎志」、土屋老平「旧事記」。旧無縁堂の鐘、無情の鐘と呼ばれた。無縁

群馬県梵鐘年表稿

三〇〇	一七四六	延享三丙子年十一月吉日	存未	高野山真言宗福德寺（前橋市上新田町）	大工 同村 倉林長兵衛		堂は高崎の茶毘所で、法輪寺持であった。笠形高四尺、龍頭高一尺五寸、周八尺四寸。
三〇一	一七四六	延享三歲次丙寅冬十一月書雲日	供出	曹洞宗曹源寺（太田市東今泉）	鑄師 佐野天明住丸山善太郎毎昭	陰	尾崎、「毛野四八」、「吉岡村誌」（昭和五五）。半鐘。一七四四年あり。同村とは上新田村のこと。
三〇二	一七四七	延享第四龍集丁卯夏四月三日	供出	真言宗光栄寺（山田郡大間々町大間々）	佐野住長谷川弥市／藤原秀勝／鑄工 同 大谷權兵衛／藤原長久／同 小沼五郎右衛門／藤原吉光	陰	尾崎、船戸拓本、「山田」、「毛野五三」。梵鐘。寛文五年（一六六五）在銘鐘の重鑄。三七、三×三七。
三〇三	一七四七	延享四龍舍丁卯年中秋上流日	存未	曹洞宗東雲寺（新田郡新田町小金井）	下野州佐野住／太田権左右衛門政廣		尾崎、「新田町資料」A。総高六七、口径三八。一六九四年あり。
三〇四	一七四七	延享四年十一月二十五日	未詳	薬師堂（館林市傍示塚）			飯塚。口径一尺三寸五分。薬師堂については未詳。
三〇五	一七四七	延享四丁卯十二月	供出	浄土宗光心寺（多野郡吉井町小串）			「多野藤岡地方誌」A（昭和五一）。殿鐘。一六九四年あり。
三〇六	一七四七	延享四年十二月	供出	真言宗光恩寺（邑楽郡千代田町赤岩）			飯塚。口径一尺二寸。一七〇三年・一七五五・一八八あり。
三〇七	一七四七	延享四丁卯歲	供出	真言宗延命寺（伊勢崎市馬見塚）	大工 佐野住人太田甚左衛門秀次	陰陽	尾崎、船戸拓本、「毛野五五」B。池の間五区の内、四区に百字真言を陽鑄、乳の間には乳なく金剛界種子を陽鑄、縦帯には種子を陽鑄。草の間に法輪あり。口径二尺五寸、鐘身高二尺九寸、笠形高二寸三分、龍頭高九寸四分、重量一〇九貫。總持寺鐘（一七〇四年）に似ている。一七〇あり。
三〇八	一七四八	延享第五龍宿戊辰四月九日	存	真言宗教王寺（太田市細谷）	野州天明鑄物師大工恩田甚助藤原信次／長谷川弥市藤原秀勝	陰陽	尾崎、「太田市報告」A、折茂I。「太田市の文化財」写真（平成七）。「便覧」（市平六・三・二五）。百字真言鐘。乳の間五区に乳なく百字真言を陽鑄、池の間五区陰刻、縦帯五区・撞座五に各々種子一字を陽鑄。総高一

三〇九	一七四八	延享五	供出	曹洞宗祥雲寺(桐生市境野町甲)	甚左衛門尉秀嗣		七、龍頭高二〇、口径六九、九。一七六六年あり。九七・七・三一調査。
三一〇	一七四八	延享五年	亡	曹洞宗曹源寺(太田市東今泉)	不明		尾崎。一七七九年あり。
三一	一七四八	寛延元戊辰初冬	供出	真言宗妙音寺(桐生市西久方町)	冶工/丸山善太郎每昭	陰	「山田」に引く嘉永五年(一八五二)在銘曹源寺鐘銘によると、その後焼失し、嘉永五年に新鑄。
三二二	一七四八	寛延元龍舎戊辰霜月吉日	存	曹洞宗常鑑寺(勢多郡黒保根村水沼)	下野佐野天明金屋町/鑄物師大工/丸山善太郎每昭	陰	尾崎、「毛野二九」、「便覧」(俱 四八・八・二二)、「群馬の文化財―美ふるさとを誇る」写真(昭和六〇)。撞座の上部に仏像を陽鑄。総高一一一、龍頭高二六、五、口径六一。一八六四年あり。九七・八・七調査。
三二三	一七四八	寛延元辰	未詳	天台宗西方寺(富岡市岡本)	鑄物師大工 下野佐野天明住井上彦右衛門重保		尾崎。
三二四	一七四九	寛延二年己巳十月	供出	浄土宗清見寺(吾妻郡中之条町中之条)		陰	「群馬県吾妻郡中之条町郷土誌」(大正八)。総高四尺、口径二尺五寸、重百貫。一七四九年あり。
三二五	一七四九	寛延二己巳十月日	存	浄土宗清見寺(吾妻郡中之条町中之条)		陰	総高七〇、龍頭高一六、口径三八、四。一七四九年あり。九七・八・六調査。
三二六	一七四九	寛延二天己巳十月吉祥	供出	曹洞宗釈迦尊寺(前橋市元総社町)	江戸住/西村和泉守/藤原政時	陽	「上毛二八七」B。殿鐘(II八三)あり。
三二七	一七四九	寛延二歳舎己巳大呂吉祥月	未詳	曹洞宗清雲寺(利根郡昭和村糸井)	野州鑄工		尾崎、「利根郡誌」A(昭和五)。
三二八	一七四九	寛延二年	供出	臨濟宗栖蓮寺(富岡市富岡)			「群馬県北甘楽郡史」(昭和二三)。総高二尺五寸、口径一尺三寸、重二十貫。
三二九	一七四九	寛延己巳	未詳		治工 江戸住 森半兵衛		尾崎。所在地の記述なし。
三三〇	一七五〇	寛延三庚午年/二月朔日	存	元弘永寺 現観音堂(邑楽郡千代田村後天神原)		陰	三枝友治「上州・千代田よもやまばなし」A(昭和五八同刊行会)。火の見櫓の半鐘として使用されていた。総

群馬県梵鐘年表稿

三三〇	一七五四	寶曆四年三月	供出	真言宗浄蓮寺（邑楽郡板倉町大曲）	野州天明町鑄師 崎山五左衛門 滿國		飯塚。一尺二寸五分。
三二九	一七五四	宝曆四庚戌歲 三月二十八日	亡	日蓮宗本妙寺（伊勢崎市山王道）	棟梁鑄物司同國田中島村住人／高岸半七藤原頭久／佐野住人新井新兵衛藤原秀勝		明治三十三年（一九〇〇）在銘妙本寺鐘銘に宝曆四年の旧鐘銘を刻しており、この鐘は万延元年（一八六〇）に破裂し、明治三十三年（一九〇〇）に再鑄された。
三二八	一七五四	寶曆四年甲戌 三月十一日	供出	浄土宗哀愍寺（新田郡尾島町尾島）	御鑄物師江戸神田住西村和泉守 藤原政時	陰一部 陽	尾崎、「毛野二七」。口径七七。撞座のない縦帯二区に六字の名号を陽起。
三二七	一七五四	寶曆四甲戌歲 二月吉祥日	存	旧真言宗安樂寺 現真言宗安勝寺（邑楽郡板倉町親谷）	冶工 佐野新町住 大河太郎兵衛／藤原宗封／同所中町住 崎山五左衛門／藤原滿國	陰一部 陽	尾崎、飯塚、「群馬県文化財図録」写真（昭和二九）、「民間信仰としての板倉町の石像物と文化財」A（昭和五七）。池の間三区縦帯二区に光明真言一百八遍を陰刻し、上帯に種子十二字を陽鑄、撞座二に種子を陽鑄。総高一三七、竜頭高三〇、口径七六。昭和二七年、安樂寺と景勝寺が合併し安勝寺となる。一八〇六年あり。九七・七・三一調査。
三二六	一七五三	宝曆三 癸酉	供出	天台宗安養院（前橋市筑井）	冶工 同國群馬郡上新田村 中 林治助貞玄		尾崎。
三二五	一七五三	寶曆三癸酉孟夏	亡	雷神岳神社（桐生市梅田町）			「群馬県山田郡誌」の雷神岳神社鐘銘によると、鑄造後破損し、文化十年（一八一三）に新鐘が鑄造された。
三二四	一七五二	宝曆二 壬申	供出	真言宗金剛寺（碓氷郡松井田町新掘）	鑄師 野易佐野住 伊賀守 新井七左衛門		尾崎。殿鐘（Ⅱ八六）あり。
三二三	一七五二	寶曆二 壬申 二月吉祥日	存	臨濟宗弥勒寺（多野郡吉井町小棚）	江戸 西村和泉守	陰	尾崎。「多野藤岡地方誌」（昭和五〇）。「地方誌」は宝永年代の鐘とする。甘楽郡小幡の崇福寺の鐘であったと言われる。一六七四・一七〇三・一八五二年あり。
三二二	一七五二	寶曆二壬申天	存	曹洞宗放光寺（新田郡新田町般若）	江戸／西村和泉守		尾崎。「総社町郷土誌」（明治四三）。口径一尺二寸。一六九一年、一八九六年あり。
三二一	一七五〇	寛延三年十月	供出	曹洞宗元景寺（前橋市総社町植野）			「新田町資料」A。総高五九、龍頭高一四、口径三三、五。明治九年の追銘あり。九七・五・一五調査。

三三二	一七五四	寶曆四年秋八月吉日	供出	真言宗南光寺(太田市上小林)	佐野金屋町 大川太郎兵衛藤原宗封		「山田」。高三尺六寸、径一尺三寸。一七四〇年あり。
三三一	一七五四	寶曆四甲戌歲十一月吉祥日	未詳	日吉山王七社大権現(佐波郡?)	野州安蘇郡佐野住鑄物師丸山善太郎毎昭	陰	船戸拓本。三二×三八、七。鐘銘によると再鑄鐘である。日吉山王七社大権現に就いては未詳であるが、本鐘の願主は日吉山寂光院禪養寺中興十一世であり、禪養寺は別当寺と推測される。禪養寺についても未詳。供出の可能性大。
三三三	一七五四	寶曆四 庚戌	供出	真言宗長慶寺(新田郡新田町上田中)	鑄工 佐野天明住 新居新兵衛藤原政時		尾崎。
三三四	一七五四	寶曆四 庚戌	供出	真言宗円福寺(新田郡新田町上田中)	鑄工御釜屋 堀野山城棟藤原清 □ 入道尹甫		尾崎。「新田町資料」に円福寺の宝曆四年の鐘供養塔あり、これは寺の入り口の向かって右にある。九七・五・一五調査。
三三五	一七五四	寶曆四 庚戌	未詳	村社日枝神社(佐波郡上陽)	鑄物師 野州安蘇郡佐野住丸山善太郎毎昭		尾崎。地名は旧名であり、上陽は現玉村町にあたるが、日枝神社の所在地については未詳。
三三六	一七五五	宝曆五年	亡	真言宗南光寺(新田郡笠懸村阿左美)			「笠懸村誌」別巻二(昭五八)。昭和二八年在銘南光寺鐘鐘銘によると、この鐘は明治二二年に火災に遭い佚亡し、明治四一年(一九〇八)に新鐘が鑄造された。II七三あり。
三三七	一七五六	寶曆六年二月吉祥日	供出	真言宗心王寺(太田市只上甲)	佐野天明 長谷川七郎右衛門		「山田」。高四尺二寸、径二尺二寸。
三三八	一七五七	寶曆七年三月	未詳	東福院(邑楽郡大箇野村飯野)	佐野天明住大工 藤原五左衛門満國	陰陽	飯塚。光明真言(梵字)陽鑄、阿弥陀呪(梵字)陰刻。口径一尺三寸。大箇野村は現板倉町、東福院については未詳。
三三九	一七五七	寶曆七年四月	未詳	観音寺(邑楽郡大箇野村高取)			飯塚。口径一尺三寸。大箇野村は現板倉町。観音寺については未詳。
三四〇	一七五七	寶曆七丁丑八月十五日	存未	曹洞宗善宗寺(太田市只上甲)	佐野天明住 石原平四郎安住 同名彦市郎		「太田市報告」B、「山田」。総高六一、龍頭高一三、口径二九、七。円音坊の半鐘であったが、第二次大戦中は火の見櫓の半鐘として使用した。「山田」は「八月穀旦」とする。

群馬県梵鐘年表稿

三四一	一七五七	宝曆七 丁丑	存?	天台宗天人寺 (佐波郡境町平塚)		尾崎。一七七〇・一七八五年あり。殿鐘二口の内、一口現存。他は供出。
三四二	一七五八	宝曆八歳戊寅 三月 日	存未	真言宗東光寺 (太田市本町)	下野国佐野天明住 鑄工 丸山源助政重	「太田市報告」B。総高五八、龍頭高一四、口径二八。
三四三	一七五八	寶曆八年十月 戊寅	供出	曹洞宗宗金寺 (太田市植木野)	佐野天明 丸山善太郎藤原每昭	尾崎、「山田」。高三尺、径二尺二寸。
三四四	一七五八	宝曆八戊寅年 十一月吉日	供出	真言宗北野寺 (安中市下後開)	佐野天明鑄物師新井新衛門	尾崎、「安中市誌」B (昭和三九)。総高四尺二寸三分、重量三六一匁。
三四五	一七五八	宝曆八 戊寅	存未	浄土宗長念寺 (太田市本町)	鑄工 下野国佐野天明町 丸山源助政重	尾崎。殿鐘。一六六五・旧善導寺一六七六年あり。
三四六	一七五九	寶曆九年歳次 己卯初冬二十 二日	供出	真言宗医光寺 (勢多郡黒保根村上田沢)	鑄工 / 下野国佐野天明新町大川 太郎兵衛藤原宗封	尾崎、「毛野二九」、「毛野五四」A。縦帯の上部下部に金剛界又は胎藏界の四仏又は五仏種子を陽鑄。総高四尺六寸、龍頭高一尺五寸、口径一尺五寸。
三四七	一七五九	寶曆九年黃鐘	未詳	曹洞宗常光寺 (邑楽郡明和村大輪)		飯塚。口径一尺五寸。
三四八	一七五九	宝曆九 己卯	供出	天台宗東楊寺 (新田郡尾島町大館)	御鑄物師 江戸神田住 西村和泉守藤原政時	尾崎。殿鐘 (Ⅱ八七) あり。
三四九	一七六〇	宝曆十年	供出	曹洞宗海円寺 (利根郡新治村相俣)		本田夏彦「相俣海円寺の洪鐘」(「新治村史料集」第四集昭和三七)。
三五〇	一七六〇	寶曆第十庚辰 歳如月吉日	存	真言宗瀧興寺 (勢多郡新里村関)	野刻佐野住人 / 長谷川重蔵藤原秀春 / 太田甚左衛門尉藤原秀次	尾崎、「毛野五三」。供出後、文化財としての価値を認められ足尾から返還された。池の間四区上部に種子各五字を陽鑄、縦帯に種子各一字を陽鑄。銘文は陰。総高一一六、龍頭高一七、口径六七、五・九七・六・二四調査。
三五二	一七六〇	寶曆十年十月 二十八日 庚辰	供出	真言宗成就院 (邑楽郡大泉町城之内)	野州佐野住御鑄物師 太田甚左衛門藤原秀重 同 重蔵秀次	飯塚。口径一尺七寸一分。
三五二	一七六〇	寶曆十年八月 十五日	供出	曹洞宗慶徳寺 (邑楽郡邑楽町石打)	佐野天命住 丸山源助	尾崎、飯塚。縦帯に仏像二体陽鑄。口径二尺三寸三分。

三五三	一七六〇	宝曆十辰霜月 日	供出	天台宗普賢寺(多野郡吉井町多比良)	下野国佐野天明新町鑄師 大河原太郎兵衛原宗封 同三郎兵衛		「吉井町誌」B(昭和四九)。普賢寺に拓本ありという。
三五四	一七六〇	宝曆十年/庚辰十二月	供出	曹洞宗長桂寺(勢多郡富士見村漆窪)	野州佐野住御鑄物師/太田和泉守藤原秀勝/七代末孫/太田甚左衛門尉/秀重		尾崎、「上毛文化六五」。殿鐘(Ⅱ八八)あり。
三五五	一七六〇	宝曆十 庚辰	供出	曹洞宗如意寺(利根郡月夜野町上津)			尾崎。殿鐘(Ⅱ八八)あり。
三五六	一七六〇	宝曆十 庚辰	未詳	曹洞宗龍滄院(利根郡片品村東小川)	冶工 野易佐野天明中町 崎山五左衛門		尾崎。
三五七	一七六〇	宝曆十 辰	供出	浄土宗遷流寺(沼田市下川田)	武易江府大門通 銅屋寅次郎		尾崎。
三五八	一七六一	寶曆十一辛巳年四月二十五日	供出	曹洞宗宝珠寺(佐波郡赤堀町今井)	鑄工佐野 丸山林八長暉/大谷権兵衛長久/伊勢崎岡田新兵衛 嘉敬於金屋町作之	陰一部 陽	尾崎、船戸拓本。縦帯四区に持國天、多聞天、廣目天、增長天を陽鑄。鐘銘によると、明暦年間と元禄年間に鐘を鑄造した。両者は佚亡した模様である。三一、五×三七。
三五九	一七六一	寶曆十一年十月吉日	供出	真言宗正願寺(太田市茂木甲)	佐野 恩田甚助藤原信次		「山田」は梵鐘とするが、寺によると殿鐘とのよし。
三六〇	一七六一	宝曆十一 辛巳	供出	曹洞宗泰寧寺(利根郡新治村須川)			尾崎。
三六一	一七六一	宝曆十一 辛巳	存未	曹洞宗泰寧寺(利根郡新治村須川)			尾崎。殿鐘。
三六二	一七六一	宝曆十一 辛巳	供出	天台宗觀福寺(甘楽郡下仁田町西野牧)			尾崎。
三六三	一七六一?	宝曆十一?	亡	真言宗宝勝寺(多野郡新町)			「新町の文化財」(昭和五四)。鐘樓門あり、宝曆十一年の建立。鐘は宝曆十一年頃に鑄造されたと推測されるが、寺伝によると、供出された鐘はその後のより新しいものという(表Ⅱ不録)。恐らく宝曆十一年鐘は破損などの理由で再鑄されたのであるう。

群馬県梵鐘年表稿

三六四	一七六一	宝暦十二壬午 天正月吉日	存未	真言宗福蔵院(新田郡尾 島町市野井)	伍大尊佐野鑄物師大工/恩田甚 助藤原信次	陰一部 陽	尾崎、「新田町資料」A写真。二十一夜待供養半鐘。総 高六四、口径三八。本鐘は盗難にあり、現在、太田市役 所に保管といわれる。
三六五	一七六一	宝暦十二年正 月吉日	供出	曹洞宗泉龍寺(吾妻郡高 山村尻高)			「群馬県吾妻郡高山村誌」B(昭和四七)。殿鐘。一六 九一年あり
三六六	一七六二	宣(宝)暦十 二千午二月	亡	真言宗金剛寺(勢多郡宮 城村苗ヶ島)			寛政十二年(一八〇〇)在銘金剛寺鐘銘にみえ、寛政 十二年(一八〇〇)に「再造立」された。一九一九年あ り。
三六七	一七六二	宝暦十二壬午 歳/九月吉祥 日	供出	旧真言宗勝光寺 現真言 宗福蔵院(新田郡新田町 市野井)	冶工	陰一部 陽	「新田町資料」A。百字真言あり。寶珠山勝光寺と市野 井山福蔵院が合併して寶珠山福蔵院となる。鐘樓前に鐘 銘の石碑あり。天正年間あり。
三六八	一七六一	宝暦十二壬 午	供出	真言宗愛染院(佐波郡境 町境)	下野國佐野天明之住 新井源七		尾崎。一七三五年あり。
三六九	一七六一	宝暦十二壬 午	供出	天台宗西福寺(前橋市稻 荷新田町)			尾崎。
三七〇	一七六一	宝暦十二年	亡	天台宗普門寺(新田郡尾 島町世良田)			大正八年(一九一九)在銘普門寺鐘銘によると、破損 したため、大正八年に新鑄された。一六八一年あり。
三七一	一七六三	宝暦十三年癸 未六月廿五日	存未	曹洞宗東光寺(太田市新 屋)	鑄物師 武州妻沼町 茂呂幸七 政雄		「太田市報告」B。総高六五、龍頭高一六、口径二九、 五。現在火の見櫓の半鐘。
三七二	一七六三	寶暦十三癸未 季冬十月/穀 旦	存未	曹洞宗洞谷寺(太田市東 金井)	伍大尊佐野鑄物師大工/恩田甚 助藤原信次		「山田」、「太田市報告」A。総高七二、龍頭高一五、口 径三四、五。
三七三	一七六四	宝暦十四甲申 二月吉祥日	供出	曹洞宗法泉寺(利根郡月 夜野町石倉)	東都神田住/鑄工 粉川市正藤 原宗信		「桃野村誌」(昭和三六)B。
三七四	一七六四	寶暦十四年四 月十五日	供出	曹洞宗正泉寺(邑楽郡邑 楽町篠塚)	佐野天明住鑄物師大工 石原平 四郎安信		飯塚。口径一尺三寸。一八四三年あり。
三七五	一七六四	宝暦十四庚申 天四月	存	浄土宗源空寺(北群馬郡 子持村白井)	鑄物師/小沢作左工門/同友右 工門	陰	尾崎。総高七一、龍頭高一二、口径四五。一七七八年あ り。九七・八・六調査。

三七六	一七五一 一六四	宝暦年間	不明	真言宗安楽寺（高崎市上 大類町）			殿鐘。第二次大戦中は火の見櫓で使用、返還後、盗難に遭う。
三七七	一七六五	明和乙酉次集 乙酉歳八月大 吉辰	供出	天台宗善雄寺（勢多郡東 村萩原）	御鑄物師大工野州天明之住井上 彦右衛門藤原重保 同與七富藤 原安親		「毛野二九」。殿鐘（Ⅱ九〇）あり。
三七八	一七六五	明和乙酉仲 秋穀旦	未詳	曹洞宗大蒼院（勢多郡東 村小中）	御鑄物師佐野住井上彦左衛門重 保		尾崎、「毛野二九」。
三七九	一七六五	明和二年十一 月十三日	供出	浄土宗神光寺（邑楽郡邑 楽町中野）	佐野天明新町 新井源七		飯塚。口径二尺三寸。
三八〇	一七六五	明和式酉十二 月	存	真言宗医王寺（邑楽郡千 代田町鍋谷）		陰	三枝友治「上州・千代田よもやまはなし」A（昭和五八 同刊行会）。医王寺横の火の見櫓にあり。総高六一、 龍頭高九、口径三七。医王寺には明和三年の半鐘供養塔 がある。九七・七・三一調査。
三八一	一七六六	明和三龍集丙 戌小春吉辰	供出	臨濟宗龍谷寺（利根郡月 夜野町師）	野州佐野天明 冶工 丸山源助 藤原政重		尾崎、「利根郡誌」A（昭和五）。殿鐘（Ⅱ九九）あり。
三八二	一七六六 ？	明和丙戌天 ／四月二十二 日？	存	真言宗教王寺（太田市細 谷町）	江戸 西村和泉守	陰	「太田市の文化財」写真（平成七）、「便覧」（市 平 六・三・二五）。施主は高山伝左衛門貞正の妻で、貞正 は明和丙戌天四月二十二日に寂、紀年を一応この日と する。総高七八、口径四三。一七四八年あり。九七・ 七・三一調査。
三八三	一七六六	明和丙戌年 ／季冬上旬	未詳	曹洞宗正眼寺（利根郡白 沢村平出）	佐野天明鑄物師／丸山源助		尾崎、「上毛二九三」A。高一尺七寸、口径一尺。
三八四	一七六七	明和四龍次丁 亥夏五月中旬	供出	臨濟宗伝宗寺（富岡市星 田）	鑄物師 下野州佐野天明新町 大河太郎兵衛藤原宗封		尾崎、「甘楽史観」A、深澤武「甘楽野古寺巡参」（昭和 五八）。洪鐘。
三八五	一七六七	明和四丁亥八 月二／十有五 日	供出	浄土宗浄蓮寺（桐生市本 町）	陶冶師野州安蘇／郡佐野天明 石原／平四郎藤原安信	陰	尾崎、船戸拓本、桐生図拓本、「毛野五三」、「桐生」。三 四、五×三八、五。一六四六・一七三七年あり。
三八六	一七六七	明和四 丁亥	供出	曹洞宗橋林寺（前橋市住 吉町）	丸山善太郎藤原每昭 丸山林八		尾崎。一三九七・一八九五年あり。

群馬県梵鐘年表稿

三九七	三九八	三九七	三九六	三九五	三九四	三九三	三九二	三九一	三九〇	三八九	三八八	三八七
一七七〇	一七七〇	一七七〇	一七七〇	一七七〇	一七六九	一七六九	一七六九	一七六八	一七六八	一七六七	一七六七	一七六七
明和七 庚寅	明和七 庚寅	明和七 庚寅	明和七年	明和七年	明和六	明和六己丑年 十二月吉祥日	龍集己丑明和 ／臘月初八日	明和五 戊子	明和五年八月 吉祥日	明和四丁亥吉 旦	明和四	明和四 丁亥
供出	供出	未 存?	供出	供出	未詳	供出	供出	供出	未詳	供出	供出	供出
真言宗得成寺(富岡市下)	曹洞宗昌龍寺(利根郡利根村大原)	天台宗天人寺(佐波郡境町平塚)	曹洞宗雙松寺(吾妻郡高山村中山)	大日堂(吾妻出郡高山村新田)	勝山神社(佐波郡境町保泉)	曹洞宗金龍寺(群馬郡箕郷町上芝)	臨濟宗円福寺(伊勢崎市富塚町)	天台宗來迎寺(新田郡新田町中江田)	堂清庵(山田郡毛里田村大字只上字三ツ壠)	真言宗法光寺(佐波郡境町下武士)	真言宗退魔寺(伊勢崎市美茂呂町)	真言宗不動寺(碓氷郡松井田町松井田)
武州神田住鑄工西村和泉守藤原	鑄工 江都住 西村和泉守政時				崎山五左工門	御鑄師/佐野天明新町/大川太郎兵衛	下野國佐野住/鑄物師大工/丸山善太良/藤原易親	鑄工 江戸神田住 西村和泉守 藤原政時	佐野天明 崎山五左衛門峯高	御鑄物師佐野天命中町之住藤原峯高	丸山善太郎易親	
							陰			陰陽		
尾崎、「甘楽史観」A。「甘楽史観」は紀年を欠く。	尾崎、「利根村誌」(昭和四八)。	尾崎、一七五七・一七八五年あり。殿鐘二口のうち一口は現存、他は供出。	「群馬県吾妻郡高山村誌」(昭和四七)。半鐘。一六七三年、II三六あり。	現存。「群馬県吾妻郡高山村誌」(昭和四七)。半鐘。大日堂は	尾崎。	「箕郷町誌」A(昭和五〇)。大型半鐘。鐘銘によると再鑄されたものである。II二四あり。	尾崎、船戸拓本。寛政五年の追銘あり。三〇×三五、八。一七八九年あり。	尾崎、「新田町資料」写真。	「山田」。堂清庵については未詳。毛里田村は太田市只上にあたる。	尾崎、船戸拓本。乳の間四区に各々四×六行で小仏を、縦帯三区に計四の小仏を陽鑄しており、また縦帯上部にそれぞれ種子一を、撞座四にそれぞれ種子を陽鑄している。三一、五×三七、四。	尾崎。一七九六年、III六あり。九七・七・一七調査。	尾崎。一七七八年あり。

四〇一	一七七二	明和九龍舎壬辰年／仲秋穀旦	供出	曹洞宗全透院（群馬郡倉淵村三の倉）	御鑄物師／西村和泉守藤原政時	未詳	尾崎。一八九四年あり。
四〇二	一七七二	明和九年壬辰年十一月吉祥日	供出	曹洞宗宝林寺（前橋市田口町）	下野國佐野天明庄／三木平右衛門	陰	都丸拓本、「上毛文化六五」A。半鐘。高一尺七寸五分。龍頭八寸、口径一尺九寸五分。一六×二二、三。
四〇三	一七七二	明和九 壬辰	供出	曹洞宗光嚴寺（富岡市下高瀬）	冶工 信州小縣郡上田住 小嶋大次郎弘行		尾崎。
四〇四	一七七三	安永二年癸巳四月吉祥日	供出	天台宗遍照寺（利根郡昭和田村森下）			「村誌久呂保」A（昭和三〇）。殿鐘。
四〇五	一七七三	安永二癸巳龍秋八月吉日	亡	祐天堂（邑楽郡板倉町石塚）			「民間信仰としての板倉町の石造物と鑄造物」（昭和五七）の天保二年（一八三一）在銘祐天堂鐘銘に見える古銘による。祐天堂は石塚集会所にある。一九二七年あり。
四〇六	一七七四	安永三年八月	供出	真言宗観福寺（邑楽郡板倉町岩田）	野州佐野天明町住 丸山善太郎 易親		飯塚。口径一尺六寸三分。
四〇七	一七七四	安永三甲午歲／秋九月十日	供出	浄土宗定善寺（桐生市新宿）	佐野天明鑄工／大川四良兵衛／藤原宗繼	陰	尾崎、船戸拓本、「桐生。縦帯に南無阿彌陀佛と双鈎。三三、八×三七、四。一七〇二年あり。
四〇八	一七七四	安永三 甲午	供出	真言宗法養寺（佐波郡境町東）	御鑄物師 武江神田住 河合喜兵衛正房		尾崎。
四〇九	一七七五	安永四年星舎乙／未夏四月良辰	存	曹洞宗竹芳寺（伊勢崎市連取町）		陰	尾崎、船戸拓本、「便覧」（市 四八・三・五。総高一一九、龍頭高二七、五、口径六五、五。一九〇六年あり。九七・七・一七調査。
四一〇	一七七五	安永四年七月十日	供出	葉師堂（太田市沖之郷）	佐野中町 崎山五左衛門		「山田」。梵鐘。葉師堂は曹洞宗実相寺（沖之郷）の管理。
				相野田	政時		
				曹洞宗養泉寺（桐生市芳町）	佐野金屋町 丸山善太郎親易		

四一九	四一八	四一七	四一六	四一五	四一四	四一三	四一二	四一一
一七七八	一七七八	一七七七	一七七六	一七七六	一七七六	一七七六	一七七五	一七七五
安永七年仲冬 穀旦	安永七年正月 吉日	安永六丁酉九 月二十六日	安永五丙申十 月吉日	安永五丙申年 十月十日	安永五年九月 七日	安永五年九月 七日	安永四年	安永四 乙未
存	供出	供出	存	未詳	供出	供出	供出	供出
浄土宗源空寺 子持村白井	曹洞宗明林寺 場 (太田市矢)	天台宗米山寺 仁田馬山 (甘楽郡下)	曹洞宗常林寺 野原町(応桑) 野原町 吾妻郡長 野原町 菅浅間園展示	真言宗清水寺 原町 (高崎市石)	曹洞宗長泉寺 上 (太田市只)	曹洞宗長泉寺 上 (太田市只)	曹洞宗林昌寺 之条町伊勢町 (吾妻郡中)	曹洞宗南窓寺 鼻 (安中市板)
上野州白井之住 氏 下野州佐野之住 丸山氏		當國下仁田住人 左衛門尉藤原順本 州佐野住人 大工 同 原秀春	鑄物師 衛紀弘文 同名友吉 紀弘都	鑄物師 信州上田住 小島久兵	佐野中町 崎山五左衛門	佐野中町 崎山五左衛門 峯高		鑄冶 佐野 丸山善太郎
陰			陰					
尾崎、「毛野四七」B、「便覧」(村五八・六・二七)。 撞座二、撞座の上に南無阿弥陀仏と双鉤陰刻。総高一三 二、龍頭高二五、口径七六、三。一七六四年あり。九 七・六・五調査。	「山田」。半鐘。	尾崎、「甘楽史観」A。洪鐘。	尾崎、萩原進「浅間山風土記」B(昭和一七)、「孀恋村 誌」B(昭和五二)、「便覧」(町五三・二二・二八)。天 明三年(二七八三)、浅間山の噴火で流出、明治四三 年、吾妻川底より発見。常林寺に安置後、現在浅間園火 山博物館に展示。その後、昭和五八年、竜頭を発見、こ れは孀恋村歴史民族資料館に展示。鐘身高八八、口径五 五。龍頭高二五、重さ九・五。天正年間、一八四六・一 八八一年あり。八六・一一・一調査。	土屋老平「片岡郡誌」A(高崎市史)巻三、昭和四三)。	「山田」。半鐘。鐘銘によると宝永六年(一七〇九)に 初鑄されている。一七七六年あり。	「山田」。梵鐘。一七〇九・一七七六年あり。	「群馬県吾妻郡中之条町郷土誌」(大正八)。高四尺、径 二尺五寸、重さ約八〇貫。鐘樓の新鐘鐘銘によると安永 四年の鑄造である。一七三二年・II六九あり。	尾崎。

四二〇	一七七八	安永七 戊戌	供出	真言宗不動寺(碓水郡松井田町松井田町)	江戸神田住 粉川市正	尾崎。一七六七年あり。
四二一	一七七八	安永七年	存未	真言宗真楽寺(前橋市駒形町)		殿鐘。一七四四年あり。
四二二	一七七九	安永八年三月 吉祥日	供出	天台宗世音寺(山田郡大間々町桐原)	佐野金物町 丸山善太郎易親	「山田」。梵鐘。
四二三	一七七九	安永八龍集己亥稔/七月吉祥日	存	曹洞宗補陀寺(碓水郡松井田町新堀)	信濃国小縣郡大工職/上田住/大鑄物師/半田八郎右衛門/信珍	尾崎。殿鐘。総高五五、龍頭高二二、口径三三、二。六三、一七九五年あり。九五・六・三〇調査。
四二四	一七七九	安永八龍集己亥仲秋上流	供出	曹洞宗祥雲寺(桐生市境野町甲)	下野州佐野天明町 鑄物師/丸山善太郎/藤原易親/同彦六郎/藤原重保	尾崎、船戸拓本、桐生四拓本、「山田」、「桐生」、「毛野五三」。縦帯の撞座上部に小仏を陽鑄。鐘銘中に鑄造の際の寄附金額を記す。三二×三八、五。一七四八年あり。
四二五	一七七九	安永八年九月	供出	曹洞宗洞源寺(邑楽郡千代田町萱野)		飯塚。口径一尺四寸。Ⅱ七六あり。
四二六	一七七九	安永八己亥稔 霜月吉日	存未	真言宗照明寺(新田郡新田町反町)	恩田甚助 藤原信次	尾崎、「新田町資料」A。総高七〇、口径三五。Ⅱ三四、一八四九年あり。
四二七	一七七九	安永八己亥星 十一月吉日	供出	真言宗普門寺(安中市下磯部)	大工 當國甘樂郡下仁田住 太田長左衛門藤原順本	尾崎、「安中市誌」B(昭和三九)。総高約三尺、重量約三十四、五貫。
四二八	一七八〇	安永九年正月	供出	真言宗五宝寺(館林市台宿町)	佐野鑄物師 丸山善太郎易親	飯塚。口径一尺三寸。一七二四年あり。
四二九	一七八〇	安永九歲次庚子十月大吉祥	存	天台宗清泉寺(甘樂郡下仁田町下仁田)	大工御鑄物師/當所住/太田長左衛門藤原順本	尾崎、「便覧」(町 五四・六・二九)、「甘樂史観」A。昭和十八年七月供出するも約半年後にもどった。総高一三七、龍頭高三四、口径七五、八。八二・一〇・二八調査。
四三〇	一七八〇	安永九庚子十一月吉辰	供出	真言宗日輪寺(前橋市日輪寺町)		都丸拓本、「上毛文化六五」A。半鐘。高一尺五寸五分、龍頭四寸四分、口径一尺一寸。一五×一六、八。
四三一	一七八一	安永十年三月	存未	臨濟宗恩林寺(邑楽郡邑楽町鵜)	佐野天明金屋町冶工 丸山善太郎易親	飯塚。口径一尺五寸。

四三二	一七八一	天明元辛丑年 ／七月二日撞 初	存	真言宗真光寺（安中市原市）	鑄工信州小縣郡上田住／小嶋大治郎紀弘行	陰	尾崎、〔便覧〕（市五・十二・二三）、〔安中市誌〕B（昭和三九）、〔資料安中市の文化財〕A（昭和五四）。総高一四五、龍頭高三六、口径七九。九七・八・五調査。
四三三	一七八一	天明元 辛丑	供出	天台宗福泉寺（高崎市鼻高）	大工 佐野天明新町 大川四郎 兵衛藤原宗封		尾崎。
四三四	一七八二	天明二年霜月 日	未詳	観音堂（太田市毛里田村只上）	佐野天明住 大川伊助藤原宗封		尾崎。梵鐘。観音堂については未詳。毛里田村は現太田市只上にあたる。
四三五	一七八二	天明第二壬寅 年臘月吉日	供出	臨濟宗栖雲寺（富岡市富岡）	鑄物師 崎山五左衛門藤原岑高		尾崎、〔群馬県北甘楽郡史〕（昭和三）、〔甘楽史観〕A。総高四尺、口径一尺、重八十貫。鑄物師名の岑高を尾崎は峯高とする。
四三六	一七八二	天明 壬寅	供出	真言宗長円寺（新田郡敷塚本町敷塚）			尾崎。
四三七	一七八三	天明三季癸卯 春三月	供出	天台宗最勝寺（新田郡新田町下江田）	江戸御鑄物師西村和泉守藤原政平		尾崎、〔毛野二七〕。
四三八	一七八三	天明三癸卯年 孟夏吉辰	存	曹洞宗松山寺（群馬郡箕郷町西明屋）	當所下山市太郎休里／鍛工 佐野小嶋安左工門正好／當所塚越富右工門幸昌	陰	尾崎、〔便覧〕（町四八・七・三一）、〔箕郷町誌〕A（昭和五〇）。鐘楼は享保年間に落成。享保十二年（一七二七）鑄造の鐘が火災で破損したため、銅鉄を加えて重鑄。時報鐘として使用された。総高一三四、龍頭高二九、口径七五、重さ一三五。九七・六・一一調査。
四三九	一七八三	天明三竜舎／ 癸卯禩五月吉辰	供出	曹洞宗龍昌寺（群馬郡箕郷町生原）	鑄工／箕輪下田市太郎 休里／佐野小嶋安左衛門正好／箕輪塚越富右衛門幸昌		〔箕郷町誌〕A（昭和五〇）。半鐘。
四四〇	一七八三	天明三 癸卯	未詳	真言宗胎養寺（新田郡敷塚本町敷塚）	治工 野易金谷町 丸山善太郎 易親		尾崎。一七二七年あり。
四四一	一七八三	天明三	供出	真言宗蓮花院（前橋市下増田）	長島孫七		尾崎。
四四二	一七八四	天明四星慶甲辰秋九月十五日	供出	臨濟宗清雲寺（桐生市梅田町）	治工 下野佐野天明町 丸山林八藤原長暉	陰	尾崎、船戸拓本、〔山田〕、〔毛野五三〕。高三尺二寸、径二尺二寸。三二×三七、五。殿鐘（Ⅱ九一）あり。

四四三	一七八五	天明五乙巳歲 三月吉日	供出	天台宗天人寺（佐波郡境 町平塚）	江戸住西村和泉守藤原政壽	尾崎、『毛野二七』。高一〇七。一七五七・一七七〇年あり。
四四四	一七八六	天明六 丙午	供出	真言宗慈眼寺（太田市下 田島）	鑄物大工 佐野鑄物大工太田出 店 太田町 恩田甚助藤原信次	尾崎。
四四五	一七八六	天明六 丙午	供出	浄土宗安国寺（高崎市通 町）	山本理直	尾崎。殿鐘。半鐘として火の見櫓にあつた可能性あり。 一六五二・一七四二年あり。
四四六	一七八六	天明六 丙午	供出	真言宗観音寺（高崎市岩 鼻町）	大工 野州佐野天明住人 大川 三郎兵衛藤原信義	尾崎。
四四七	一七八七	天明七丁未年 ／正月吉日	未詳	修験宗華藏寺（北群馬郡 吉岡村下野田）		『上毛二九一』。半鐘。
四四八	一七八八	天明八歲遷戊 申仲秋吉辰	供出	曹洞宗雙玄寺（勢多郡北 橘村八崎）	陰二部	『上毛文化六五』A、『北橋村誌』（昭和五〇）。高三尺 五寸、龍頭九寸、口径二尺五寸。
四四九	一七八九	寛政元年己酉 三月吉日	亡	天台宗常安寺（群馬郡群 馬町東国分）	上州群馬郡上折田村鑄物師倉 林・・・／倉林・・・	『上毛二八七』A、『国府村誌』A（昭和四三）。文化四 年、火災で損傷し鑄潰す。鑄物師の上折田村は上新田村 であろう、また住谷修は鑄物師名を倉林儀左衛門、森右 衛門と推定する。一七一三年あり。
四五〇	一七八九	寛政元年	供出	曹洞宗常広寺（勢多郡新 里村山上）		『毛野五三』。
四五一	一七八九	寛政元	存未	臨濟宗円福寺（伊勢崎市 富塚町）	茂呂患彦兵衛	尾崎。一七六九年あり。
四五二	一七八九	寛政元年	亡	曹洞宗永福寺（太田市東 金井）		『山田』に引く嘉永元年（一八五二）在銘永福寺鐘鐘銘 に見える。
四五三	一七九〇	寛政二庚戌八 月吉日	供出	天台宗千手院（藤岡市上 日野）		『群馬県多野郡誌』A（昭和二）、『多野藤岡地方誌』A （昭和五二）。
四五四	一七九〇	寛政二庚戌十 月吉日	供出	浄土宗増信寺（藤岡市藤 岡）	野州佐野、武州深谷の鑄物師	『藤岡町史』（昭和三三）。総高三尺六寸、口径二尺四 寸、重さ二〇〇貫。
四五五	一七九一	寛政三年四月	未詳	曹洞宗正善院（邑楽郡大		飯塚。口径一尺三寸二分。

群馬県梵鐘年表稿

四五五	一七九一	寛政三亥年十月 二月	亡	真言宗福德寺（前橋市小 板子町）		文久三年（一八六三）在銘福德寺鐘銘によると、文久三年在銘鐘の前にこの鐘があった。
四五七	一七九二	寛政四壬子年 芸生大吉辰	供出	浄土宗養林寺（勢多郡大 胡町堀越）	野易佐野天明住／鑄物師 永島 孫七藤原政春／川村甚蔵藤原峯 吉	尾崎、「毛野五三」、「大胡町誌」A（昭和五二）。
四五八	一七九二	寛政四	供出	真言宗長勝寺（太田市高 林南）	伊助宗封 大谷文次郎藤原親友	尾崎。殿鐘（Ⅱ九二）あり。
四五九	一七九三	寛政五癸丑年 六月吉祥日	存未	曹洞宗天陽寺（藤岡市保 美）	野州佐野天明 鑄物師 丸山林 八 長暉	「藤岡市史 資料編 近代・現代」（平成六）。旧真言宗清福寺鐘。清福寺は明治十三年に天陽寺に合併。保美村の警鐘であったので供出を免れ、昭和四九年、天陽寺へ納められた。
四六〇	一七九三	寛政六年月日	供出	真言宗聖眼寺（桐生市元 宿町甲）	野州佐野鑄物師丸山善太郎／藤 原易親	桐生図拓本、「桐生」。二九、五×三七。
四六一	一七九四	寛政六 庚寅	供出	浄土宗正覚寺（沼田市）	鑄物御大工職 上州吾妻郡原町 小嶋七左衛門吉寧 白井 太 田喜重 佐野鑄物師 関根弥左 衛門峯吉	尾崎。
四六二	一七九五	寛政七年乙卯 四月八日	存	曹洞宗補陀寺（碓氷郡松 井田町新堀）	御鑄物師信州小縣郡上田住／大 工職小嶋久兵衛藤原弘文／同苗 友吉藤原國一	尾崎。鐘銘によると旧鐘（Ⅱ六三）を再鑄し、大きさは二倍になったという。総高一四四、龍頭高三〇、口径八一、二。一七七九年あり。九五・六・三〇調査。
四六三	一七九五	寛政七年十一月 月吉日	未詳	地藏堂（太田市毛里田村 只上）		「山田」。半鐘。地藏堂については未詳。毛里田村は現太田市只上にあたる。
四六四	一七九五	寛政七年十一月 月吉日	未詳	浄土宗大円寺（太田市丸 山甲）		「山田」。梵鐘。
四六五	一七九五	寛政七年／乙 卯十二月吉日	存	真言宗観昌寺（前橋市西 大室）	佐野／丸山善太郎	尾崎。第二次大戦中、火の見櫓の半鐘として使用された。総高六〇、五、竜頭高一二、五、口径三五、八。九七・七・二九調査。

四七五	四七四	四七三	四七二	四七一	四七〇	四六九	四六八	四六七	四六六
一七九九	一七九九	一七九八	一七九七	一七九六	一七九六	一七九六	一七九六	一七九六	一七九六
未 寛政十一 己	寛政十一 癸集 己未正月穀旦	寛政十戊午曆 ／七月自恣日	寛政九 丁巳	寛政八	寛政八 丙辰	寛政八年	寛政八 丙辰	寛政八歳次柔 兆執徐抄冬十 有五芳	寛政八載丙辰 十一月七日
供出	供出	存	供出	供出	供出	存未	未詳	供出	供出
天台宗淨法寺 (多野郡鬼 石町浄法寺)	曹洞宗宗玄寺 (勢多郡赤 城村勝俣沢)	曹洞宗宝泉寺 (甘楽郡甘 楽町小幡)	曹洞宗瑞光寺 (太田市強 戸)	時宗青蓮寺 (新田郡尾島 町岩松)	真言宗延養寺 (高崎市新 町)	曹洞宗永林寺 (吾妻郡中 之条上沢渡)	真言宗西光寺 (佐波郡境 町平塚)	曹洞宗宝積寺 (甘楽郡甘 楽町轟)	真言宗退魔寺 (伊勢崎市 美茂呂町)
鑄物師 野州佐野天明町 大森 弥兵衛	鑄工 江戸大門通伊勢屋万之助 万満正	野刻佐野大谷嘉七	鑄工 野州安蘇郡佐野天明 丸 山林八郎長暉	鑄物師大工 佐野鑄物師大工 佐野出店太田町 恩田仁助藤原 信次	江戸 西村和泉守	上州吾妻原町小嶋家の作	鑄物師大工 佐野鑄物師大工 丸山林八藤原信吉	御鑄物師 野州佐野 大谷權右 衛門 同嘉七	野沢佐野天明町 鑄物師 丸山 善太郎藤原易親
	陰一部 陽	陰							陰
尾崎。殿鐘 (II九五) あり。	都丸拓本、「上毛文化六五」A、「群馬県勢多郡横野村 誌」A (昭和三二)。高三尺五寸、龍頭一尺一寸、口径 二尺四寸。鐘銘によると旧鐘 (II四三) が火災のために 鳴らなくなり、改鑄した。	尾崎。一七二九年あり。 深澤武「甘楽野古寺巡参」B (昭和五八)。総高六二、 龍頭高一〇、口径三七。第二次大戦中は半鐘として火の 見鐘で使用。九七・八・五調査。	尾崎。徳治年間、一七〇六・一七三五年あり。	尾崎。	尾崎。	「原町誌」(昭和三五)。	尾崎。	尾崎、「甘楽史観」A。鐘銘によると旧鐘 (II二八) は 寛政二年 (一七九〇) に火災のため失った。尚、鐘銘 には「寛政九歳次□□大荒落三月下流」とあり、これは 追銘が刻された紀年といえよう。「甘楽史観」には鑄物 師名は録されていないので尾崎による。殿鐘 (II九三) あり。	尾崎、船戸拓本。鑄物師名は縦帯にあり、かつ「寛政八 辰六月七日出来」とある。これら縦帯の文字と鐘銘の文 字とは異なる印象を受ける。二八、五×三七、四。一七 六七年、Ⅲ六あり。九七・七・一七調査。

群馬県梵鐘年表稿

四八七	一八〇四	文化元年四月 吉日	供出	曹洞宗玉巖寺（太田市東 金井）	鑄物師 下野國安蘇郡佐野天明 金屋町 半田甚右衛門藤原延 久		尾崎、「山田」。梵鐘。
四八六	一八〇三	享和三年	供出	臨濟宗養浩院（藤岡市上 日野）	鑄工丸山善太郎藤原易観		「群馬県多野郡誌」（昭和二）。「藤岡市史 資料編 近代・現代」（平成六）に引く昭和四十八年在銘養浩寺鐘銘による。寺内で鑄造。
四八五	一八〇三	享和三 癸亥	存未	曹洞宗最善寺（前橋市東 大室）			尾崎。殿鐘。一九二五年あり。
四八四	一八〇三	享和三年八月 吉辰	存未	曹洞宗光明寺（太田市石 原）			「山田」。梵鐘。第二次大戦中は火の見樽で使用、後に 戻る。殿鐘。
四八三	一八〇二	享和二 壬戌	存未	曹洞宗永源寺（多野郡鬼 石町浄法寺）	鑄工 江戸 太田駿河守藤原政 義		尾崎。
四八二	一八〇二	享和二年初冬	供出	時宗円福寺（邑楽郡千代 田町舞木）			飯塚。口径一尺二寸。現在、第二次大戦中、火の見樽に 使用された別の半鐘（II九四）がある。
四八一	一八〇二	享和二年戊戌 月十八日	未詳	天台宗龍善寺（佐波郡東 村西小保方）	下野國安蘇郡佐野／鑄物師／丸 山善太郎藤原重昌	陰	尾崎、船戸拓本。紀年は享和二年であるが、鐘銘による と寛政丙辰（八年、一七九六）に鑄造された。三二×三 七、五。供出の可能性大。
四八〇	一八〇一	享和元年 辛酉	供出	曹洞宗光性寺（桐生今泉 町）			尾崎。
四七九	一八〇一	享和元年辛酉天	供出	単立慈覚寺（富岡市田 篠）	野州佐野大谷嘉七		「甘楽史観」A。半鐘。
四七八	一八〇一	享和元年十二 月五日	供出	真言宗宝珠寺（邑楽郡千 代田村下中森）	野州佐野住 高田政英 手傳氣 三郎		飯塚。口径一尺五寸四分。一六九九年あり。
四七七	一八〇〇	寛政十二 庚申	未詳	小出屋積善会（北甘楽郡 西牧）	勅許御鑄物師 信州上田住 小 島大次郎藤原貞記		尾崎。小出屋積善会については未詳。
四七六	一八〇〇	寛政十二 庚申 十月	存	真言宗金剛寺（勢多郡宮 城村苗ヶ島）	江戸代傳町二丁目	陰	宝暦十二年（一七六二）在銘鐘の「再造立」。鑄物師名 なし。総高六二、五、龍頭高二、五、後掲三六、八。 一九一九年あり。九七・七・二四調査

四八八	一八〇四	文化元年九月 佛吉日	供出	浄土宗正運寺（太田市龍 舞）	佐野天明 大川半右衛門尉治道		「山田」。梵鐘。
四八九	一八〇四	文化元年十一 月	存未	正観世音堂（館林市赤生 田）	佐野天明住勅許左方惣官御鑄物 師 大川伊助宗友		飯塚。口径一尺二寸。正観世音堂は単立永明寺（館林市 赤生田）の墓地にある。第二次大戦中、火の見櫓で使 用、七八年前、返還さる。
四九〇	一八〇六	文化三年三月 二十四日	供出	曹洞宗宗龍寺（邑楽郡明 和村南大島）			飯塚。口径一尺二寸。
四九一	一八〇六	文化三年晩春	供出	旧真言宗最勝寺（邑楽郡 板倉町榎谷） 現真言宗 安勝寺（邑楽郡板倉町榎 谷）	佐野天明住勅許御鑄物師 三木 忠右衛門秀敦		飯塚。口径二尺三寸五分。最勝寺と安楽寺は昭和二七年 に合併し安勝寺となった。一七五四年あり。
四九二	一八〇七	文化四年十月	未詳	大日堂（館林市成島）	佐野住御鑄物師 大川四郎次由 茂		飯塚。口径一尺七寸。大日堂については未詳。
四九三	一八一〇	文化七年七月	未詳	釈迦堂（館林市羽附）	佐野天明住 三木平右衛門光長		飯塚。口径一尺一寸五分。釈迦堂については未詳。
四九四	一八一〇	文化七年七月	未詳	地藏堂（邑楽郡館林町馬 場跡）			飯塚。口径九寸九分。地藏堂については未詳。
四九五	一八一〇	文化七年八月	未詳	大日堂（館林市羽附）	佐野天明住 三木忠右衛門		飯塚。口径一尺一寸。大日堂については未詳。
四九六	一八一〇	文化八歳次辛 未八月令農	供出	曹洞宗松岸寺（安中市東 上磯部）	勅許大工職御鑄物師 當國甘楽 郡下仁田住 太田長左衛門藤原 當昆		尾崎、「安中市誌」B（昭和三九）。総高四尺三寸、周囲 七尺四分。
四九七	一八一二	文化九壬申歳	存未	天台宗禅定院（利根郡白 沢村尾合）	佐野天明郷／鑄物師／丸山善太 郎／易親		「上毛二九三」A。高二尺一寸、口径一尺二寸。
四九八	一八一二	文化九 壬申	供出	曹洞宗長慶寺（利根郡昭 和村糸井）	鑄物師 野州安蘇郡佐野天明町 金屋町 丸山善太郎藤原易親		尾崎。
四九九	一八一三	文化癸酉季春 吉日	供出	雷神岳神社（桐生市梅田 町）	佐野鑄物師丸山善太郎藤原易親		「群馬県山田郡誌」A（昭和一四）、「山田」。梵鐘。宝 曆三年（一七五三）在銘鐘が破損したために再鑄。
五〇〇	一八一三	文化十年癸酉	存	真言宗円満寺（桐生市西	野刻佐野天明住／御鑄物師 三 陰		尾崎、船戸拓本、桐生図拓本、「毛野五三」、「桐生市史

群馬県梵鐘年表稿

五〇一	一八二三	文化十 癸酉	供出	曹洞宗建明寺(利根郡水上町水湯原)	木平右衛門/藤原光長	尾崎。一七〇三年あり。
五〇二	一八二三	文化十	供出	真言宗能満寺(佐波郡境町上武士)	細工人 野島佐野天明新町 大川藤兵衛藤原由貴 請? 當國 群馬郡白井 七左工門藤原重吉	尾崎。一七〇三年あり。
五〇三	一八二四	文化十一年三月	未詳	薬師堂(館林市休泊)	佐野天明住鑄物師 三木平右衛門 光長	飯塚。口径一尺四寸。薬師堂については未詳。
五〇四	一八二四	文化十一年 庚戌	供出	天台宗水徳寺(新田郡尾島町徳川)	御鑄物師 野州佐野天明住 三木平右工門尉藤原光長	尾崎。
五〇五	一八二五	文化十二年三月	未詳	単立德蔵院(邑楽郡明和村田島)	大川四郎次	飯塚。口径一尺五寸一分。
五〇六	一八二八	文政元年戊寅 八月吉祥日	供出	弥勒坂堂時鐘(甘楽郡甘楽町小幡弥勒坂)	勅許左方惣官 當國甘楽郡下仁田住 御鑄物師大工職太田長左衛門尉藤原當世	尾崎、「甘楽史観」A、「目で見る群馬の百年」写真(昭和五七)。鑄物師の表記の仕方としては勅許左方惣官御鑄物師云々がよいであろう。「甘楽史観」の記述による。大鐘。
五〇七	一八二八	文政元戊寅九月吉日	存未	天台宗長楽寺(新田郡尾島町世良田)	鑄物師粉川市政藤原國信	「毛野二七」。半鐘。口径三八。一七〇二年あり。
五〇八	一八二八	文政元歳/戊寅 寅月	供出	天台宗正福寺(山田郡大間々町寺前)	野州佐野天明住/御鑄物師三木平右衛門尉/藤原光長	船戸拓本、「山田」。梵鐘。鑄物師の部分は籠字彫り。鐘銘に鑄造の際に寄進した人名と金額を示す。二九、五×三三。
五〇九	一八一九	文政二 己卯	供出	浄土真宗常称寺(甘楽郡下仁田町下仁田)	勅許左方惣官御鑄物師 當國甘楽郡下仁田住 太田長左衛門尉 藤原當世	尾崎。
五一〇	一八二四	文政七年甲申之夏四月十六日	供出	浄土真宗勝念寺(勢多郡大胡町大胡)		尾崎、「毛野五三」、「大胡町誌」A(昭和五二)。常陸宮本鉉撰、諷齋得書、石原好輔鑄。

五一九	一八三三	天保三年七月吉日	未詳	曹洞宗正覚寺(太田市安良岡)	佐野天明町 三木平右衛門尉藤原光長		「山田」。高二尺、径一尺二寸。
五一八	一八三三	天保三年/壬辰正月	存	旧真珠庵鐘(佐波郡境町木島) 現木島集会所(佐波郡境町木島)	佐野天明町/大川四郎次	陰一部 陽	石田鑿「故郷にもどった梵鐘」B(『群文研新報』四平成七、「梵鐘」一(平成七)。総高六三、龍頭高一三、五、口径三六。笠形に「上」一字を陽鑄。平成初年頃、木島の火の見櫓から盗難にあり、その後、骨董商の手を経て高知市岡本氏蔵となり、平成六年に返還された。
五一七	一八三一	天保二卯年冬十一月吉日	存未	祐天堂(邑楽郡板倉町石塚)	鑄工 佐野天明町大川四郎次/藤原結由貫	陰	飯塚、「民間信仰としての板倉町の石造物と文化財」A(昭和五七)。総高七二、口径四二、五。飯塚は薬師堂とする。鐘銘中に見える旧鐘銘よると安永二年(一七七三)の鐘が再鑄されたものである。祐天堂は石塚集会所にある。一九二七年あり。
五一六	一八二八	文政十一年四月	未詳	薬師堂(館林市足次)	下野佐野天明住人御鑄物師 三木忠右衛門英敦	陰一部 陽	飯塚、口径一尺五寸三分。薬師堂については未詳。
五一五	一八二八	文政十一戊子春壬穀旦	存	曹洞宗雙林寺(北群馬郡子持村中郷庚)	東都大門通/鑄工 伊勢屋万之助/熊治郎	陰一部 陽	「北群馬・渋川の歴史」A(昭和四六)。殿鐘。文政五年玄黙敦辭之冬に求得。笠形に「上」一字を陽鑄。総高七八、龍頭高一七、口径四六、五。一六六四年、二三〇・三一あり。九七・五・三二調査。
五四	一八二七	文政十歳次丁亥仲秋中流	供出	天台宗光嚴寺(前橋市総社町)	冶工師 當郡上新田邑/倉林杜右衛門/倉林儀右衛門		尾崎、「毛野四七」、「上毛二九二」A、「總社町誌」(昭和三二)、「総社町郷土誌」(明治四三)。鐘銘によると寛永五年(一六二八)在銘鐘の改鑄である。鐘樓門の鐘。尾崎、「上毛二九二」は鑄物師名の杜右衛門を森右衛門、儀右衛門を儀左衛門とする。一七〇二年、一七〇七年あり。
五二三	一八二七	文政十丁亥冬	供出	曹洞宗正副寺(北群馬郡吉岡村下野田)			「上毛二九二」A。半鐘。
五二二	一八二七	文政十年仲秋日	未詳	三峯山山上(桐生市梅田町)	佐野天明 大川四郎次郎藤原由貫		「山田」。梵鐘。供出の可能性大。
五一一	一八二四	文政七歳庚申閏八月	亡	天台宗真光寺(渋川市並木町)			「上毛二九〇」に引く明治十三年(一八八〇)在銘鐘銘に見え、明治十三年に再鑄された。II二七、一六六〇年あり。

群馬県梵鐘年表稿

五二〇	一八三二	天保三年霜月	供出	真言宗大林寺(邑楽郡千代田町舞木)	下野國宗陽住御鑄物師 一戸室將監	飯塚。口径一尺四寸。
五二一	一八三三	天保四巳八月	供出	曹洞宗全性寺(安中市中秋間)		(群馬女子師範学校生徒清水けん子)の記録による。半鐘である。
五二二	一八三五	天保六年二月	供出	真言宗宝福寺(邑楽郡板倉町板倉)	佐野天明町 三木平右衛門尉光長	尾崎、飯塚。口径二尺八分。
五二三	一八三五	天保六年二月	供出	真言宗地藏寺(邑楽郡明和村新里)	大川四郎次 永島孫七	飯塚。口径一尺六寸一分。地藏寺に拓本あり。殿鐘(Ⅱ九七)あり。
五二四	一八三七	天保八酉七月	存末	真言宗葉王寺(太田市大島)	御鑄物師佐野天明住 三木平右衛門尉 藤原光長	「太田市報告」B。総高七一、龍頭高一五、口径三三。威光寺の兼務。供出という説もあるも存と判断。
五二五	一八三八	天保九 戊戌	供出	浄土宗浄清寺(吾妻郡吾妻町三島)	勅許御鑄物師 上州吾妻郡原町住 小嶋七左エ門有章	尾崎、「原町誌」(昭和三五)。
五二六	一八三九	天保十年二月 吉辰	存末	臨濟宗長谷寺(桐生市梅田町)		「山田」。高一尺八寸、径一尺八分。
五二七	一八三九	天保十己亥 七月吉日	供出	天台宗龍泉寺(勢多郡赤城村津久田)		「上毛文化六五」A、「群馬県勢多郡敷島村誌」(昭和三六)。半鐘。
五二八	一八四一	天保十二年初 冬吉辰日	供出	天台宗天王院(桐生市相生町)		「山田」。半鐘。
五二九	一八四二	天保十三年七月	供出	真言宗観音寺(館林市足次)	佐野天明 大川四郎次	飯塚。口径一尺三寸。
五三〇	一八四三	天保十四年十月二十七日	供出	曹洞宗正泉寺(邑楽郡邑楽町篠塚)	佐野天明住人勅許御鑄物師 三木忠右衛門英敦	飯塚。口径一尺二寸。一七六四年あり。
五三一	一八四三	天保十四己卯 年十月吉祥日	供出	真言宗南光院(邑楽郡板倉町西岡)	下野國安蘇郡佐野庄天明/大川半右衛門尉藤原治道	尾崎、飯塚、「毛野四六」A。口径一尺九寸二分。尾崎は鑄物師名を平右衛門とする。鐘銘によると五十年前に古鐘が破壊し改鑄したもの。Ⅱ五三あり。
五三二	一八四三	天保十四年十一月	供出	曹洞宗清岩寺(邑楽郡邑楽町秋妻)		飯塚。口径一尺。

五三三	一八四四	天保十五年三月	存未	曹洞宗高源寺(邑楽郡千代田町狸塚)	鑄物師 佐藤忠國		飯塚。口径一尺二分。
五三四	一八四六	弘化三年	不明	曹洞宗常林寺(吾妻郡長野原町応桑)			【嬌恋村誌】(昭和五二)。弘化三年、常林寺再興に際し鐘楼が完成し、この折、梵鐘が鑄造されたと推測されるが、慶応四年、飢饉の折に持ち去られた。天正年間、一七七六・一八八一年あり。
五三五	一八四七	弘化四丁未九月十一日	未詳	天台宗妙音寺(高崎市大八木町)	鑄工 高崎住/小林伊賀守藤原信國		【上毛二九三】A。半鐘。
五三六	一八四八	嘉永元年/戊申三月吉祥日	存	旧超誓山成就院無量寺(新田郡糟川邑) 現天台宗普門寺(新田郡尾島町世良田)	野州佐野天明住/御鑄物師 三木平右工門尉/藤原光長	陰	総高六一、五、龍頭高一三、口径三七、一。無量寺は廢寺。半鐘として使用されていた。九七・七・三〇調査。
五三七	一八四八	嘉永元年四月	供出	真言宗高德寺(邑楽郡大泉町古海)	鑄物師東都 粉川市正國信	陰	飯塚。口径二尺一寸。乳と乳の間まで銘文を刻す。
五三八	一八四八	嘉永元年十月吉祥日	供出	薬師堂(山田郡毛里田村大字富若)	佐野天明 三木忠右衛門		【山田】。梵鐘。梵字光明真言の銘あり。現米山薬師(太田市丸山)であらう。
五三九	一八四九	嘉永二己酉季十二月吉辰	存	真言宗照明寺(新田郡新田町反町)	勅許御鑄物師/野州佐野天明住 三木平右工門尉/藤原光長	陰一部	尾崎、【新田町資料】A。総高一一五、龍頭高二九、口径六四。鐘楼には平成二年在銘の新鐘あり。II三四、一七七九年あり。九七・五・一五調査。
五四〇	一八五〇	嘉永三庚戌龍舎九月十有九	存	曹洞宗桂昌寺(安中市下秋間)	鑄物師小林伊賀守藤原信國	陰	尾崎、【便覧】(市 四九・一二・二五)、【安中市誌】B(昭和三九)。嘉永三年の鑄造に関わる契約書あり。鐘銘によると寛文三年(一六六三)鑄造の鐘の音が悪くなったため再鑄。総高一〇九、龍頭高二四、口径五九、鑄物師は高崎の人物。尚、鑄物師名の上は削られた痕あり。尾崎は「御鑄物師」【高崎】を挙げている。一六九七年あり。九四・七・一調査。
五四一	一八五一	嘉永四年二月成就之日	供出	曹洞宗禅桂寺(山田郡大間々町浅瀬)	佐野天明 三木忠右衛門藤原秀康		【山田】。半鐘。
五四二	一八五一	嘉永四辛亥夏	供出	曹洞宗茂林寺(館林市堀)	野州佐野住 御鑄物師 大川四	陰	尾崎、飯塚、【毛野五五】A。鑄物師名を尾崎は行貴と

群馬県梵鐘年表稿

五五二	一八六三	文久三癸亥年 ／三月吉祥日	存	真言宗福德寺（前橋市小 板子町）	御鑄物師／佐野天明住／三木忠 右衛門尉藤原長光	陰	「名鑑」。字勝沢の半鐘として使用したため供出を免れた。総高七一、龍頭高一六、五、口径四二。一七九一年あり。九七・七・二四調査。
五五一	一八六二	文久二年五月 七日	存未	葉師堂（邑楽郡千代田町 中島）			三枝友治「上州・千代田よもやまばなし」（昭和五八）。元全久禅院鐘（遠江國山名郡蒲田郷鍛冶邑。現静岡県磐田市蒲田。曹洞宗全久院）の半鐘。葉師堂に奉納された経緯は不明。
五五〇	一八五七	安政四丁巳歳 七月日	存	曹洞宗仁叟寺（多野郡吉 井町神保）			尾崎。総高六〇、龍頭高一三、口径三六。一六八三年あり。九七・八・五調査。
五四九	一八五四	嘉永七年	供出	曹洞宗宝林寺（太田市龍 舞）			「山田」。梵鐘。
五四八	一八五四	嘉永七年十二 月	未詳	単立龍泉寺（館林市田谷 越）	佐野天明御鑄物師 小島半兵衛 嘉明		飯塚。口径一尺一寸。
五四七	一八五二	嘉永五 壬子	供出	臨濟宗弥勒寺（多野郡吉 井町小棚）	御鑄師 江戸神田住 西村和泉 守藤原政學		尾崎。一六七四・一七〇三・一七五二年あり。
五四六	一八五二	嘉永五年五月 良辰	供出	曹洞宗永福寺（太田市東 金井）			「山田」。寛政元年（一七八九）初鑄、鐘破損二付再々興」とあり、この鐘は三代目かもしれない。梵鐘。
五四五	一八五二	嘉永五壬子五 月良辰	存未	曹洞宗曹源寺（太田市東 今泉）	下野佐野天明住 御鑄物師 小 嶋半兵衛尉 嘉明		「太田市報告」B、「山田」。鐘銘によると延享五年（一七四八）在銘鐘が焼失し新鑄。総高五四、五、龍頭高一、五、口径二四。「山田」は紀年を三月とする。
五四四	一八五一	嘉永四年十月	未詳	大日堂（旧邑楽郡中野村 光善寺）	佐野住 大川四郎次		飯塚。口径一尺三寸。大日堂については未詳。
五四三	一八五一	嘉永四年十月	供出	曹洞宗長養寺（邑楽郡板 倉町飯野）	野州佐野住御鑄物師 大川四郎 次		飯塚。口径一尺四寸四分。
		四月		江	郎次藤原行貫		し、「毛野五五」は由貫とする。鐘銘中に原料の目方を刻す。鐘身高二尺六寸三分、口径二尺二寸、笠形高二尺八寸、龍頭高八寸七分。重量七七貫二百目余。元禄七年（一六九四）の旧鐘が音が出なくなったために旧鐘をもとに再鑄。Ⅱ四八あり。

五六四	一八七九	明治十二年卯 年十二月良辰	供出	天台宗興禪寺(勢多郡赤 城村三原田)	鑄師大巧/前橋向町鈴木藤次郎	陰	都丸拓本、「上毛文化六五」A、「群馬県勢多郡横野村誌」A(昭和三二)。高二尺九寸、龍頭九寸、口径一尺一寸。享保十二年(二七二七)鐘の再鑄。
五六三	一八七八	明治十一戊寅 歲四月日	存未	浄土宗本光寺(伊勢崎市 三光町)			「伊勢崎史談」八九(昭和四〇)。総高六七、龍頭高一 二、口径五五。II(二)あり。
五六二	一八七七	明治十巳 _三 四月 吉日	供出	曹洞宗最興寺(富岡市南 蛇井)	武蔵州目沼住 鑄工 茂呂駿河 守正綱		「甘楽史観」A。尾崎は寛文九年(一六六九)とする。 寛文九年在銘鐘は佚亡し、ついで享保三年(二七一八) 頃、鑄造され、三十一世希代山童代の時、明治十年(巳 年は十四年)に再鑄されたといえよう。
五六一	一八七〇	明治三年正月	供出	大慶寺(邑楽郡板倉町飯 野)	野州佐野天明住御鑄物師 大川 四郎次		飯塚。口径一尺四寸。大慶寺は未詳。
五六〇	一八七〇	明治三年正月	供出	真言宗地藏院(邑楽郡板 倉町飯野)	野州天明住 大川四郎次		飯塚。口径一尺三寸三分。II四六あり。似た大きさでは あるが異なる。
五五九	一八六七	慶応三丁卯	供出	真言宗金藏院(勢多郡大 胡町堀越)			尾崎。
五五八	一八六四 一六五	元治年間	供出	真言宗不動寺(高崎市貝 沢町)			「毛野四七」。享保四年(二七一九)在銘鐘の再鑄。殿 鐘(II九八)あり。
五五七	一八六四	元治元年十一 月	供出	真言宗明王院(邑楽郡邑 楽町赤堀)			飯塚。口径一尺四寸八分。
五五六	一八六四	元治元甲子/ 仲秋	存	曹洞宗常鑑寺(勢多郡黒 保根村水沼)		陰	尾崎。第二次大戦中は半鐘として使用。総高五二、龍頭 高一、五、口径三〇、三。一七四八年あり。九七・ 八・七調査。
五五五	一八六四	文久四甲子歲 /二月吉祥日	未詳	真言宗石上寺(群馬郡群 馬町東明屋)			「上毛」二九三。半鐘。
五五四	一八六三	文久三己亥天 秋九月吉祥日	供出	天台宗祥禪寺(勢多郡東 村花輪)	野州佐野天明御鑄物師大川伊賀 守藤原重光		「毛野二九」。一六五〇年あり。
五五三	一八六三	文久三年五月	存未	時宗応声寺(館林市西本 町)			飯塚。口径九寸。一六七三年あり。

群馬県梵鐘年表稿

五七六	一八九二	明治廿五年 壬辰	供出	天台宗心昌寺 胡町川原浜			尾崎。
五七五	一八九二	明治二十五年 十二月	未詳	浄土宗大導寺 館林市館林			飯塚。口径一尺二寸。
五七四	一八九二	明治二十五年 八月	未詳	真言宗蓮葉院 館林市上早川田	佐野町 正田善一郎		飯塚。口径一尺九寸。
五七三	一八九一	明治二十四年 十月日	存	天台宗天龍寺 勢多郡赤城村三原田	前橋向町／鑄物師／鈴木藤次郎	陰	「上毛文化六五」A。第二次大戦中は火の見櫓で使用。総高五四、五、龍頭高一、五、口径三三、三、九七、六・一二調査。
五七二	一八九一	明治廿四年辛卯年三月十六日	供出	曹洞宗善龍寺 群馬郡箕郷町生原			「箕郷町誌」A（昭和五〇）。半鐘。
五七一	一八九〇	明治二十三年 三月	供出	真言宗観性寺 館林市館林			飯塚。口径一尺七分。
五七〇	一八八八	明治二十一年 八月	供出	時宗深諦寺 館林市木戸			飯塚。口径九寸一分。
五六九	一八八三	明治十六年 癸未	供出	真言宗真楽寺 高崎市江木町	高崎 小島信國		尾崎。
五六八	一八八三	明治十六末年 九月吉日	供出	曹洞宗龍華院 沼田市上発知			「利根郡誌」A（昭和五）。
五六七	一八八一	明治十四年 巳	供出	曹洞宗林徳寺 渋川市元町	鑄物師 下野佐野天明町 大川 太郎兵衛 同源七		尾崎。II五七と同じかもしれない。
五六六	一八八一	明治十四年	供出	曹洞宗常林寺 吾妻郡長野原町心桑			「嬬恋村誌」（昭和五二）。口径三尺余。天正年間、一七七六・一八五六年あり。
五六五	一八八〇	明治十三年歳次庚辰十月	供出	天台宗真光寺 渋川市並木町	金井鳥取 町田太向左衛門		尾崎。「上毛二九〇」。半鐘。鐘銘によると文政七年（一八二四）在銘鐘の再鑄。「上毛」は明治十年とするが、干支より十三年と判断する。II二七、一六六〇年あり。

五七七	五七八	五七九	五八〇	五八一	五八二	五八三	五八四	五八五	五八六	五八七
一八九三	一八九三	一八九四	一八九四	一八九四	一八九五	一八九五	一八九五	一八九六	一八九七	一八九七
明治廿六年十月廿日	明治二十六年十一月一日	明治廿七年甲午／年孟夏日 明治廿七年五月吉辰	明治廿七年午／十月吉日	明治廿七年／牛ノ十月吉日	明治二十八年九月五日	明治二十八年九月廿八日	明治二十八年十月	明治廿九年丙申年十一月吉日	明治三十年三月	明治三十年十月
存	未詳	供出	供出	供出	供出	存	存未	供出	供出	存?
天台宗清泉寺(甘楽郡下仁田町下仁田)	日蓮宗円教寺(館林市朝日)	曹洞宗養泉寺(桐生市芳町)	真言宗医光寺(群馬郡群馬町中泉)	天台宗妙典寺(高崎市小八木町)	曹洞宗安楽寺(邑楽郡千代田町赤岩)	曹洞宗橋林寺(前橋市住吉町)	日蓮宗法高寺(館林市朝日)	曹洞宗元景寺(前橋市総杜町植野)	真言宗願成寺(邑楽郡大泉町上小泉)	曹洞宗永明寺(邑楽郡邑)
	永島喜平	野刈佐堅町鑄造人／正田又右衛門			新潟縣越後国頸城郡／高田町／鑄造師 山岸九良兵衛			新潟縣越後国頸城郡／高田町鑄造師／山岸九良兵衛／藤原寛林		野州佐野 三木金太郎
陰		陽一部			陰					
総高五九、龍頭高一二、口径三三、五。九七・八・五調査。	飯塚。口径一尺三寸一分。	尾崎、船戸拓本、桐生図拓本、「毛野五三」、「桐生」。駒の爪(口辺底面)に辞世の句を陰刻。二五、七×二九、五。一七七一年あり。	「上毛二九三」。半鐘。	「上毛二九三」。半鐘。	飯塚。口径九寸九分。	鐘銘によると応永四年(一三九七)に鑄造され、嘉永五年(一八五二)に雷火で失われた鐘の代わりに鑄造された。本鐘は供出後、昭和二年、東京都八王子市森田徳次郎方にて発見され、橋林寺に戻った。鈴木繁(金石書道史)(昭和四五)。総高一二七、龍頭高二八、口径六九。一七六七年あり。八五・一一・二八調査。	飯塚。口径一尺三寸一分。	「総社町郷土誌」(明治四三)、「上毛二八六」B、「總社町誌」(昭和三二)。鐘銘によると第七世住職空月和尚が鑄造した元禄四年(一六九二)在銘旧鐘が破損し音色を損なったため改鑄。口径二尺四寸。一七五〇年あり。	飯塚。口径一尺一寸二分。	飯塚。口径一尺一寸。某火の見櫓にあるという風聞あり。

群馬県梵鐘年表稿

五九八	一九〇六	明治卅九年五月日	存	伊勢崎市美茂呂町火の見槽		陰	総高五二、龍頭高一、口径三九。九七・七・一七調査
五九七	一九〇六	明治参拾九年四月佛辰日鐘 供養執行	供出	真言宗浄蔵寺（新田郡尾島町下堀口）	東京市通油町 梅田仙吉		尾崎。彫刻師は東京市下谷区竹町津山衆吉。浄蔵寺蔵資料によると梵鐘購求は明治三十年八月、鐘樓建立は明治三十四年。総高四尺三寸、口径二尺三寸六分、重さ八五貫二百匁。一七一六・一七四四年あり。
五九六	一九〇五	明治卅八年	供出	曹洞宗光明寺（桐生市宮本町）			尾崎。
五九五	一九〇五	明治卅八年	供出	真言宗大慶寺（新田郡新田町大根）			尾崎。
五九四	一九〇四	明治三拾七年甲辰二月吉祥日	供出	臨濟宗如意寺（北群馬郡小野上村村上）			【北群馬・渋川の歴史】A（昭和四六）。鐘銘によると嘗て巨鐘（Ⅱ三三）があつたが、火災で失亡したという。
五九三	一九〇三	明治三十六年	未詳	曹洞宗全徳寺（勢多郡粕川村室沢）			【毛野五三】。
五九二	一九〇二	明治三十五年四月	存未	曹洞宗桂昌寺（勢多郡北橘村間壁）			【上毛文化六五】A。半鐘、高一尺三寸八分、龍頭三寸八分、口径九寸八分。一七二七年、Ⅱ一六あり。
五九一	一九〇二	明治三十有五寅四月／上流	供出	浄土真宗本然寺（桐生市境野町）	野州佐野町／大川房次郎	陽	尾崎、船戸拓本、桐生図拓本、【毛野五三】、【山田】、【桐生】。鐘銘によると宝永年間初鑄の鐘の改鑄。梵鐘。三三、四、×四〇。尚、船戸拓本は鑄物師の部分を欠く。
五九〇	一九〇一	明治三十四年四月／吉祥日	存未	真言宗大乘寺（群馬郡群馬町棟高）			【上毛二九三】。半鐘。
五八九	一九〇〇	明治三十三年五月	供出	日蓮宗本妙寺（伊勢崎市山王道）	再鑄司佐野住人 永嶋嘉平	陰一部	船戸拓本。鐘銘ならびに鐘銘に刻された旧鐘銘によると宝暦四年（一七五四）の旧鐘が万延元年（一八六〇）に破裂し、再鑄された。三五×三九、三。
五八八	一八九八	明治三十一年七月	未詳	地藏堂（邑楽郡千代田町）			飯塚。口径八寸。地藏堂については未詳。
		二月五日	未	楽町中野			り。

五九九	一九〇六	明治參拾九年 ／江湖會之日	存	曹洞宗竹芳寺（伊勢崎市 連取町）		陰一部 陽	総高四六、龍頭高九、口径二八、一八。縦帯に（保儉） 二字を陽鑄。一七七五年あり。九七・七・一七調査。
六〇〇	一九〇六 十一月	明治三十九年	存未	真言宗覚応寺（館林市 栄）	佐野町 大川房次郎		飯塚。口径一尺二寸五分。
六〇一	頃 一九〇六	明治三十九年	供出	大光院（太田市金山）			「上毛新聞」昭和一八年二月一九日記事。日露戦争記念 の鐘を供出。一六七〇年あり。
六〇二	一九〇八	明治四十一年	供出	真言宗南光寺（新田郡笠 懸村阿左美）	東京市 梅田		尾崎、岩澤拓本。鑄物師は東京市梅田仙吉、昭和廿八年 在銘南光寺鐘銘によると明治四一年七月吉辰鑄造。Ⅱ七 三あり。
六〇三	一九一〇	明治四十三年	供出	真言宗田満寺（桐生市西 久方町）			尾崎。一八一三年あり。
六〇四	一九一二 一月	明治四十五年	供出	曹洞宗常光寺（邑楽郡大 泉町中央）			飯塚。口径一尺一寸。
六〇五	一九一四	大正三年一月	未詳	浄土宗正龍寺（太田市八 重笠）			「山田」。梵鐘。
六〇六	一九一五 月	大正四年十一 月	未詳	曹洞宗授楽寺（邑楽郡千 代田町上中森）			飯塚。口径九寸。
六〇七	一九一六	大正五年四月	供出	浄土真宗聖蓮寺（渋川市 並木町）			「上毛二九〇」。半鐘。
六〇八	一九一九	大正八年一月 上流	存	天台宗普門寺（新田郡尾 島町世良田）	東京⑤	陰一部 陽	鐘銘によると宝曆十二年（一七六二）在銘鐘が破損した ために新鑄。総高六四、龍頭高一、口径三一。一六八 一年。九七・七・三〇調査。
六〇九	一九一九	大正八年	供出	真言宗金剛寺（勢多郡宮 城村苗ヶ島）		陰一部 陽	「毛野五三」。光明真言を陽鑄。一七六二・一八〇〇年 あり。
六一〇	一九二〇	大正九年七月 吉祥	存	臨濟宗香集寺（前橋市上 小出町）		陰	「上毛文化六五」。総高四六、龍頭高八、五、口径二 八、七。九七・七・二九調査。
六一一	一九二〇	大正九庚申年	存	曹洞宗長善寺（勢多郡大 下野國佐野町／大川房次郎		陽一部	尾崎、「毛野五三」、「大胡町誌」A（昭和五二）。縦帯に

群馬県梵鐘年表稿

六二二	六二〇	六一九	六一八	六一七	六一六	六一五	六一四	六一三	六二二	
一九二八	一九二八	一九二七	一九二六	一九二五	一九二四	一九二三	一九二二	一九二二	一九二二	
昭和三年戊辰 六月十一日	昭和三年戊辰 至彼岸日	昭和二年五月 日	大正十五年?	大正十四	大正十三年二 月十九日	大正十二年四 月	大正十一年秋 /分日	大正十辛酉年 十二月吉祥日	大正十年六月 吉祥日	十月授戒會日
存	存未	存未	供出	供出	供出	供出	不明	供出	供出	
曹洞宗龍泉院(邑楽郡大 泉町上小泉)	曹洞宗神守寺(富岡市宇 田)	祐天堂(邑楽郡板倉町石 塚)	天台宗日輪寺(山田郡大 間々町浅原)	曹洞宗最善寺(前橋市東 大室町)	真言宗薬王寺(桐生市相 生町)	天台宗長安寺(佐波郡東 村西小保方)	曹洞宗龍源寺(多野郡万 場町生利)	曹洞宗長岡寺(太田市西 長岡甲)	曹洞宗観音寺(桐生市川 内町)	胡町堀越)
				京都市 高橋才治郎	東京市 梅田製	栃木縣佐野町/大川房次郎	京都市/高橋才治郎	下野國佐野町大川房次郎	京都三條小橋/藤山三法堂	
陰		陰	陰 陽一部			陰 陽一部	陽	陰	陰 陽一部	陰
飯塚。総高五二、龍頭高一、口径三〇、五。Ⅱ五〇あり。九七・七・三一調査。	「甘楽史観」A。半鐘。供出後、戻った。	「民間信仰としての板倉町の石造物と鑄造物」A(昭和五七)。総高五二、口径三〇、五。祐天堂は石塚集会所にある。一七七三、一八三二年あり。	船戸拓本、「群馬県山田郡誌」(昭和一四)。鐘楼は大正十五年に竣工。三三×三九。拓本は紀年を欠く。鐘楼竣工時に新鑄されたと推測される。	尾崎。一八〇三年あり。	「山田」。高一尺四寸八分、径九寸二分。一七〇五年あり。	船戸拓本。三四×三七、五。	石田・鈴木「内藤湖南書丹の龍源寺鐘銘について」A写真(書論)一一、一九八三年。内藤湖南の撰文書丹。口径二尺二寸。供出されたが、戦後、鑄潰されず某所にあるという知らせがあったといわれる。	尾崎、「毛野五五」A。	船戸拓本、「山田」、「毛野五三」。高三尺一寸、径二尺五寸。二七、二×三四、三。	陰刻で鑄物師名あり。総高一四二、龍頭高三一、口径七六。この寺の住職は豊國覺堂であった。九七・七・二四調査。

【表Ⅱ】 無紀年・紀年末詳・紀年不明

番号	西暦	紀年	存亡	所在地	鋳物師	陰陽	備考
一			存	浄土真宗妙安寺（前橋市千代田町）	吉久／大工想社住人藤原／伊清	陰	尾崎、船戸拓本、『便覧』（県三〇・一・十四）、『集成』A、『群馬の文化財』美ふるさとを誇る』写真（昭和六〇）。室町時代末期と推定される。総高一一六、龍頭高二四、五、口径六九。八二・一〇・二九調査。
二			供出	曹洞宗長年寺（群馬郡榛名町下室田）			【室田町誌】（昭和四二）。
三			供出	天台宗大福寺（群馬郡榛名町下室田）			【室田町誌】（昭和四二）に、明治三十一年の「寺院所有物明細帳」に鳥鐘壹個とあり。供出かは未詳なるも、佚亡しており、一応、供出と判断する。
四			供出	元真言宗松仙寺（群馬郡榛名町下室田）			【室田町誌】（昭和四二）。この寺は明治四二年に上室田の茂林寺無量院に併合し、以後廃寺となる。鐘楼は昭和四一年現在あり。
五			亡	天台宗般若院（群馬郡榛名町中室田）			【室田町誌】（昭和四二）に引く『稿本室田町郷土誌』に鐘楼あり。明治維新の廢仏毀釈の折に佚亡したと推測される。

六二二	一九二八	昭和三年六月	未詳	浄土宗善導寺（館林市楠町）			飯塚。口径一尺二分。一六七六・一七三六年あり。
六二三	一九三二	昭和七 壬申	存未	曹洞宗龍広寺（高崎市若松町）		京都 高橋才治郎	尾崎。昭和の名鐘ということで供出を免れる。殿鐘（二一〇五）あり。
六二四	一九三三	昭和八年十一月四日	供出	曹洞宗松安寺（邑楽郡板倉町海老瀬）			飯塚。口径五寸九分。
六二五	一九三四	昭和九年五月	存未	笠懸町消防団第二分団の火の見櫓（新田郡笠懸町鹿田）			【笠懸村誌】別巻二A（昭和五八）。総高三五、口径二五。
六二六	一九三九	昭和十四年八月孟蘭盆	供出	曹洞宗龍門寺（群馬郡箕郷町東明屋）			【箕郷町誌】A（昭和五〇）。小型半鐘。一六三四年あり。
六二七	一九四三	昭和十八癸未八月	存未	吾妻郡高山村新田	鑄物師群馬郡尾村字白井阿久沢 要造		【群馬県吾妻郡高山村誌】（昭和四七）。半鐘。

群馬県梵鐘年表稿

一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六
供出	亡	亡	未詳	存未	供出	供出	供出	存未	供出	存未	供出	亡
曹洞宗大雲寺（高崎市九蔵町）	天台宗善勝寺（前橋市端気町乙）	曹洞宗桂昌寺（勢多郡北橋村真壁）	真言宗浄明院（利根郡月夜野町 旧古馬牧村大字師）	浄土宗安養寺（沼田市石墨）	浄土宗安養寺（沼田市石墨）	浄土宗本光寺（伊勢崎市宮三光町）	臨濟宗伝宗寺（富岡市星田）	浄土真宗蓮照時（富岡市富岡）	天台宗吉祥寺（甘楽郡南牧村星尾）	天台宗吉祥寺（甘楽郡南牧村星尾）	曹洞宗龍光寺（勢多郡粕村女淵）	浄土宗永心寺（富岡市七日市）
川野辺寛「高崎志」に鐘楼あり。殿鐘（Ⅱ一九）あり。	慶応二年の火災で、殿鐘が佚亡。	「北橋村誌」（昭和五〇）、都丸拓本などの桂昌寺鐘銘によると、旧鐘が破損したため、享保十二年（一七二七）に再鑄した。一九〇二年あり。	「利根郡誌」（昭和五）に釣鐘あり、とある。	殿鐘。	「利根郡誌」（昭和五）に、岡村氏三名が梵鐘を寄附した、とあり。	「上野国伊勢崎郷土誌」（明治四三）。観音立像百体を鑄造する。一八七八年あり。	深澤武「甘楽野古寺巡参」（昭和五八）。	殿鐘（戦前のものは未確認）。	殿鐘。（Ⅱ八有り）。	殿鐘（Ⅱ九）を供出後、火の見櫓の半鐘が納められた。	「粕川村百年史」（平成六）。七貫二百匁、二〇円で供出。	「群馬県北甘楽郡史」（昭和三）。古くは観音堂に半鐘があったといわれる。

一九																		曹洞宗大雲寺（高崎市九蔵町）	殿鐘。Ⅱ一八あり。
二〇																		曹洞宗長松寺（高崎市赤坂町）	川野辺寛「高崎志」に鐘樓あり。殿鐘（Ⅱ二一）あり。
二一																		曹洞宗長松寺（高崎市赤坂町）	殿鐘。Ⅱ二〇あり。
二二																		高崎城時報鐘	高崎城西丸にあった鐘。貞享三年（一六八六）、改鑄して朝町の時報鐘とした。
二三																		曹洞宗長純寺（群馬郡箕郷町富岡）	「箕郷町誌」（昭和五〇）の長純寺鐘銘によると、宝永八年（一七一二）在銘鐘以前に鐘があったが寺運振るわず佚亡したという。
二四																		曹洞宗金龍寺（群馬郡箕郷町上芝）	「箕郷町誌」（昭和五〇）の金龍寺鐘銘によると、鐘があったが、明和六年（一七六九）に再鑄された。
二五																		天台宗長寿院二十三夜勢至堂（沼田市材木町甲）	昭和三十九年に二十三夜勢至堂の鐘樓を飛び地から長寿院に移築した。殿鐘（Ⅱ二六）あり。
二六																		天台宗長寿院（沼田市材木）	殿鐘。Ⅱ二五あり。
二七																		天台宗真光寺（渋川市並木町）	真光寺万治三年（一六六〇）在銘鐘の鐘銘によると、鐘を再興したとあり、万治三年以前に鐘があったことがわかる。一八二四・一八八〇年あり。
二八																		曹洞宗宝積寺（甘楽郡甘楽町轟）	「甘楽史観」の寛政八年（一七九六）在銘宝積寺鐘銘によると、旧鐘は寛政二年に火災に遭い佚亡した。Ⅱ九三あり。
二九																		曹洞宗高源寺（藤岡市東平井）	「藤岡市史 資料編 近代・現代」（平成六）に引く昭和五十二年銘高源寺鐘銘による。
三〇																		曹洞宗雙林寺（北群馬郡子持村中郷庚）	「北群馬・渋川の歴史」（昭和四六）に引く寛文四年（一六六四）在銘雙林寺鐘銘に、旧鐘があったが、壊れて音が出なくなつたと見える。Ⅱ三一、一八二八年あり。
三一																		曹洞宗雙林寺（北群馬郡子持村中郷庚）	「北群馬・渋川の歴史」（昭和四六）に引く文政十一年（一八二八）在銘雙林寺殿鐘鐘銘に小鐘があったが撞破したと見える。Ⅱ三〇、一六六四年あり。

三二					亡	臨濟宗空惠寺 (北群馬郡子持村白井)				「北群馬・渋川の歴史」A (昭和四六)、「天雲山空惠禪寺」A (昭和六三)に引く延宝四年(一六七六)在銘空惠寺鐘銘に、永禄年間に火災で佚亡したことが見える。一六七六年二口あり。
三三					亡	臨濟宗如意寺 (北群馬郡小野上村村上)				「北群馬・渋川の歴史」(昭和四六)に引く明治三十七年(一九〇四年)在銘如意寺鐘銘によると、巨鐘があったが火災で佚亡した。
三四					亡	真言宗照明寺 (新田郡新田町反町)				嘉永二年(一八四九)在銘照明寺鐘銘によると、正徳丁巳に火災で佚亡した。
三五					亡	前橋総鎮守八幡宮 (前橋市本町) 別当神宮寺 (現在麁寺)				「ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和 前橋」(昭和五四年)。江戸時代初期、前橋時報鐘樓に貸し出す。時報鐘樓には元禄十七年(一七〇四)に新鐘が鑄造された。
三六					供出	曹洞宗雙松寺 (吾妻郡高山村中山)				「群馬県吾妻郡高山村誌」(昭和四七)。殿鐘。一六七三・一七七〇年あり。
三七					供出	浄土宗法信寺 (吾妻郡高山村中山)				「群馬県吾妻郡高山村誌」(昭和四七)。殿鐘。
三八					供出	吾妻郡高山村関山	高崎市鈴木製。			「群馬研吾妻郡高山村誌」(昭和四七)。半鐘。
三九					供出	吾妻郡高山村戸室				「群馬県吾妻郡高山村誌」(昭和四七)。半鐘。
四〇					供出	真言宗立石寺 (藤岡市立石)				「多野藤岡地方誌」(昭和五一)に慶応元年(一八六五)に鐘樓を再建したとある。
四一					供出	浄土宗浄泉寺 (多野郡新町)				「多野藤岡地方誌」(昭和五一)に明和七年(一七七〇)に鐘樓を建立したとある。
四二					存未	浄土宗浄泉寺 (多野郡新町)				殿鐘。
四三					亡	曹洞宗宗玄寺 (勢多郡赤城村勝俣沢)				「上毛文化六五」の寛政十一年(一七九九)在銘宗玄寺鐘銘によると、大鐘があったが火災のために鳴らず、一七九九年に改鑄した。
四四					供出	曹洞宗龍藏寺 (前橋市龍藏寺町)				「上毛文化六五」。半鐘。慶安年間、一七二五年あり。

五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	五〇	四九	四八	四七	四六	四五
供出	亡	供出	供出	亡	供出	存未	供出	供出	存未	未詳	供出	未詳
曹洞宗林徳寺(洪川市)	曹洞宗全透院(群馬郡倉淵村三ノ倉)	真言宗萬徳寺(高崎市中大類町)	西光院趾(邑楽郡板倉町海老瀬)	真言宗南光院(邑楽郡板倉町西岡)	曹洞宗清水寺(勢多郡東村神戸)	曹洞宗清水寺(勢多郡東村神戸)	曹洞宗龍泉院(邑楽郡大泉町上小泉)	真言宗有泉寺(邑楽郡明和村須賀)	曹洞宗茂林寺(館林市堀江)	金剛院(邑楽郡明和村江黒)	真言宗地藏院(邑楽郡板倉町飯野)	曹洞宗正念寺(勢多郡赤城村檜)
		作者中林儀兵衛 同次郎兵衛 同三 郎右衛門						七 佐野新町 新井源	佐野天明大工 井上元峰		佐野天明 大川四郎次	
			陰一部 陽									
【上毛一九〇】。一五六七(一八八一年)と同じかもしれない。	【上毛二八九】に引く全透院明和九年(一七七二)在銘鐘鐘銘に、小鐘があったが響きが役に立たなかった、と見える。	【毛野四七】。半鐘。	飯塚。【毛野四六】Aに「前の銘文は悉く潰されて現在のものは再刻されたものである」とある。梵字陽鑄。口径二尺八寸で邑楽郡随一の大きさという。西光院については未詳。	【毛野四六】に引く天保十四年(一八四三)在銘南光院鐘鐘銘によると、天保十四年より五十年前に古鐘が破壊し、改鑄したという。	鐘樓の鐘。	【毛野二九】。殿鐘。	飯塚。口径二尺二寸。一九二八年あり。	飯塚。口径一尺三寸。	飯塚。口径一尺三寸三分。一六九四・一八五一年あり。	飯塚。口径一尺七寸。	飯塚。口径一尺三寸。一八七〇年あり。	【上毛文化六五】。半鐘。

七〇	存末	真言宗延命寺(伊勢崎市馬見塚)				殿鐘。戦時中、火の見櫓の半鐘として使用、現在、延命寺前の伊勢崎消防団第十七分団の火の見櫓にあり。一七四七年あり。
七一	供出	真言宗成願寺(太田市牛沢)				
七二	供出	真言宗円養寺(太田市小舞木町)				
七三	存	真言宗南光寺(新田郡笠懸村阿左美)		陰		【笠懸村誌】別巻三A(昭和五八)。総高五四、竜頭高一、口径三三。江戸時代後期と推定。一七五五・一九〇八年あり。九七・七・二九調査。
七四	亡	真言宗總持寺(新田郡世良田)				元禄十七年(一七〇四)在銘總持寺鐘銘によると、岩松源義元が板鐘を寄進したが、音が絶ったために元禄十七年に再鑄された。一七三一年あり。
七五	存	真言宗光恩寺(邑楽郡千代田町赤岩)	所	陽		鐘楼にあり。総高五三、龍頭高一〇、口径三〇、五。一七〇三・一七四七年、Ⅲ八あり。九七・七・三一調査。
七六	存	曹洞宗洞源寺(邑楽郡千代田町萱野)		陽		縦帯に「保険」と陽鑄。明治期のものであろう。総高五七、五、龍頭高一二、五、口径三三、一。一七七九年あり。九七・七・三一調査。
七七	存末	曹洞宗龍源寺(勢多郡粕川村膳)				殿鐘。一六七三年あり。
七八	存末	臨濟宗真光寺(伊勢崎市今井町)				殿鐘。一六九三年あり。
七九	供出	曹洞宗善勝寺(高崎市西横手町)				殿鐘。一七〇二年あり。
八〇	不明	単立永明寺(明館林市赤生田)				第二次大戦中、火の見櫓の半鐘として使用、その後行方不明。一七一〇年あり。
八一	供出	浄土宗受樂寺(太田市金山)				殿鐘。一七一九年あり。
八二	存末	曹洞宗広福寺(利根郡新治村上羽場)				殿鐘。一七一九年あり。
八三	存末	曹洞宗釈迦尊寺(前橋市元総社町)				殿鐘。第二次大戦中、火の見櫓の半鐘として使用された。一七四九年あり。

群馬県梵鐘年表稿

八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七
存未	存未	存未	存未	存未	供出	存未	存未	供出	存未	存未	存未	存未	存未
真言宗常楽寺(館林市木戸)	真言宗常楽寺(館林市木戸)	真言宗金剛寺(碓氷郡松井田町新堀)	天台宗東楊寺(新田郡尾島町大館)	曹洞宗如意寺(利根郡月夜野町上津)	曹洞宗長桂寺(勢多郡富士見村漆久保)	天台宗善雄寺(勢多郡東村萩原)	臨済宗清雲寺(桐生市梅田町)	真言宗長勝寺(太田市高林南)	曹洞宗宝積寺(甘楽郡甘楽町轟)	時宗円福寺(邑楽郡千代田町舞木)	天台宗浄法寺(多野郡鬼石町浄法寺)	真言宗正福寺(太田市富沢)	真言宗地藏寺(邑楽郡明和村新里)
殿鐘。一七三三年あり。	喚鐘。木戸の火の見櫓にあり。一七三三年あり。	殿鐘。一七五二年あり。	殿鐘。第二次大戦後、村にあった鐘を持ってきたもので、東楊寺のものではない。恐らく火の見櫓で使用されていたものであろう。一七五九年あり。	殿鐘。一七六〇年あり。	殿鐘。一七六〇年あり。	殿鐘。一七六五年あり。	殿鐘。一七八四年あり。	殿鐘。一七九二年あり。	殿鐘。一七九六年あり。	殿鐘。第二次大戦中、火の見櫓で使用されたもので円福寺のものではないといふ。一八〇二年あり。	殿鐘。火の見櫓で使用されていたものが返還された。一七九九年あり。	殿鐘。	殿鐘。一八三五年あり。

【表Ⅲ】 無銘

番号	西暦	紀年	存亡	所在地	鋳物師	陰陽	備	考
一			存	曹洞宗長学寺 岡市上高尾			【便覧】(県二三・二三・二三)、【群馬の文化財―美ふるさとを誇る】写真(昭和六〇)。昭和十七年の追銘あり。総高二二、五、龍頭高二五、五、口径六二。室町時代。八二・二〇・二九調査。	
二			存	浄土宗龍光寺 岡市富岡			【便覧】(県二六・十・五)、【群馬の文化財―美ふるさとを誇る】写真(昭和六〇)。昭和十七年の追銘あり。総高二一七、龍頭高二六、口径六五、八。室町時代。八二・二〇・二九調査。	
三			供出	天台宗実相寺 岡市南蛇井			【群馬県北甘楽郡史】(昭和三三)。寺の縁起によると、無銘の頗る古いものあり。	

九八			存末	真言宗不動寺 貝沢町			殿鐘。一七一九年、元治年間あり。	
九九			存末	臨濟宗龍谷寺 月夜野町師			殿鐘。一七六六年あり。	
一〇〇			供末	曹洞宗永泉寺 倉賀野町			殿鐘。正徳年間あり。	
一〇一			存末	曹洞宗高園寺 梅田町			殿鐘。一七四六年あり。	
一〇二			存末	浄土宗雲晴院 市日之出			殿鐘。	
一〇三			存末	臨濟宗西方寺 梅田町			殿鐘、大正の頃のもの。承応年間、一七〇五年あり。	
一〇四			存末	曹洞宗天増寺 市昭和			殿鐘。一六五三年あり。	
一〇五			供出	曹洞宗龍広寺 若松町			殿鐘。一九三三年あり。	

四	存未	浄土宗長寿院(新田郡笠懸村阿左美)	【笠懸村誌】別巻三(昭和五八)。総高四四、口径三〇。
五	供出	天台宗遍照寺(洪川市並木町)	【上毛二九〇】。半鐘。
六	存	真言宗退魔寺(伊勢崎市美茂呂町)	殿鐘。総高七四、龍頭高一六、口径四二、五。江戸後期と推定。一七六七・一七九六年あり。九七・七・一七調査。
七	存	真言宗西慶寺(太田市鳥山番外)	殿鐘。総高五四、龍頭高一、五、口径三〇、二。江戸後期と推定。一七四二年あり。九七・七・三〇調査。
八	存	真言宗光恩寺(邑楽郡千代田町赤岩)	殿鐘。総高四六、龍頭高一〇、口径二六、六。一七〇三・一七四七年、II七五あり。江戸後期と推定。九七・七・三一調査。

(丁丑九月二日稿)

追記一 『群馬県史 資料編8』(昭和六三)は寛元三年在銘慈光寺鐘(埼玉県比企郡都幾川村)と寛正四年在銘小宮神社鐘(東京都秋川市北小宮)をあげるが、本年表稿では取りあげない。

追記二 【表II】に、

一〇六	供出	曹洞寺昌雲寺(伊勢崎市堀口町)	【表I】七五参照。
-----	----	-----------------	-----------

を追加する。

(戌寅一月三日)